

銀河戦国群雄伝

9

ライ



真鍋譲治

Dengeki Comics

Dengeki

11月

銀河戦国群雄伝

ライ

9

真鍋譲治

D6-5-9

発行
メディアワークス
編集
主婦の友社



9784073009207



1910379009506

ISBN4-07-300920-6

C0379 P950E

DENGEXI COMICS EX

フォーチュン・クエスト ①② 著 野田 浩幸
原案 渡辺 武史エンジェルアーム ①～③ 衣谷 遊ダンジョン・マスター 栗橋 伸祐電撃摩訶羅海賊本 ① 田島 昭宇
with MADARA PRODUCE電撃摩訶羅海賊本 ライ ①～⑨ 真鍋 譲治イース ⑤⑥ 羽衣 翔MADARA 赤 LASKA ①② 田島 昭宇MADARA 巻 ①② 田島 昭宇電撃丸 ① 衣谷 遊・夢来島ねむ・MEIMU他KISS MEIMU・今岡あきよし・大崎 拓
COMIC STORY NOVEL緋翔伝 幾千の月のかけら ① 夢来島ねむ幼椎園戦記まだら 梶尾 征久
with MADARA PRODUCE

DENGEXI COMICS

ローンナイト2 ①～③ 吉室 裕仁ヤンキーTURBO 一番強の雄姿 山本 ぶしむみトライアルかおる! ① 山本 ぶしむみサボテンロード ②③ 迎 夏生爆れつハンター ①② 田島 昭宇
あかほりさとる物の怪らんちき戦争 ①～④ 夢来島ねむ

ミュータント・タートルズ ①～⑥

アクトイ
ヒーローコミック

毎月27日発売

RAI

BY JOJI MANABE



9

銀河戦国群雄伝



●ARTIST
JOJI MANABE

●EDITOR
NAOAKI ARAKAWA
YOSHINARI FUJITA
ANRI KOMATSU

●BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

●SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
HIROYUKI HIRAYAMA
YOSHIKI MORISHITA
TOSHIMICHI OKITA

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

【電我雷】

りゅうがらい



本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼牙に買われて一兵卒より師団長に抜擢され、五丈軍先鋒として南天に雪崩込む。南天軍の前線を突破するや、大暴れして要衝座王都に一番乗りを果たし、その勇名は敵味方に響き渡る。退却戦において正宗に一騎討ちを挑むが破れ、瀕死の重傷を負うが、その傷が癒えぬうちに、元宮廷勢力による反乱の鎮圧に出動し、たちまちのうちに制圧する。その功により騎都尉に昇進、国境の要衝南京楼に太守として赴任する。初めて地盤を得た雷は、その地で希代の天才、師真を自軍に軍師として迎

え、また、皇室の娘紫紋を妻に迎えるや、すぐさま中央に反旗を翻し、挙兵する。

【雲海入道】

うんかいにゅうどう



雷の長年の戦友。かつては高僧に仕える身分でもあったが大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが雷にとつては最も頼りになる豪傑である。終始、雷と行動を共にし、右腕として活躍する。

雷の密令を受け、暴政下の武王都に残り、麗羅の保護を依頼される。

【太助】

たすけ

雷と同郷であり、幼い頃から雷を兄として慕う。その小さな体に似合わず、雲海と共に各戦場を転戦、修羅場をくぐり抜けた強者でもある。この度の偽帝討伐戦においては、帝都奇王都奥深く入り



込み、師真と図って、敵謀将骸延の失脚を画策するなど、身軽さを生かした活躍が光る。

【大覚屋師真】

だいがくや しん

南京楼の豪商大覚屋の放蕩息子。普段は酒色に溺れ、甚だ評判が悪い。だがその知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。自分自身もその知謀で天下を動かすことを夢み、並みいる諸侯からの度重なる招きを全て固辞し、時を待つ。やがてその南京楼に雷が赴任、紫紋に横恋慕した師真は、城に出入りし、次第に雷に傾倒していく。雷挙兵時には、軍師としてその才覚を余すことなく発揮する。



【紫紋】

しもん

敗将阿曹主禪の一人娘。皇室の血を引く唯一人の王女故に悲しい運命にもて遊ばれる悲劇

の娘である。

実の父阿曹主
禪を雷に殺さ
れ、五丈に身
柄を引き取ら
れ、恩賞とし
て敵でもある
雷の元に預け
られる。だが雷とはそれを乗り越え深い愛情
を寄せ合う。その後も雷を陰日向に支えてい
く気丈な娘である。



【孟閔】

もうかき



冷静で勇猛な剛将で、南征以後、常に副官と
して経験不足の雷を適切に補佐する。歴戦の
強者であり、
その豊富な戦
歴に裏打ちさ
れた知識を基
に、よく雷を
助け、その覇
業に重きをな
す。

【三楽斎】

さんらくさい

南京楼軍の武將。主人運が無く、自分の出世
のために各赴任地を転々とする。その処世術
のために孟閔らにはよく思われていないが、

彼自身極めて有
能な官僚であり、
弁舌の才をもつ
て雷を補佐し、
外交、内政面
において活躍する。
能吏派軍人。

【鍾士元】

しょうしげん

南京楼軍の武將。
雷の師団長時代
以来の宿将。勇
猛果敢、常に先
鋒を受け持った
が、師真のよう
な新参者とは反
りが合わず、常に対立するが、初戦において
師真の知謀を認め、その指揮下に入る。



【姚文】

ようぶん

南京楼軍の武將。鍾士元らと共に雷の股肱の
臣である。やは
り師真らとは合
わなかったが、
その命には逆ら
わず、よく戦い、
懋羅討伐の前哨
戦を勝利に導く。



【項焉】

こうえん

南京楼軍の勇將。南天との国境近くに根拠を
持ち、部下三千を従える大海賊。やがて雷の

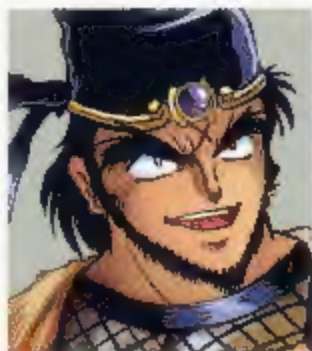


度量の大きさに感服して一族郎党共々帰順、齢七十になんなんとするが、水を得た魚のように活躍する。

【項武】

こうぶ

項焉の息子で怪
力無双の暴れ者。
八十斤はあろう
大斧を片手で軽
く振り回す豪傑
である。父と共に
雷に帰順し、
その武勇を買われ、常に先鋒を任される。多
分に深慮遠謀が欠けるところもあったが、千
軍万馬の強者である。



【林則嘉】

りんそくか

南京楼軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰



にも相手にされずにいたが、城内に出入りしているうちに師真に見出され、雷輔翼の人物として師真と双璧をなす。天才肌の師真に対して、地味ながらその誠実さをもって数々の献策をし、雷の地盤の発展を図る。だが師真の唱える「覇」には疑問を持つ。

大覚屋英真

だいがくや
えいしん

師真の四つ下の弟で、大覚屋の跡取り。兄師真のような縦横無尽の才略には欠けるものの、その思慮深く、篤実な人となりで多くの人に一目置かれた。父の後を継ぎ、雷を財政面で強く援助する。

骸羅

がいら



五丈四天王の一人。身の丈2尺以上の体格と怪力の持ち主。一騎当千の武將で各地を転戦、弾正の死後、対立する玄偉、鳳鳴二将を切り、麗羅を立てて全権を掌握。ついには皇帝の座も手にする。その政治は悪政を極め、宮内は酒池肉林の世界と化し、五丈の民に塗炭の苦しみを強いることになる。

骸延

がいえん



骸羅二兄弟の末弟。武勇一辺倒の兄達とは違い、華玉と共に李張の元で学んだ知謀の士であり、将来を囑望されていた。兄骸羅の武勇を背景に天下取りを画策し、麗羅を担ぎ上げ五丈中枢を乗っ取る。また、練との秘密軍事同盟を締結、正宗を失脚させる。骸羅の帝位篡奪により丞相に就任。無類の権謀家である。

骸山

がいざん

骸羅二兄弟の次兄。兄骸羅と共に幾多の戦場を渡り歩いた武人であり、無双の剣の使い手である。いわば戦のプロとして、今までの生涯を戦陣のうちに送ってきた骸羅軍きっての猛将である。



武倒国

ぶとうこく



偽帝骸羅軍の武將。旅順陥落後、討伐軍の指揮官として出陣。大堡屯に堅陣を敷き、南京樓軍

を迎撃する。善戦するものの、師真の策に破れ、斬首される。

麗羅 れいら

男勝りの五丈の王女。彈正という強大な権力を背景に我がまま放題である。雷には興味を持ち、紫紋とよく対立し、反乱の罪をかぶせて殺そうとした。彈正の死後、骸羅と結び五丈を乗っ取る。



狼刃 ろうは

五丈四天王の一人。知勇を兼ね備えた女将であり、雷の才能を早くから見抜き、その行く末を暖かくかつ厳しく見守る。女傑正宗に刺



激され、南天進攻の先鋒を買って出て雷にその先陣を任し、麾下の第二軍を率いて南天に雪崩込む。敗戦の責任を取らされるが後復職。雷に南京楼赴任を勧め、時を待つように諭す。骸羅の親政中に、軍最高司令官である大元帥に就任。雷との師弟対決が迫る。

五虎將軍 ごごしょうぐん



西羌国境を守備する五人の猛将たち。精銳軍ではあったが、決してその守備位置を動くことは許されなかった。しかし、



南京楼軍の急進撃によって、急遽、狼刃の指揮下に入る。

（上段右より、征西將軍・白鬼、鎮西將軍・

王政、下段右より、牙門將軍・亮嚴格、安征將軍・武備、平西將軍・魏相如）

羅候 ろこう

練国国王。父羅鶴の死後、兵権を受け継ぐ。最初は南天の大国、智に従属していたが、徐々に勢力を広げ、正宗にも一目置かれる存在になる。南蛮王国王女、邑峻を嫁取り、その地盤を強固なものにする。正宗の北伐時には、隙を突き、南帝閣を占拠、虎丸を智王に立て、正宗の失脚を図る。



邑峻 ちゅうしゅん

南蛮王琉瑛馬洲の一人娘。羅候とは許婚の仲である。南蛮王国との連携を強めるために羅候の元に興入れする。百人に及ぶ女兵士を従



えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、花嫁修行は熱心だった。得意料理は七色餃子のてんこ盛り。

姜子昌

きょうししょう

練国きつての名将。若くして、練軍の大都督に任じられ、羅候を補佐し練国の発展に尽力する。正宗による早期銀河統一を阻止するべく画策



幼王虎丸を立てて正宗を失脚に追い込むのに成功する。

蹄庖

ていぼう

練の若き武將。姜子昌の右腕とも言われるのが参軍校尉蹄庖である。知勇に秀でて、賀、五丈、南蛮に囲まれた羅候を助け、奮闘する。



玄偉

げんい

五丈四天王の一人で練腕の謀臣。帝国崩壊後の戦乱の中、元帝国側の有力な武將であったが、早くに帝国の再興に見切りを付け、弾正側に寝返り、弾正に重く用いられる。骸羅の

反乱の際、華玉

鳳鳴共々、殺害

されたと思われ

ていたが、某所

での生存が、骸

延の知るところ

となる。



華玉

かぎよく



下人にするため、同じく骸羅の知恵袋の骸延としてのぎを削る。骸羅の反乱の混乱時に、玄偉と共に消息不明。

蘭々

らんらん

華玉の妹。共に李張の元で学ぶ。道士としての能力は未知数だが、今は紫紋の元で身の回りの世話をしている。幼



い割りにはしっかりしていて、荒くれ者の印象がある雷の元に嫁ぐ紫紋の身を案じていたが、今では雷を少しは見直したようである。

独眼竜正宗

どくがんりゅう まさむね



父先代正宗の死後、弟虎丸を擁して智の国の国政を司る。女将ながらその戦略行動力で、南天連合軍の盟主として五丈の南征を頓挫させた。戦後、南天の統一に専念。事実上、それを成し遂げる。しかし、その後の北伐中に、練の陰謀による造反が勃発。失脚する。

虎丸

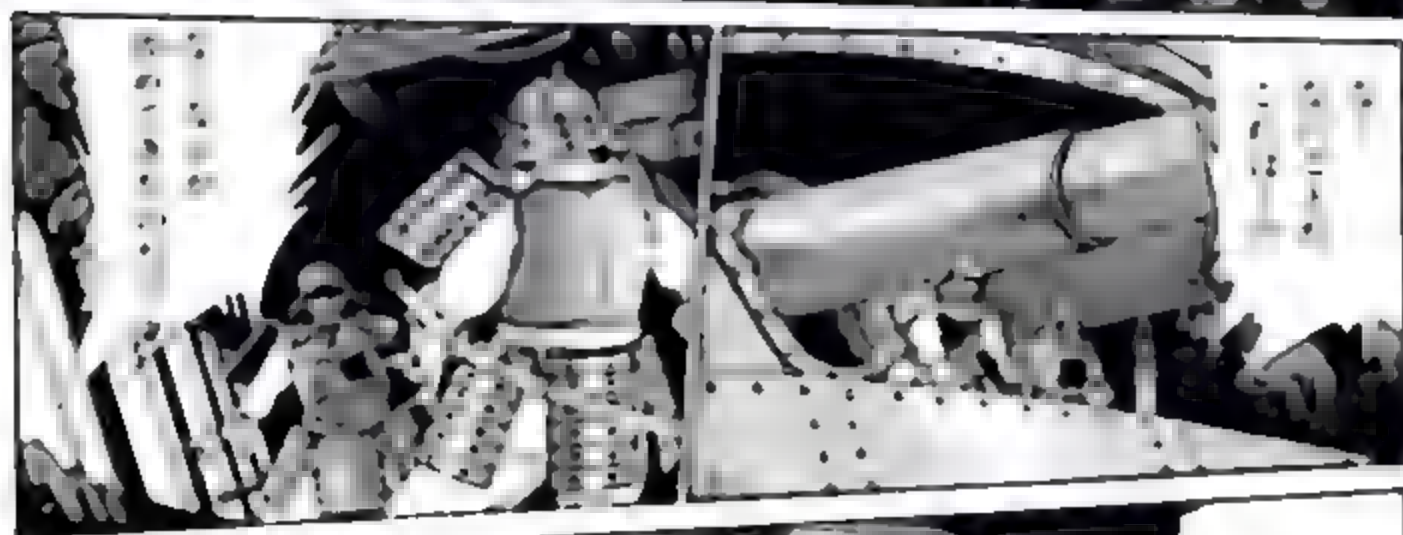
とらまる



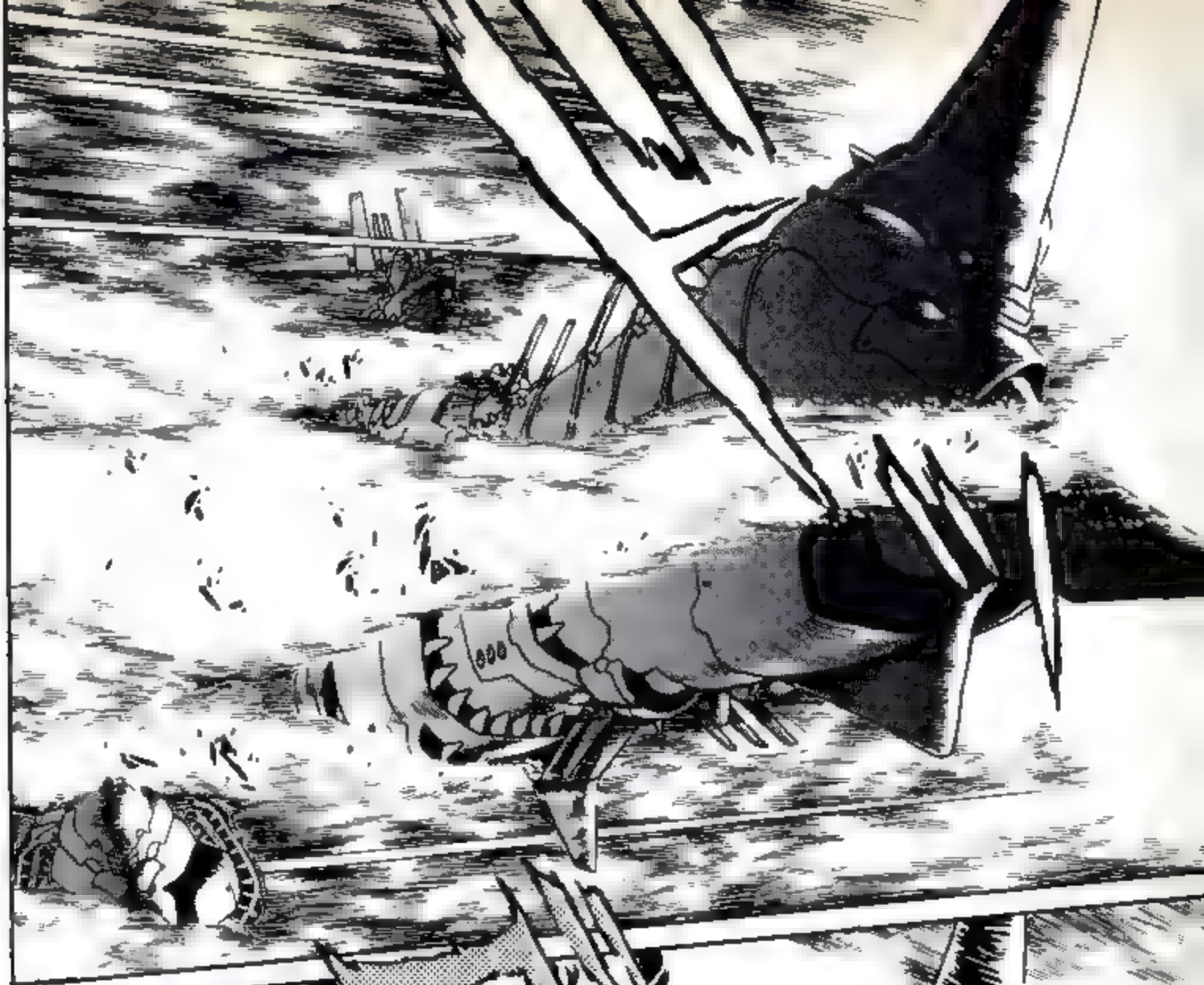
正宗の弟。智の嫡子である。国政、軍事を姉である正宗に全て任せているが、正宗の命により、練の羅候との修好のために義兄弟の契りを結ぶ。北伐の際、正宗失脚のために智王に祭り上げられる。









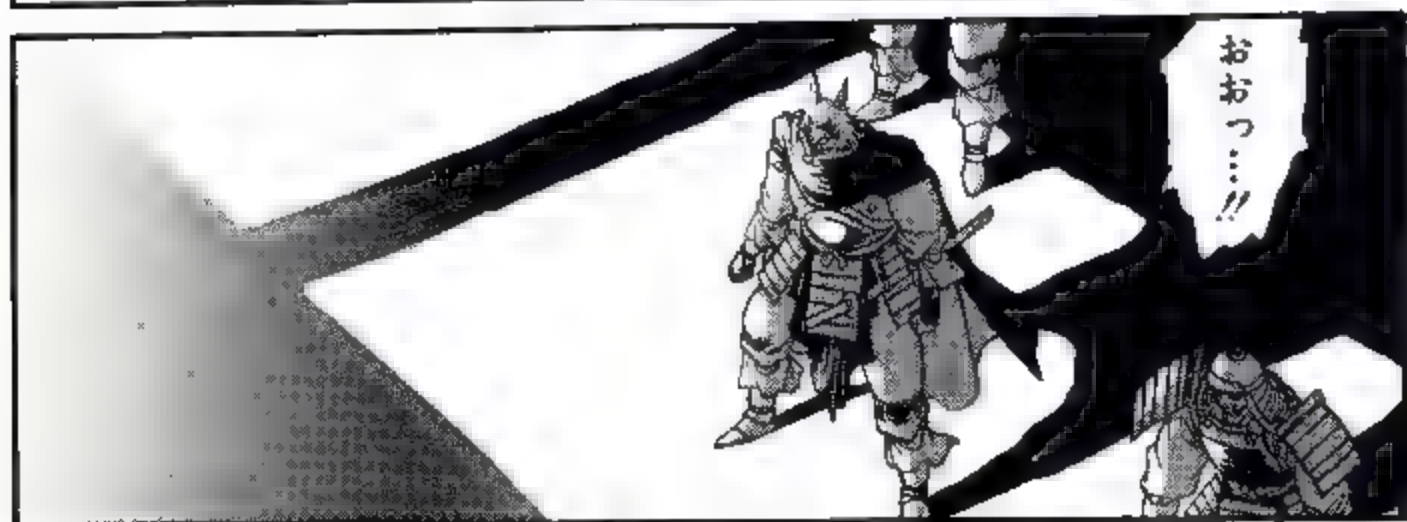
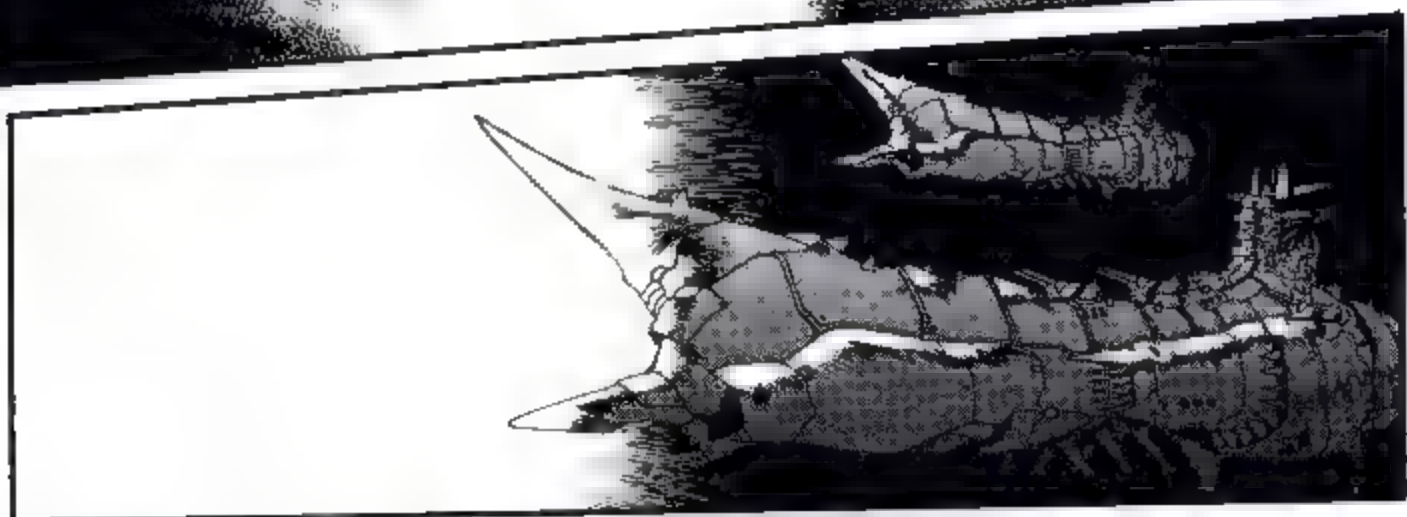








旅順要塞内に
籠もっていた
三十万の軍勢は
なすすべもなく
ことごとく
炎に捲かれたのである





五丈一の
要害とも
言われる
旅順を
火攻めとは……

……
なんたること



旅順が……
旅順が
燃えている……



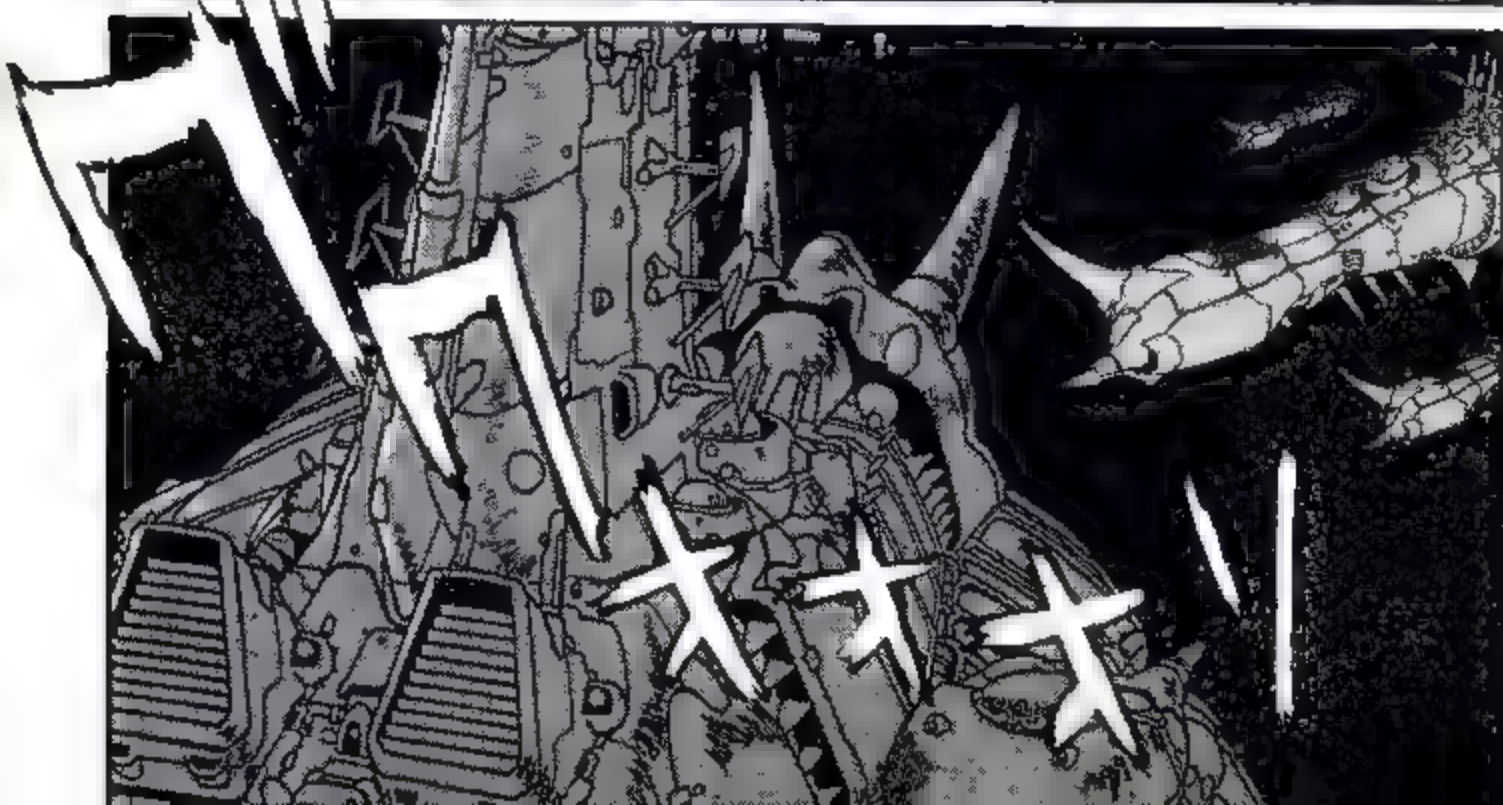
骸山様
あれを
ご覧下さい！

むっ！！



グ
グ
グ
グ





おのれ
竜我め!!
調子に
乗りおって!!

何を
しておる!
やつ
の首を
打ち
取り
手柄に
せい!!





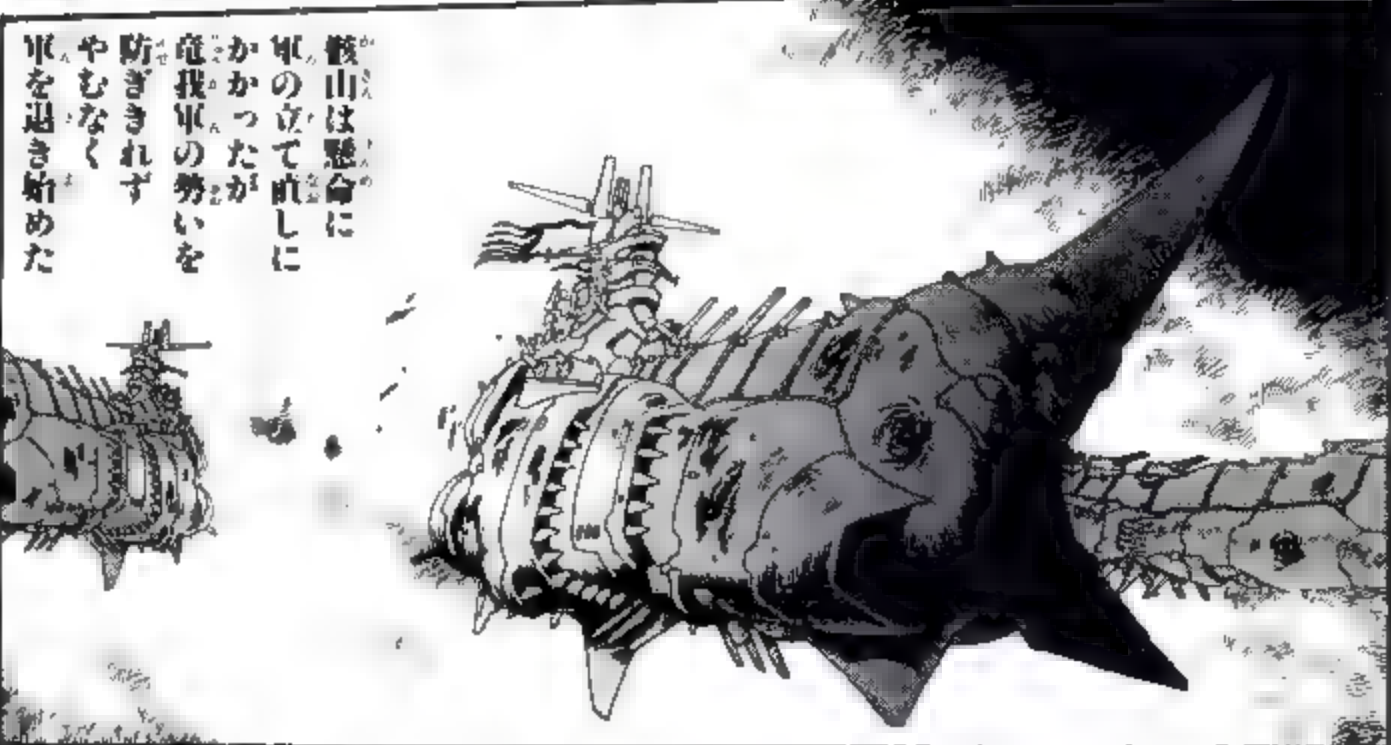
山の半に
南軍本隊と
戦山軍が激突した



目の前で
旅順陥落を
見て
すっかり
戦意を
失っていた



数には勝る
戦山軍では
あったが



戦山は懸命に
軍の立て直しに
かかったが
敵軍の勢いを
防ぎきれず
やむなく
軍を退き始めた

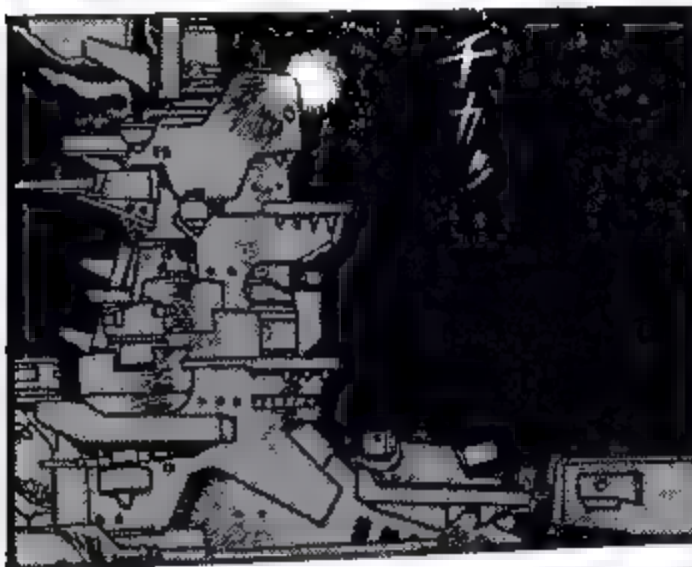


よし
合図を



ふふふ
醜様な
退き方だな
進退は風の如くは
兵法の基本中の基本
それも知らんと
見える

はい



チカッ



チカッ
チカッ

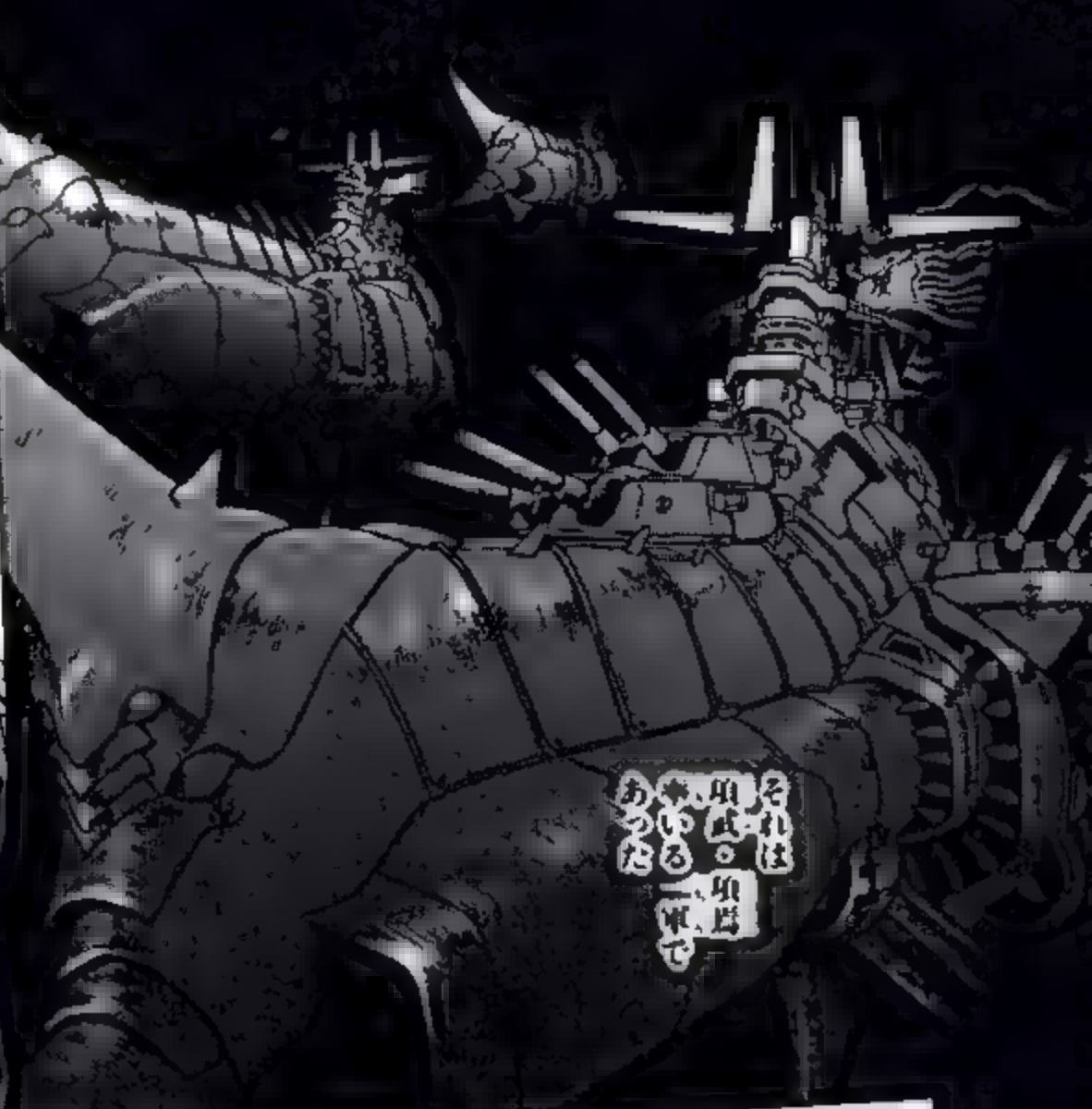


何いっ!?

骸山様
新たな一軍が
前方に
現れました
退路を断たれ
ます!



ぬうう
味な真似を……!



それは
項武・項昌
あつた
一軍で



かまわん
大したことのない
軍勢だ
一気に討ち破れ!!

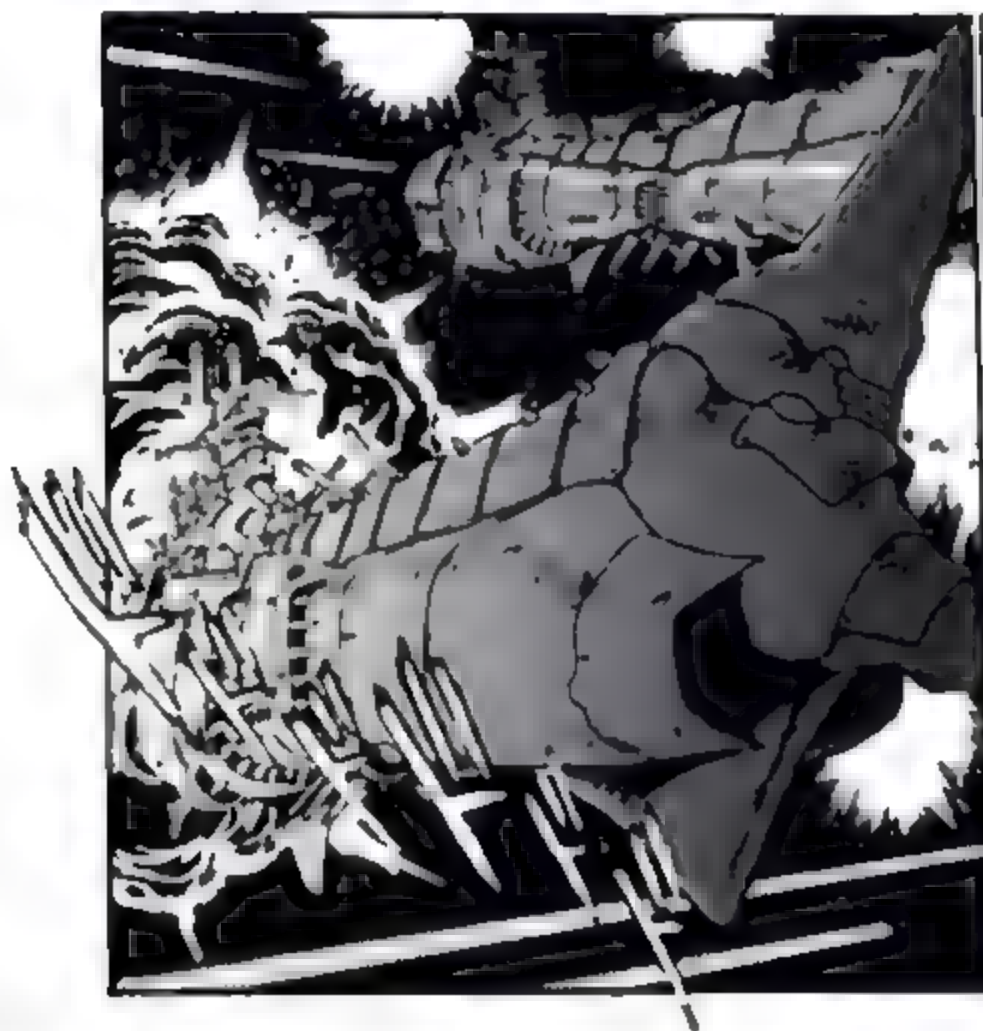
ご報告
申し上げます!

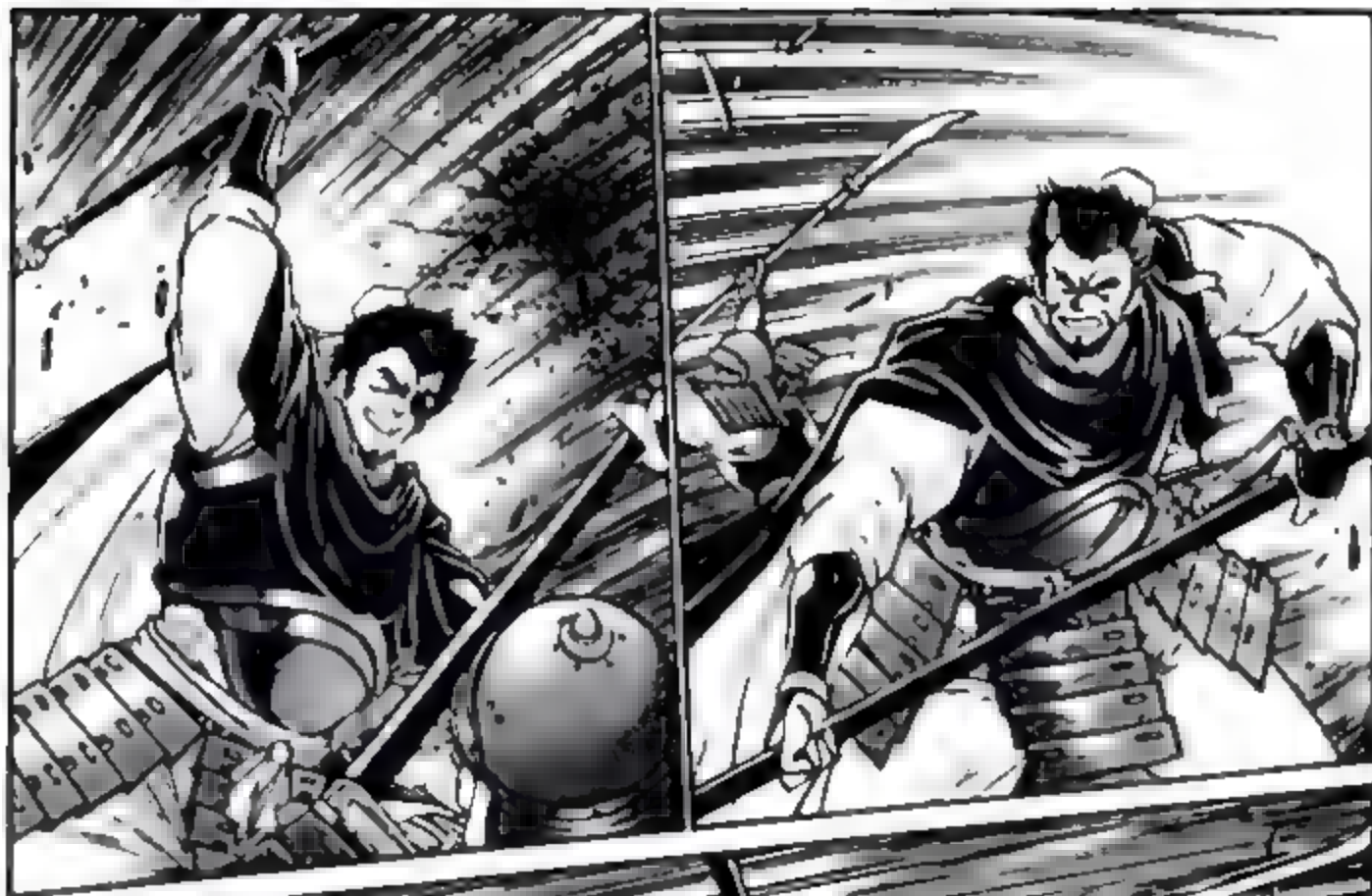


右からも
現れました!!



左翼からも敵軍が
押し寄せて
参ります!!





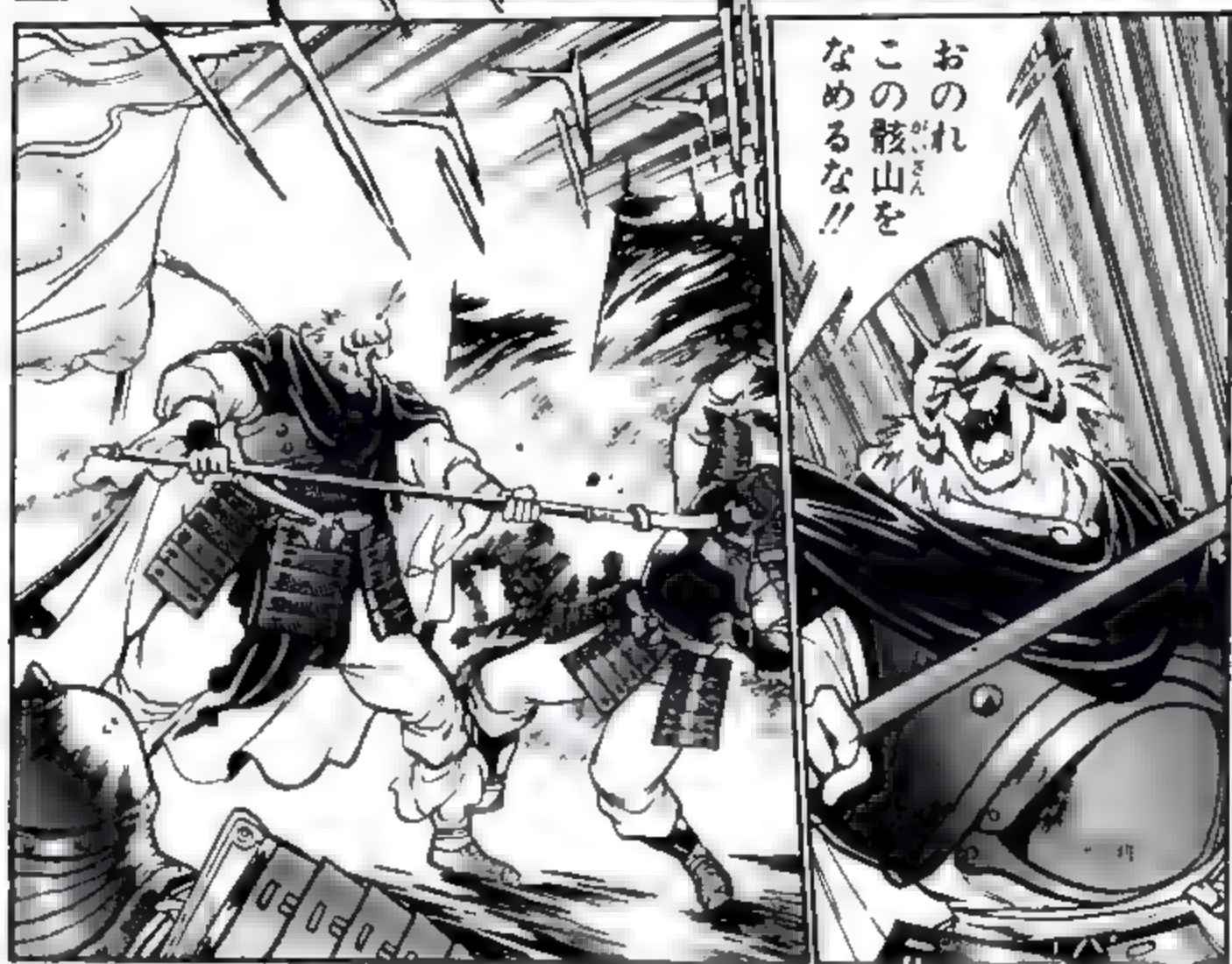
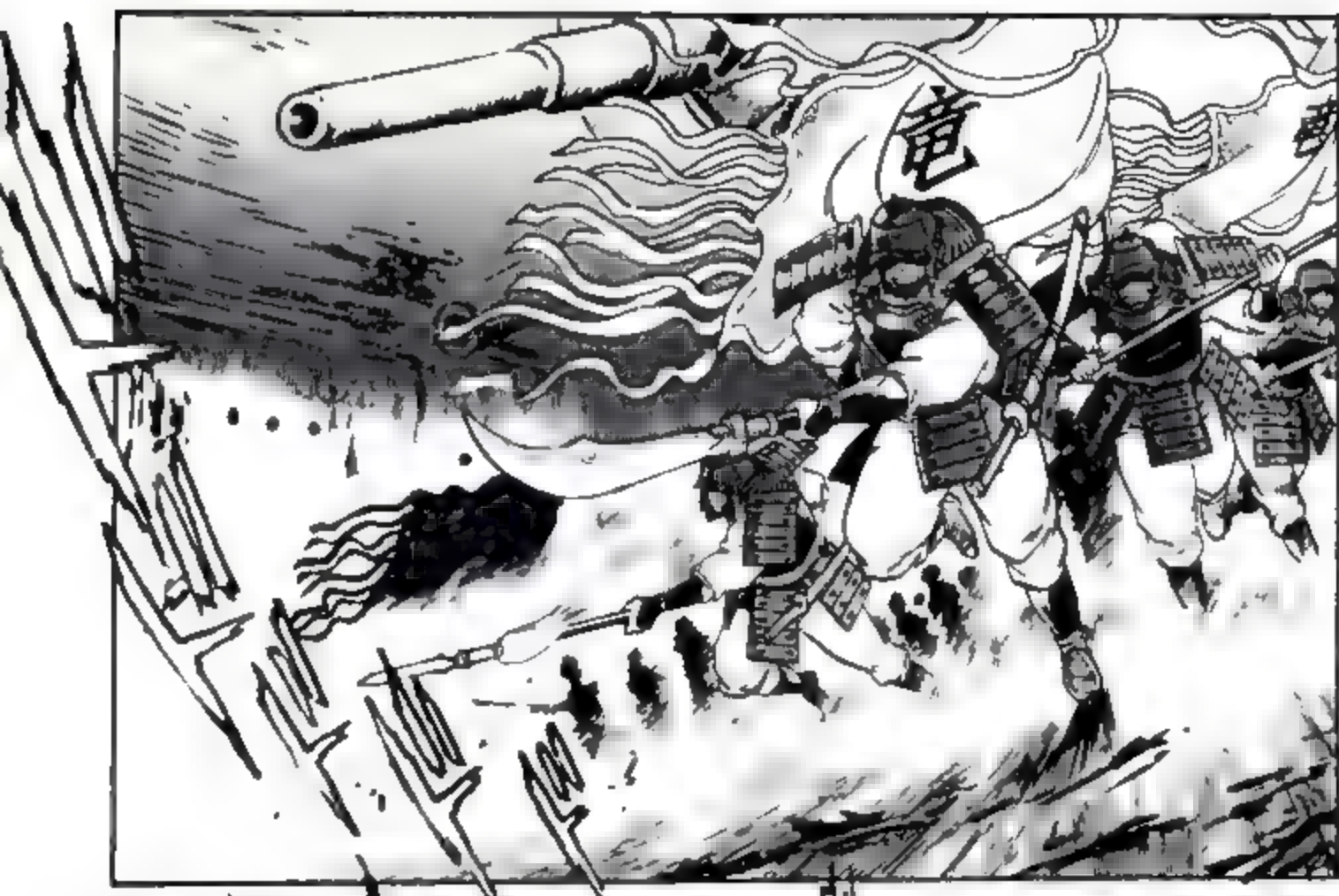
龍我軍のめる
刃持四人に
前後左右から
攻め立てられ
戦山軍は
ずたずたに
分断された

敵軍が
崩れたな
こっちの
思う壺だ！

な！

ようし
俺たちも
行くぞ！！
骸山の首を
あげる！！

一気に
踏みつぶせ！！





もう
あきらめて
俺たちに
降れ！

骸山！
がきん



竜我!!



非道の兄弟だが
降れば
命だけは
助けてやるぜ!



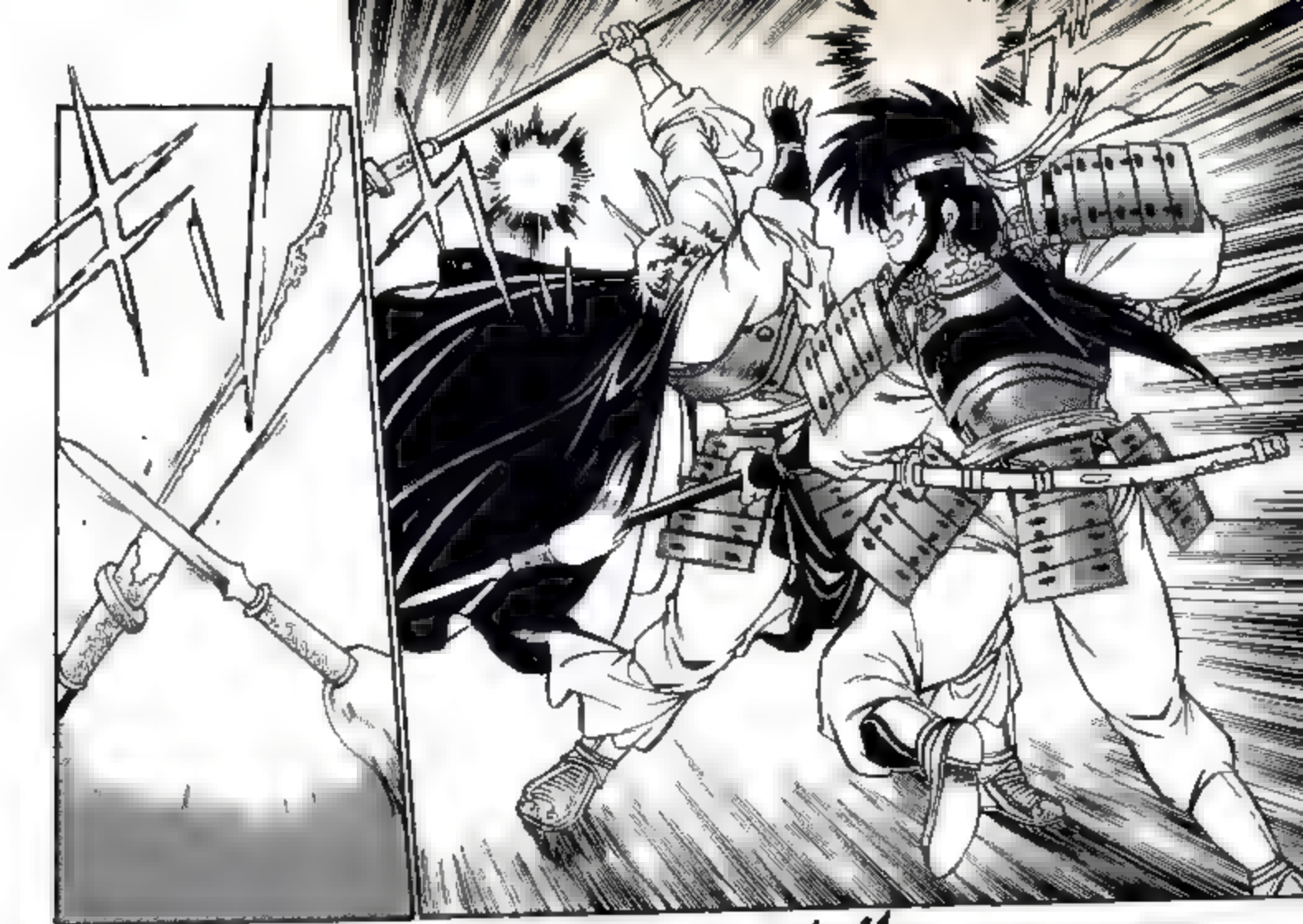
だまれ
小わっぱ!
さきまごとき
命乞いする気は
ないわ



やれやれ
聞き分けのない
男だな!



勝負しろ
竜我!!



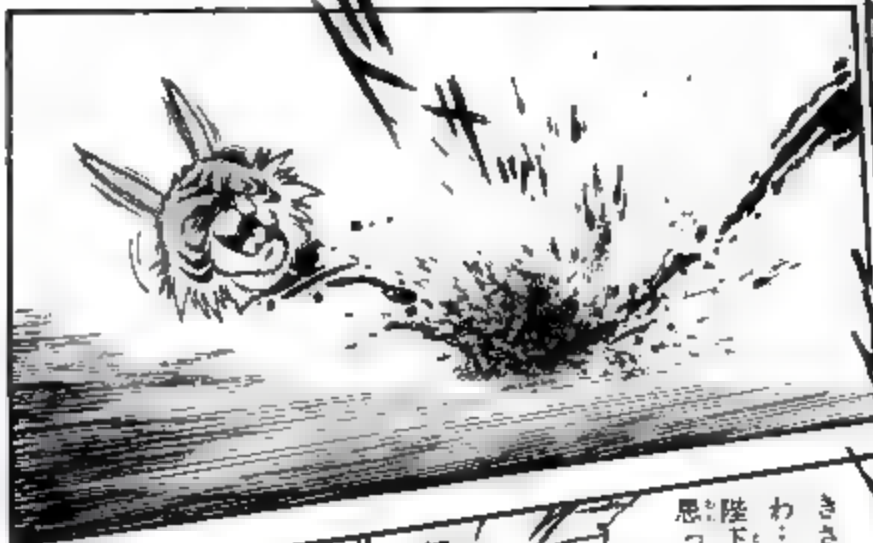
だああっ!!



骸山！
偽帝と
きさまら兄弟の
悪行！
天が許しても
この俺が
許さん！



あの世で
甘い夢でも
見てるんだな!!



きまら...
わ：わしを殺して
陛下かだまっている
思っているのか...

次...
こうなるのは
きまらだぞ...



骸山
覚悟しろ!!



へっ
そいつは
どうかな

あつ
たいし
大将！

じゃあ
その首は！

遅いぞ
項武！
骸山の首は
はれこの通りだ

なんだ
骸山の首あげるのは
俺しかいねえと
思ったのによ

へっ 骸山の首
ぐらいで
血相変えるな

おう！！

まだまだ敵には
大物が
残ってるぜ



こうして
雷討伐軍五万は
ことごとく
半らげられ……



降参した
数方の兵士も
師長の命により
残らず斬首された
のである

旅順近海は
木に染まつた



俺たちに
歯向かえば
たとえ降伏しても
命がないって
ことさ

俺は
効率重視の
現実主義者
だからな



味方の犠牲や
無駄足は
極力避けたいし
敵は少なければ
少ない方がいい

俺たちに抵抗すると
どーいう代償を払うか
偽帝側につく
連中に
思い知らせるんだ

偽帝側に
ついたら最後
それは確実な
死だな

旅順陥落の
効果とあいまって
日和見の連中も
次々と俺たちに
帰順するだろうよ



な…なるほど
この第一戦は
それだけに
すごく重みのある
戦いだったん
ですね！
さすが！！

えん！

ははは
俺は天才
だからな！！

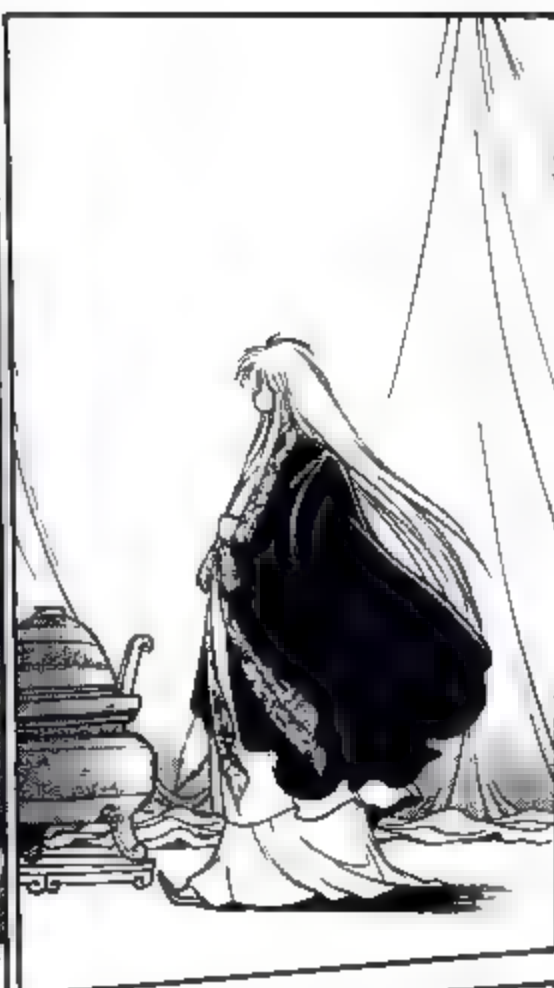


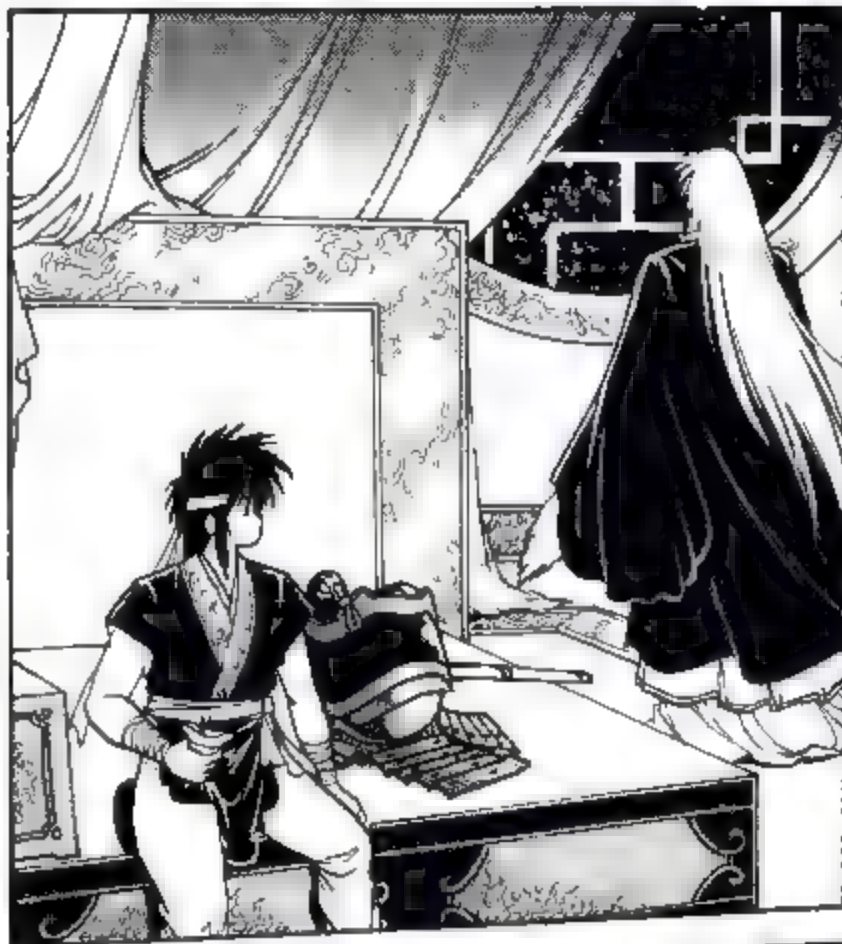
恐れいったぜ
本当にまさか
あの旅順を火攻めに
するとはよ

俺も正直
成功するまで
半信半疑
だったくらいだ

まったくだ







そう
見えるか？



骸山が
破れさつた今
次は間違いない
狼刃元帥が
相手だ

我々にとっては
苦しい戦いにな
るだろうな



大將が
迷っていたら
どんな策も
意味はない



はは
五十万の敵軍を
討ち負かした
おまえにしちや
弱気じゃないか





軍師！

林則嘉か

はい……
あの……
將軍は……

わかってるだろ
予想していた
通りさ

やはり
狼刃元帥と
戦いたく
ないんですね

まあ
口では強がつてる
けどなあ……
少々意固地に
なってるな
あは……

俺も
雷の気持ちは
充分わかるん
だけだよ

將軍の動揺が
全軍の士気に
かわると
まずいですね

おまけに
狼刃との戦いでは
自分の戦法で
戦いたいと
言っただけ

まさか
それを
呑まれたの
ですか

狼刃元帥は
知勇兼ね備えた
名将
將軍が
いくら戦上手でも
.....

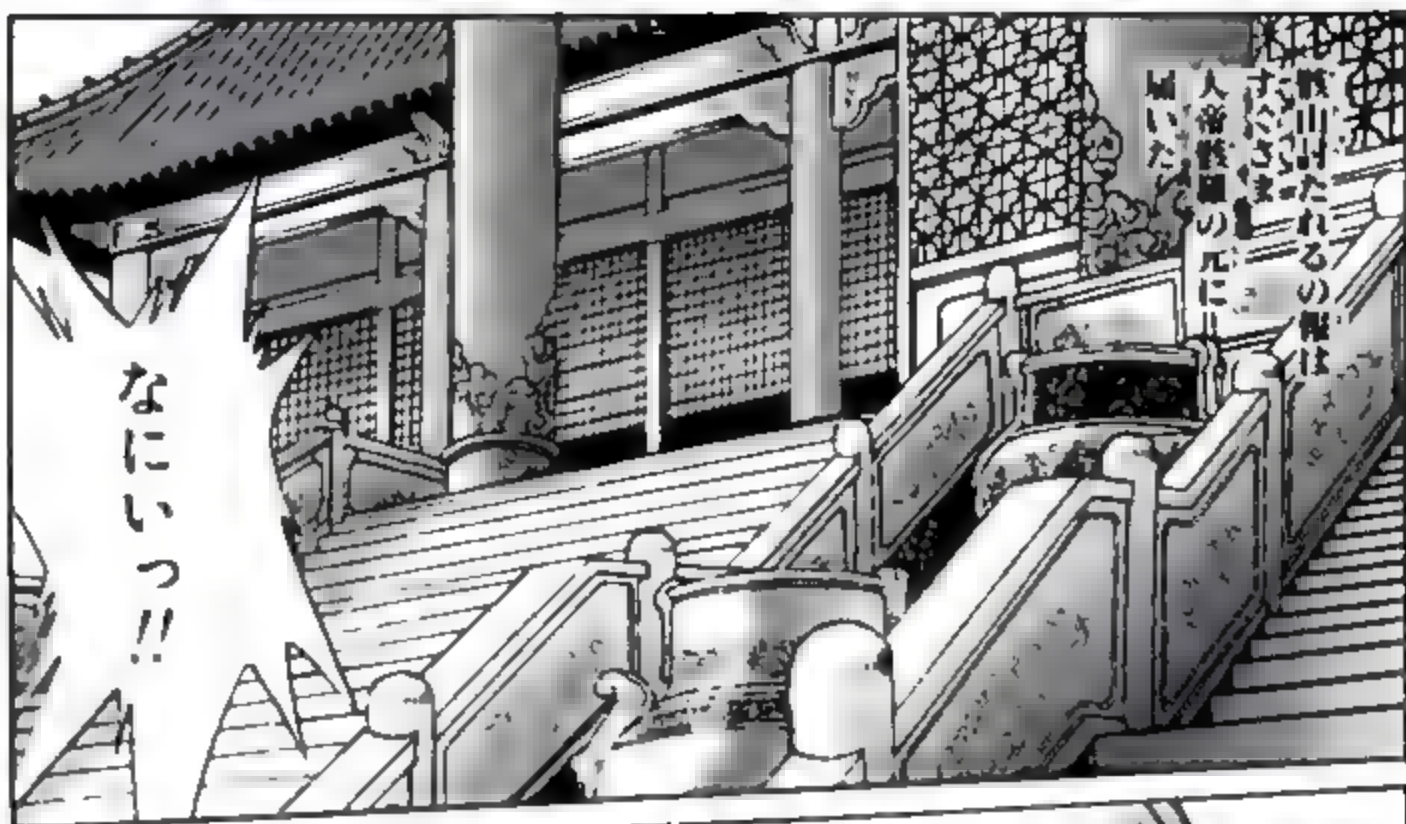
それは
雷も承知
してるよ

それが
あいつなりの
狼刃への
恩返し
のつもりなんだ

小細工は
するなとな

だが俺も
手をこまねいて
わけにはいかん
一敗地にまみれたら
俺たちの破滅だ
手を貸してくれ
林則嘉

はい
私にできる
ことなら
何なりと



旅順陥落を
目の前に
我が軍は
戦意喪失…

鞍山元帥は
あえなく…
御最期を…

おのれ
小わっぱが!!

この手で
八つ裂きに
してくれるわ!

わしの
鎧を持ていっ!!

うぬう…

お待ち
下さい
陛下!

陛下御自身の
御親征は
今しばらく
お控え下さい!

ならんわ!
鞍山!
きさまも兄を
失ったのだぞ!!
わしについてこい
仇を討つのだ!!

確かに
兄上には
御不幸で
ございました

しかし人間も猿とケンカして負ける時もありましよう

その猿相手に刃を交えるのは陛下にふさわしくありません

旅順が陥ちても奇王都まで多くの関門がございます……兵も多く駐屯しております

すぐさま都より援軍を差し向ければ防げましよう

……わかったお前にまかそう

はっではただちに討伐軍を編成いたします

誰か逆賊の首を取る者はおるか！



な……
誰もおらぬ
のか!

これだけの将が
そろっていながら
逆賊を討ち取り
天下に名を示そう
という豪傑は
おらぬのか!!



我々の力量では
およびもつかない
相手に
どう戦えと
いうのだ



とは言われても
相手は星を砕き
五十万の軍勢を
焼き殺すほどの
連中……



……この
役立たずどもが!!

師貞の奇策は
五丈軍の将兵に
少なからぬ
恐怖と動揺を
与えていた



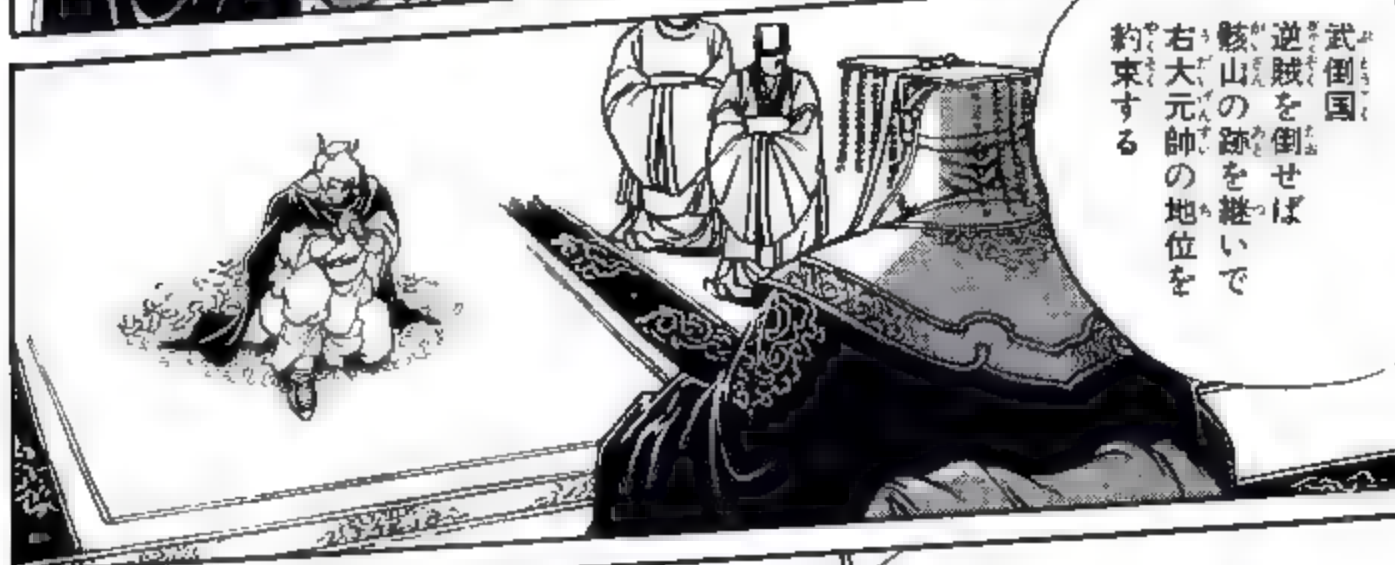


おおつ
そちの武勇は
聞いておる
安心して
任せようぞ!



ただちに出陣し
逆賊を
討ち負かせ!
兵はいくら
連れて行っても
かまわん!

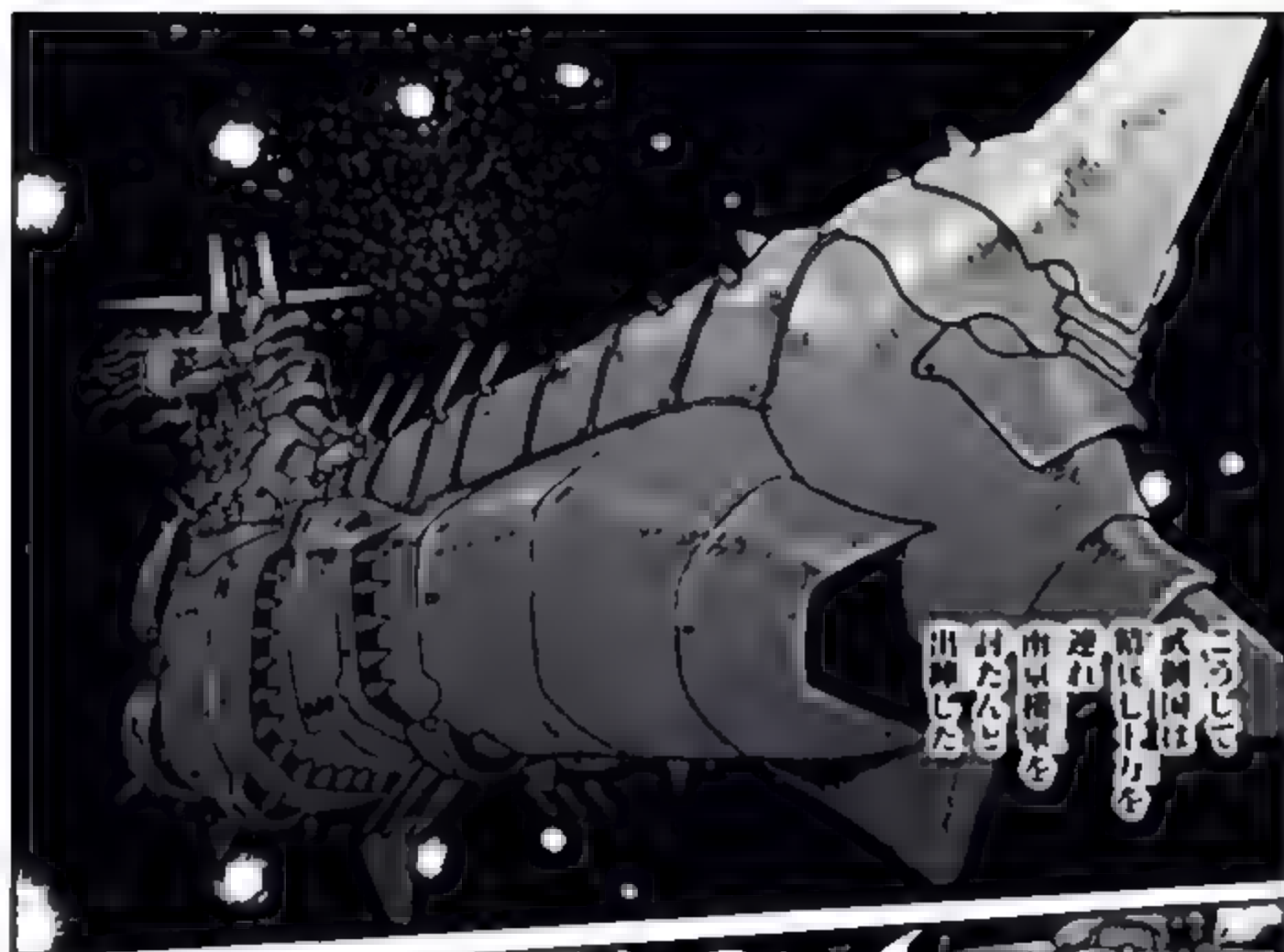
ははっ
ありがたき
お言葉
吉報を
お待ち下され

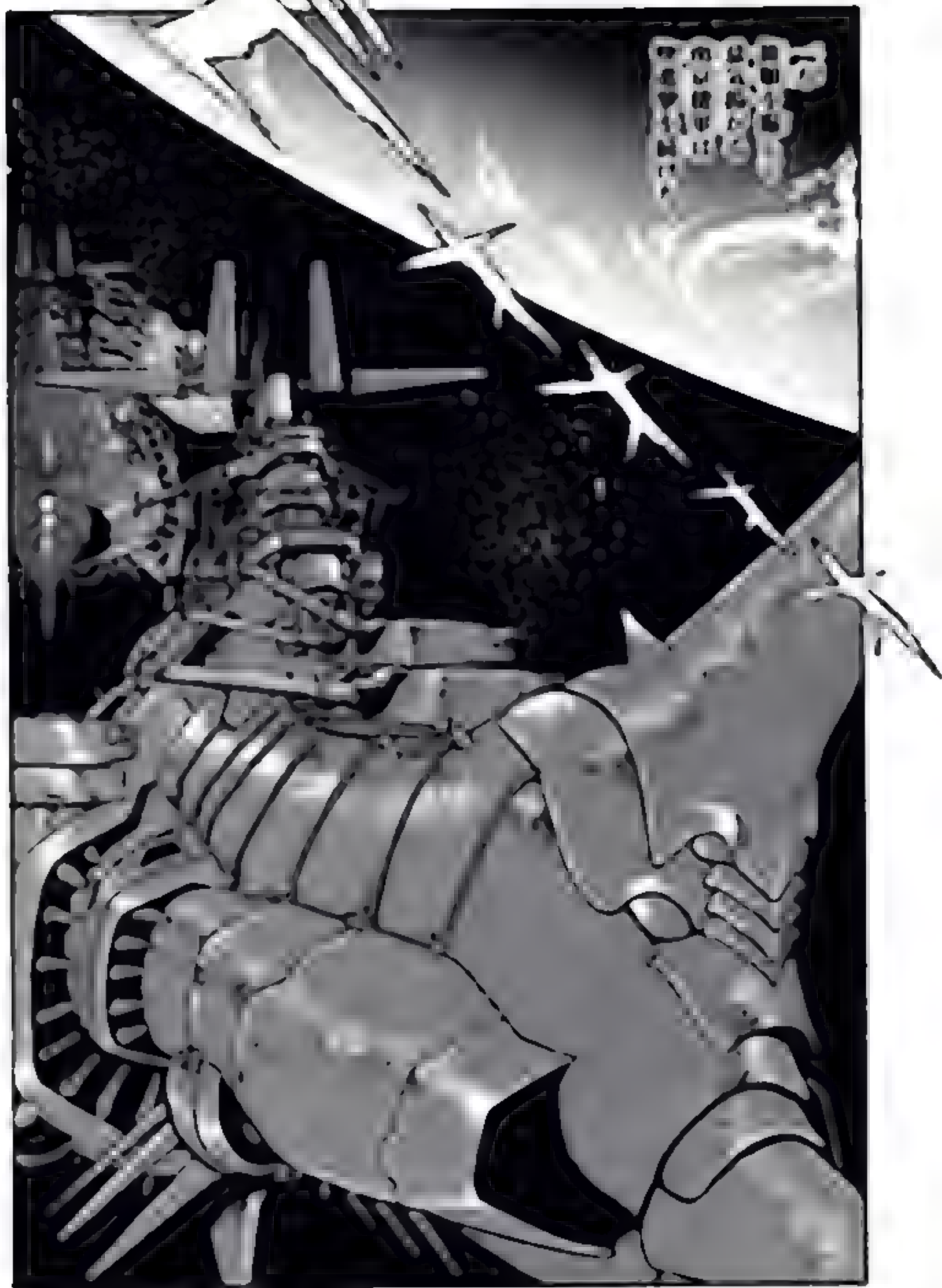


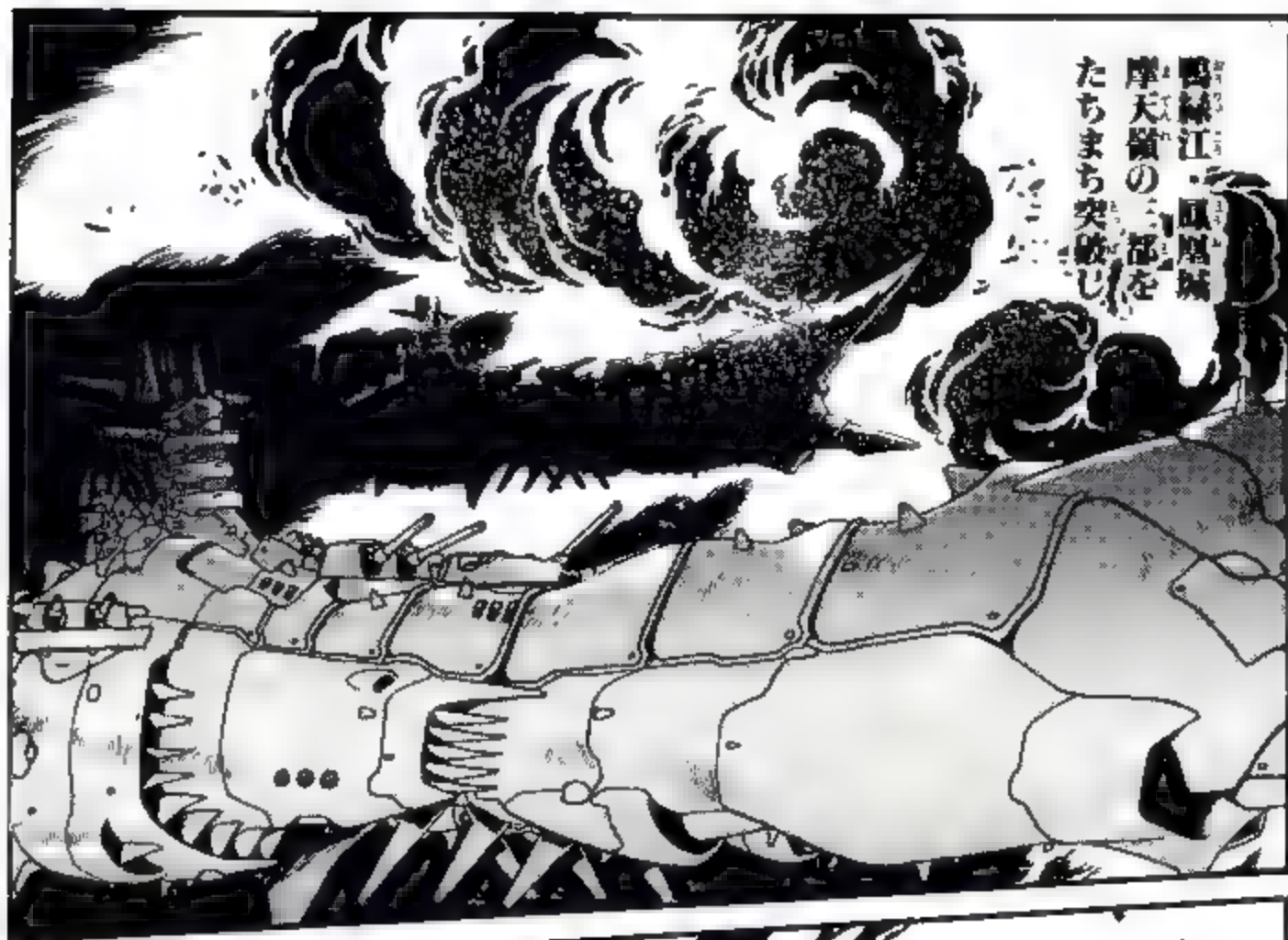
武倒国
逆賊を倒せば
鞍山の跡を継いで
右大元帥の地位を
約束する



存分に戦って
あの小わっぱの
首を
ここに届けよ!





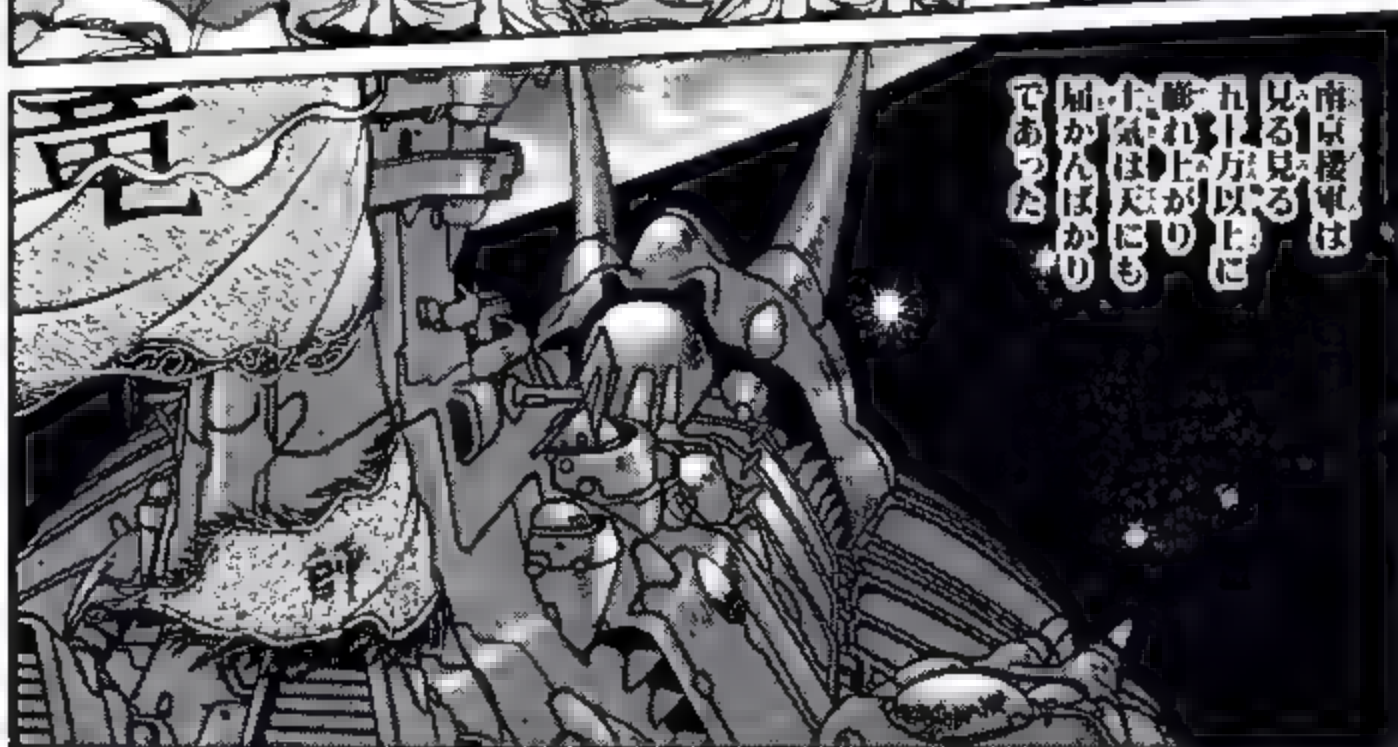




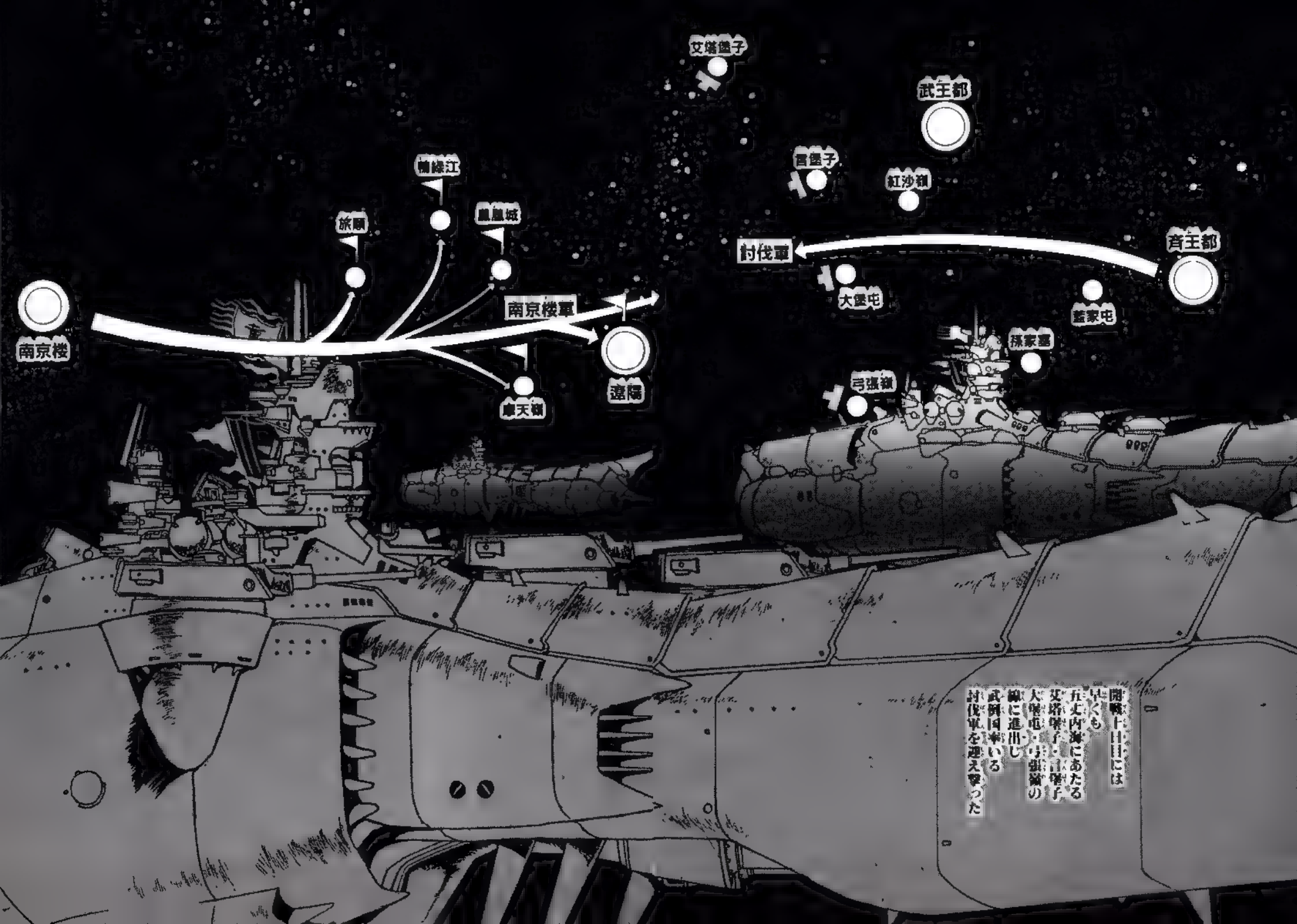
抵抗する者には
許さない
攻撃を加え
決して投降を
認めず



また
戦わずして
開城した者は
手厚くもてなし
その地位を保証し
軍勢を吸収した



南京援軍は
見る見る
五十万以上に
膨れ上がり
士気は天にも
届かんばかり
であった



南京楼

旅順

鴨綠江

鳳凰城

南京樓軍

摩天嶺

遼陽

艾塔堡子

官堡子

紅沙嶺

武王都

討伐軍

大堡屯

弓張嶺

孫家堡

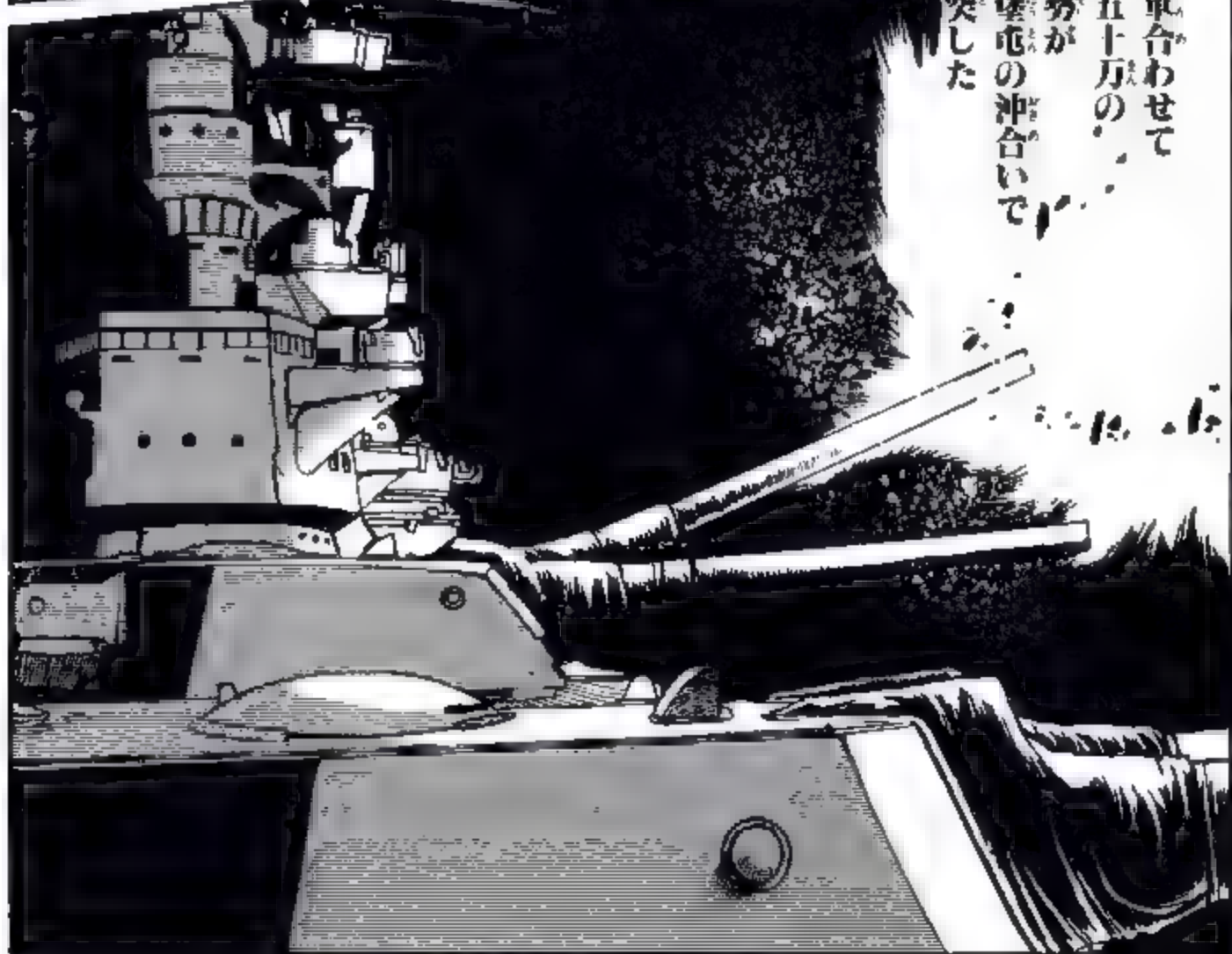
蓋家屯

齊王都

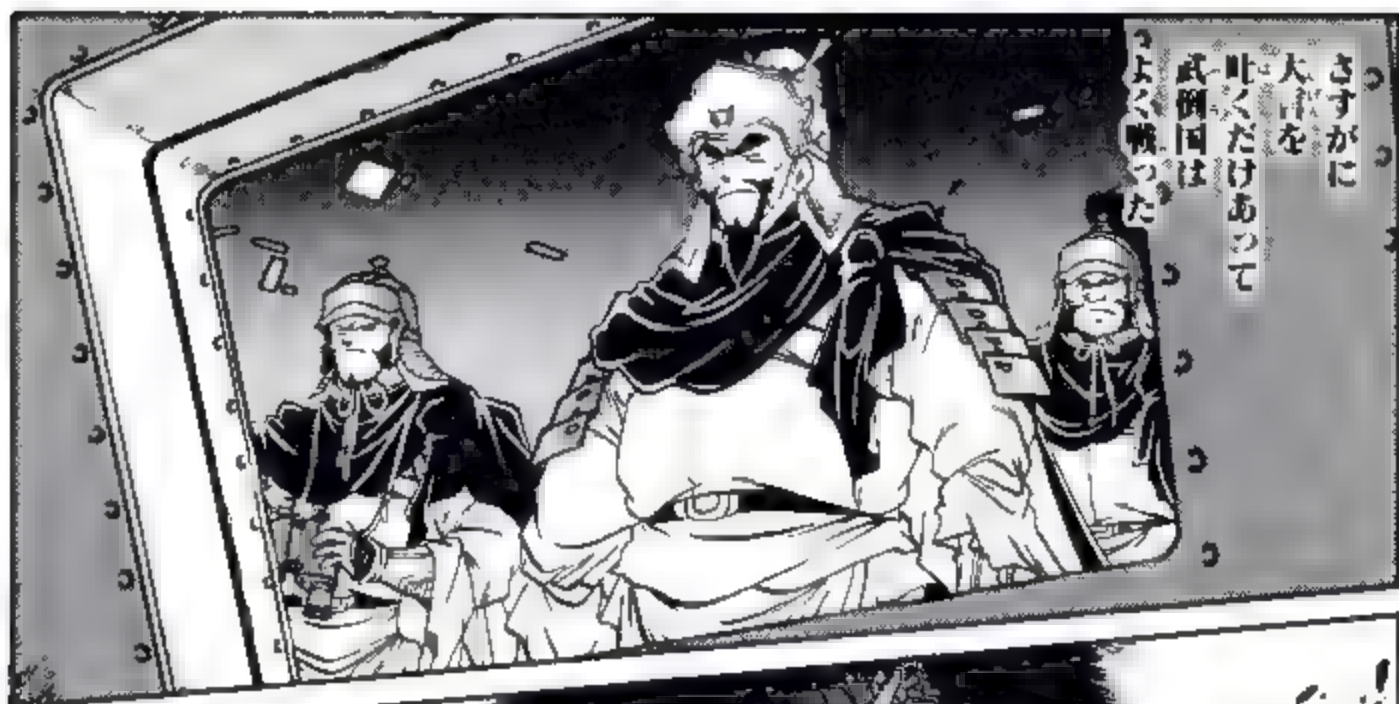
開戦十日には
早くも
五丈内海にあたる
艾塔堡子、官堡子、
大堡屯、弓張嶺の
線に進出し
武王都率いる
討伐軍を迎え撃った



兩軍合わせて
百五十万の
軍勢が
大堡屯の沖合いで
激突した



さすがに
大軍を
吐くだけあって
武例国は
よく戦った



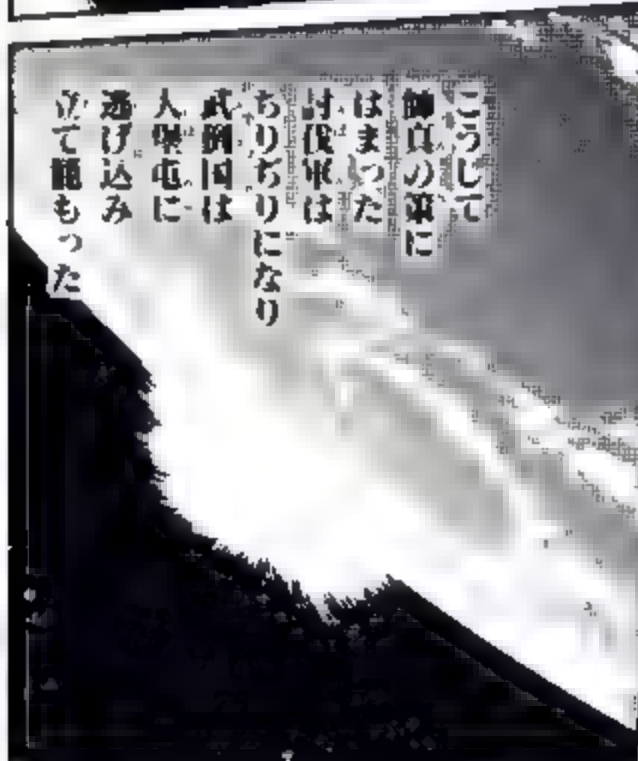
合戦は
一度に及び
両軍は
少なからぬ
損害を出した

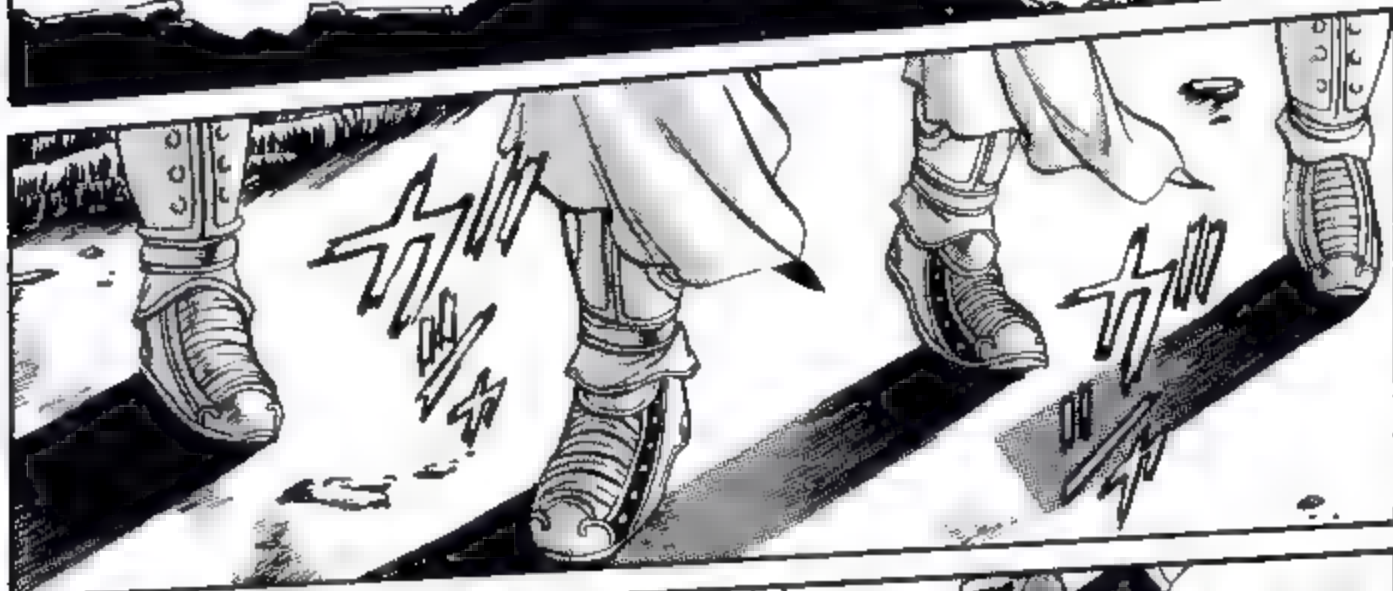


だが
帥真は巧みに
自方の軍勢を
分散させ
それを各個
撃破していた



こうして
帥真の策に
はまった
討伐軍は
あちこちになり
武例国は
大軍屯に
逃げ込み
立て籠もった





武倒国
お前は時勢が
わからなかった
ようだな
なぜ未来なき
五丈に尽くす！

何を
世迷い言を！！

この逆賊が！
弾正公より
恩義をかけられ
大帝より將軍位を
与えられながら
五丈を裏切るとは
何事だ！！



きさまのように
人義に貧しい男を
討つのが
国家への
忠誠の証だ！！

武運なく
このような
ことに
なったが
今でも
きさまの首を
噛み切って
やりたいわ！！



五丈を
裏切るとか
何とか
言ってる
ようじゃ
お前小さいぜ



何いっ！！





弱き者を
併呑し
愚かな者を
攻め滅ぼす
これは覇者の
常道だ！

俺は
歴代の帝王を
見習っているに
すぎん！



覇者……



大業を
成し遂げるまで
この五文を
弾正公から
借り受ける
つもりだ

弾正公の
目的であつた
天下統一を
果たすことこそ
我々の道だろう



今は
戦国の時代
だってことをな!



武倒国
最期に今一つ
自分の胸に
刻み込むが
いい



お...恐れ
入った...



新たな討伐軍を
討ち破つた
という報は
たちまち
南京樓の留守を
守る
樂奇の元に
届けられた



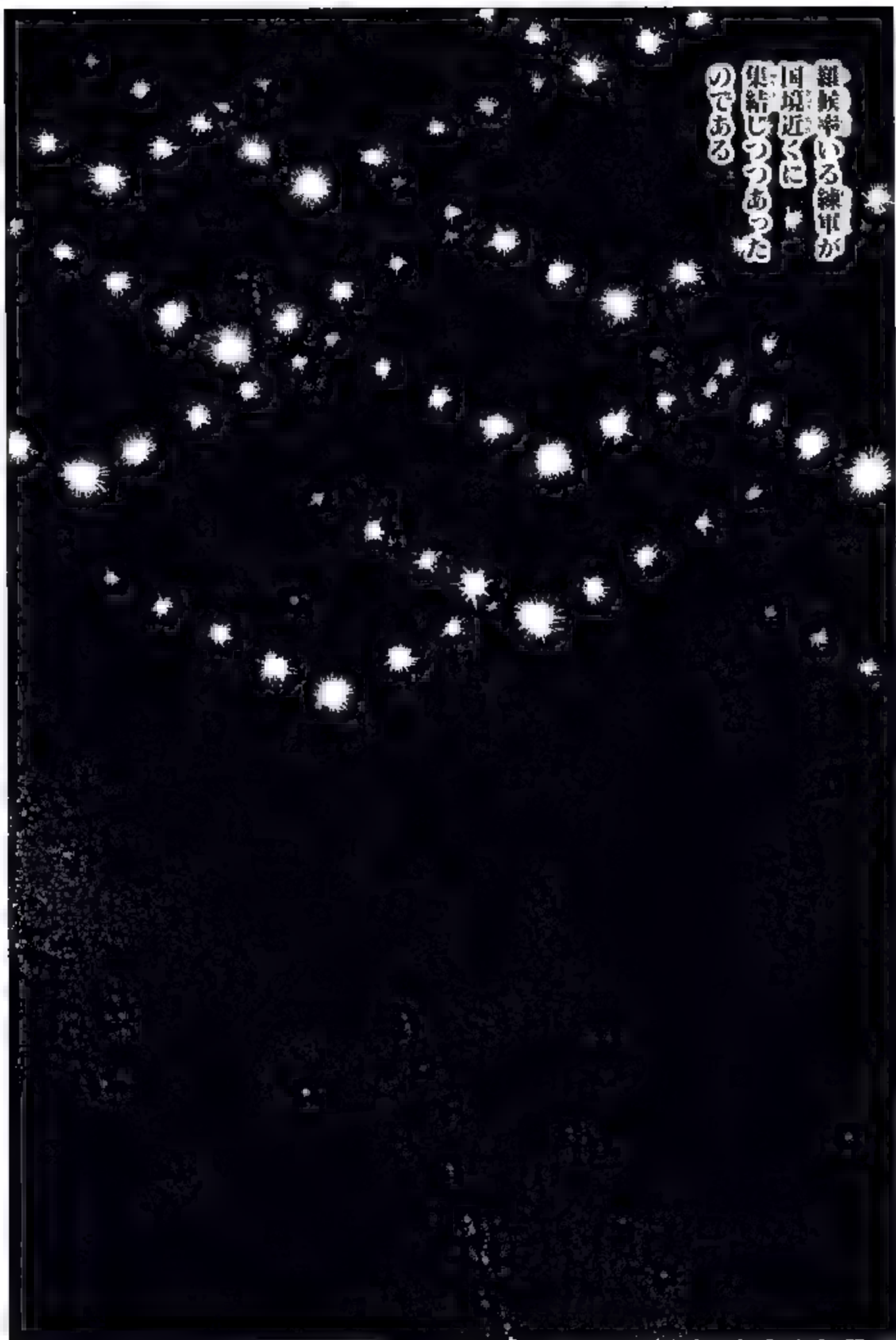
兵員・物資の
前線への補給を
任務とする
樂奇にとって
南京樓の住民の
士気を掲げる勝報は
実にありがたい
ことであつた



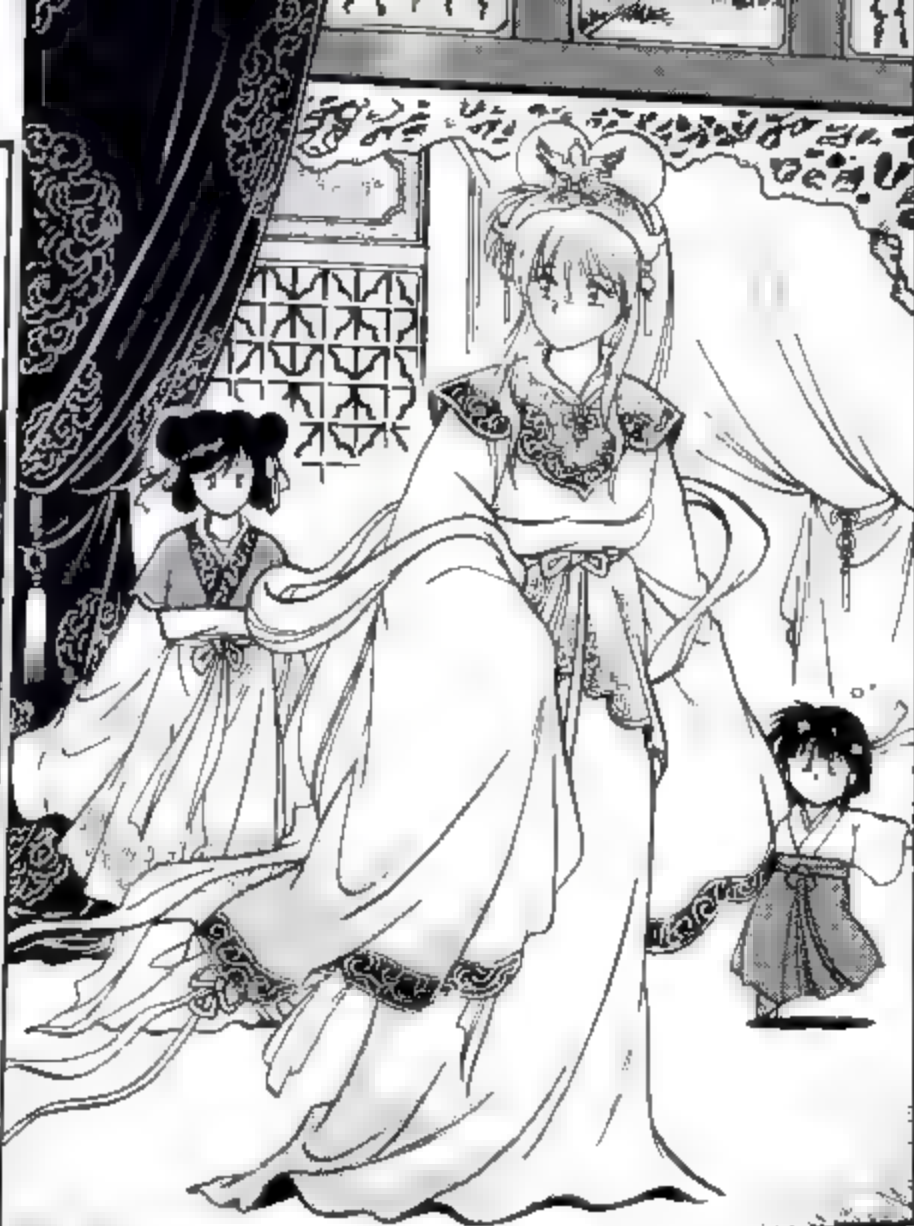
なぜなら
南京樓は今
重い空気に
包まれていた
からであつた



羅候辛^{ろこうしん}いる練軍^{れんぐん}が
国境^{こくけい}近く^{ちかく}に
集結^{しゅうけつ}しつゝあつた
のである



さんらくさいとの
三楽斎殿



おお
これは奥方様
お出迎えにも
上がらず
失礼いたし
ました



いえよいのです
それより
街での噂をお聞きに
なりました

はて
噂とは？

なんでも
練軍数百万が
国境近くに集まって
いるとか……



將軍の軍兵で
混乱している
五丈に攻め込む
つもりなのでは
……



それも
そうですね

ははは
ご安心下され
南京楼は
わずか数千の兵しか
おりません
無視されますよ



しかし
民衆が
動揺しまし
よう

人の口に
戸は立てられ
ませんしね



わかりました
この三楽斎に
お任せ下さい

いかが
なさる
おつもりです?



羅候殿に
お会いして
侵攻を思い止まる
よう
話を
参ります

あなたが
直接に
練に行くの
ですか?



私はこの力で
ここの留守を
守っております

この舌先三寸が
あれば
何も問題は
ありません

そうですか
將軍からは留守中
何事もあなたに
お任せするよう
言いつかって
おります
全てお任せ
いたしますよう

あー
何とも「ないなき
お言葉」
一歩
命を換えても
この地を
お守りいたします

この頃
三葉斎はすでに
雷の最大の
ライバルとして
羅喉の存在を
意識していた

三葉斎様
羅喉殿への
貢ぎ物は
いかがいたし
ますか？

貢ぎ物？

そんなもん
やぎ一匹で
かまわん

やぎ一匹で
ごいますか？
……しかし……

いいから月



南京楼よりの
使者？

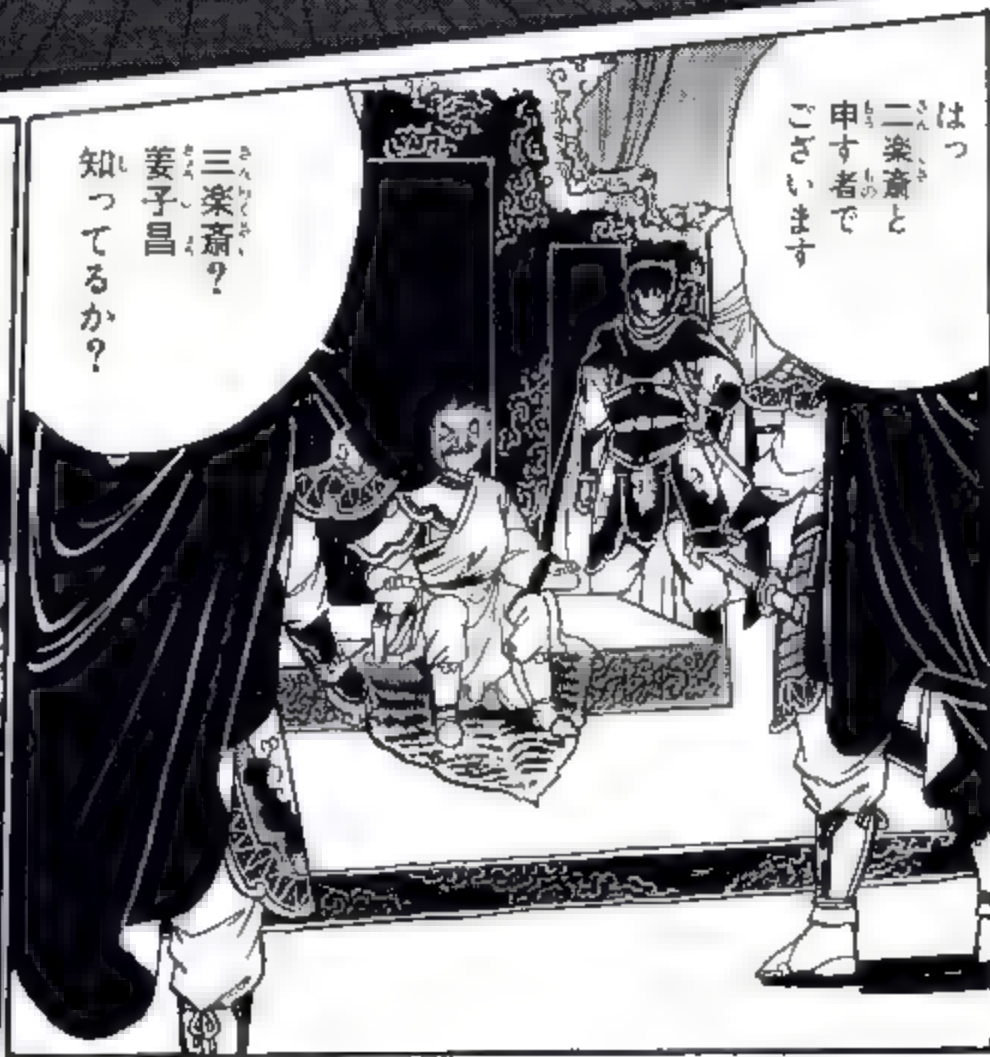
練軍本陣

はっ
二楽齋と
申す者で
ございます

三楽齋？
姜子昌
知ってるか？

竜我が
重用している
家臣です
井が立つそう
ですな

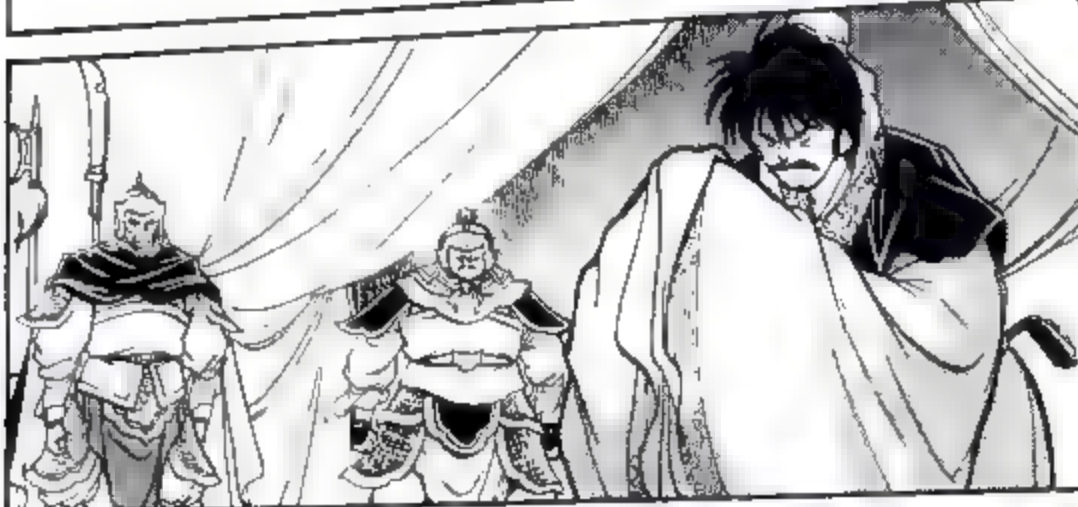
けっ
そーいう奴が
俺は一番
きらいだぜ





まあいい
どうせ血祭りに
あげるんだ
たわごとを
聞いてやろう
連れてこい！

はっ



五丈原
南京楼の臣
三楽斎馬防で
ございます
以後お見知りおきを



ふふん、
こいつは予想以上の
男になっているな
智・南蛮二回を
束ねるだけの
ことはある



うむ
俺が
羅候だ

して
使者の
用向きは？



この俺を
コケにするにも
ほどがある!!



いやはや
これは……
いかがいたし
ましたかな

だまれ!
このヤギ一匹
つてのは何だ!!
俺をバカに
しているのか!!



お前の首を
答札の代わりに
して
俺我に送りつけて
やる!!



はて……
練では
賈き物の多寡で
使者をお斬りに
なられるのかな?



ええい
詭弁など
聞く耳持たぬ
わ!!

すぐさま
五丈に攻め込み
俺我共々
跡形もなく
滅ぼしてくれ!!

では
一体いくら
ご所望でござる
星一個丸ごと
よこせとでも
おっしゃいますか





何を
ぬかす!

今は戦国の世だ
力失った国を
併呑するのは
当然だろう

戦国の世
だからこそ
信義を示さねば
なりません



やれやれ
南蛮を
得た上に
人民の心に背き
五丈をも
求めますか

あまり
食欲になられても
天下の信を失う
だけですぞ



今、五丈の民は
偽帝の元で
塗炭の苦しみを
味わっております
その苦しみを
取り払うために
竜我將軍は
お立ちになり
民も万歳をもつて
歓迎しております

そこへ
あなた様が
乗り込んで
参るわけですか



天下は
火事場泥棒と
見なし
笑いに
なりますぞ!

力で事を決しよう
としても
不正の軍に力が
出ますかな!

むう……



二月ほど
お待ち
くだされ

二月か……

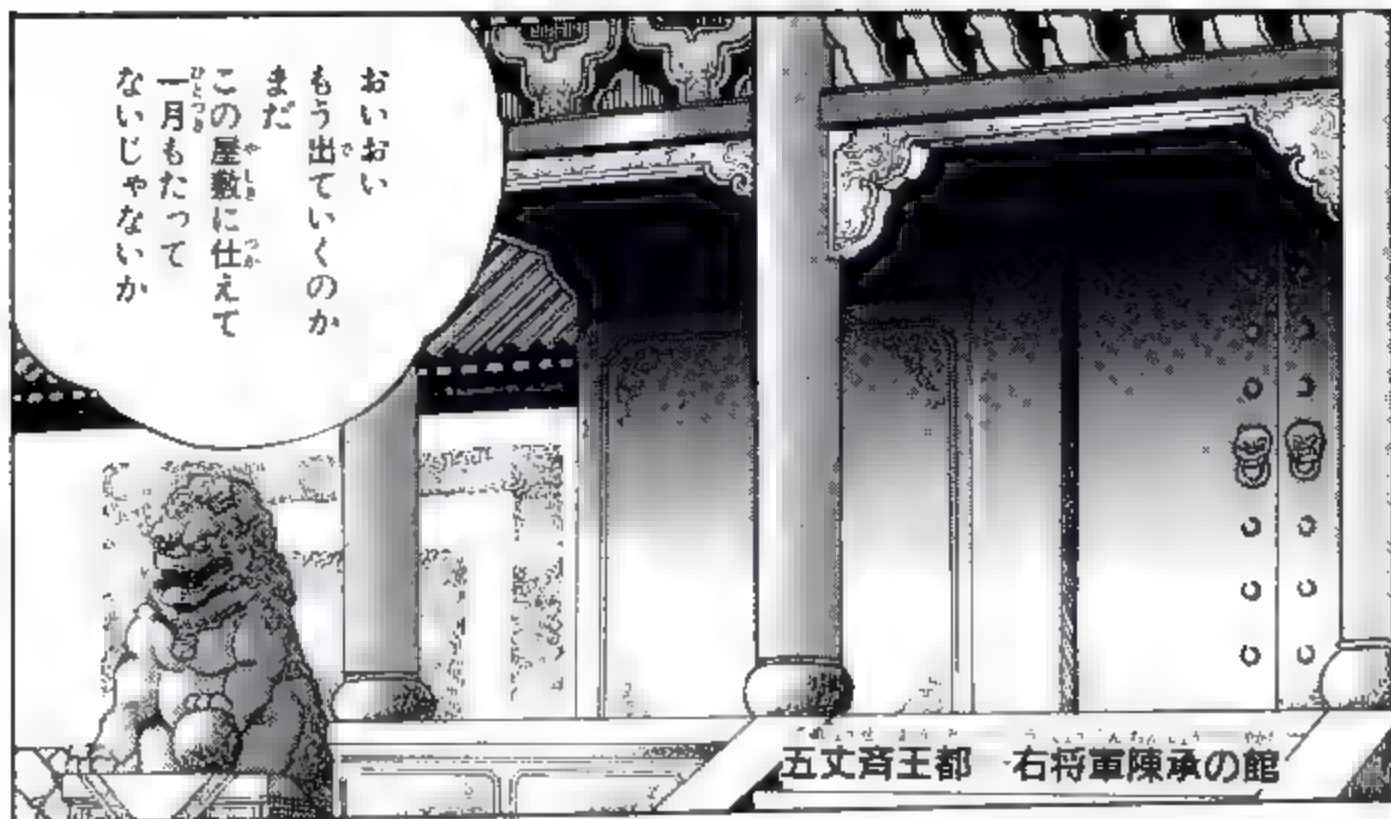
いいだろう
だが二ヶ月経っても
偽帝が
生きていよう
ものなら
俺がその役目
取って代わるぜ
文句はねえな

はは
ご随意に

次に
お会いする時には
ヤギに代わって
麒麟がお届け
できましょう

ふふ
いったな

竜我の
お手並み
拝見するぜ！



お前
そーいうとこ
しっかり
してんなー

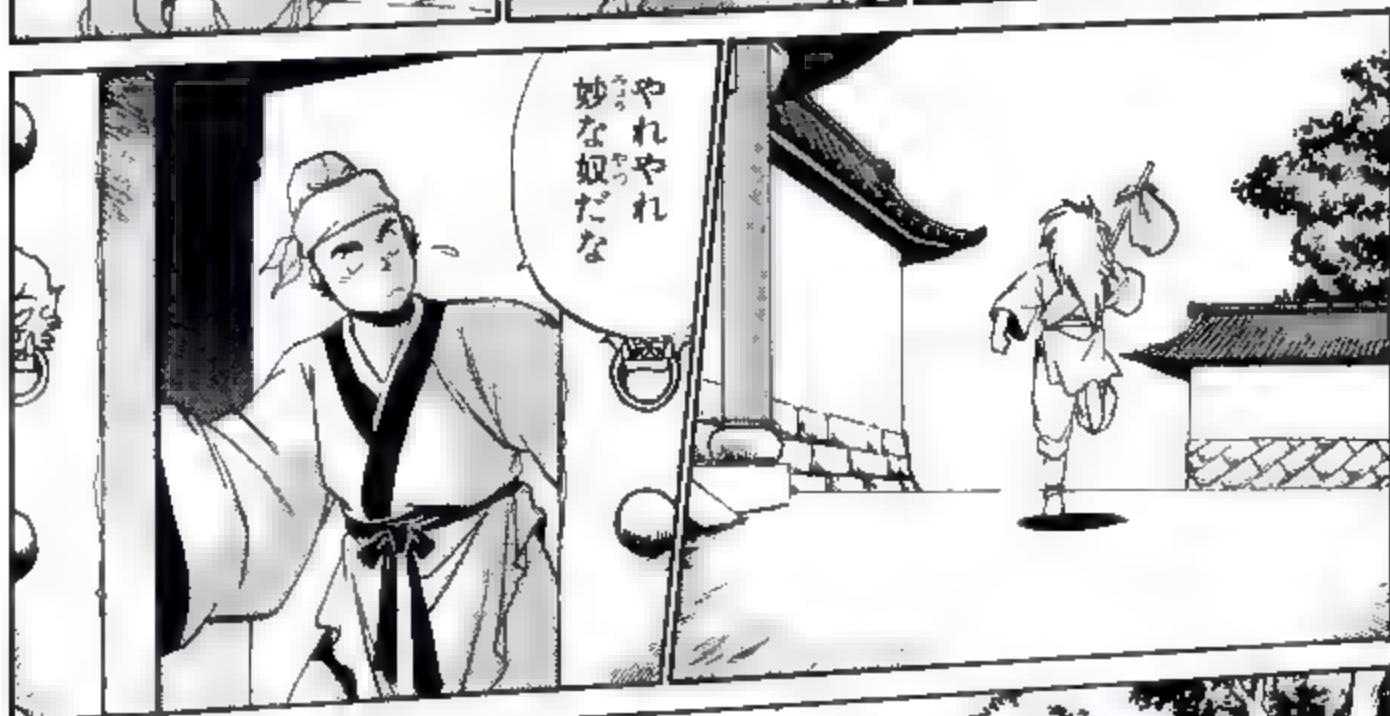
へっへっへ
あんたもよけりや
一緒に行かないや
落ち目の主人じや
やだろ

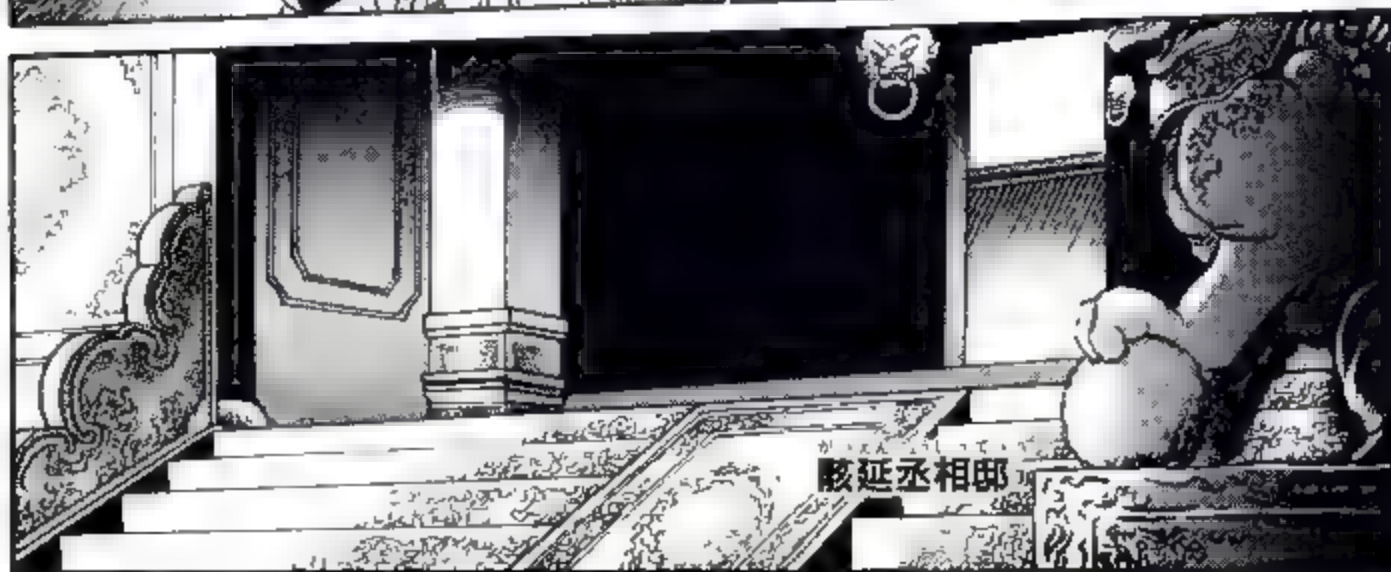
そりや
まあ……

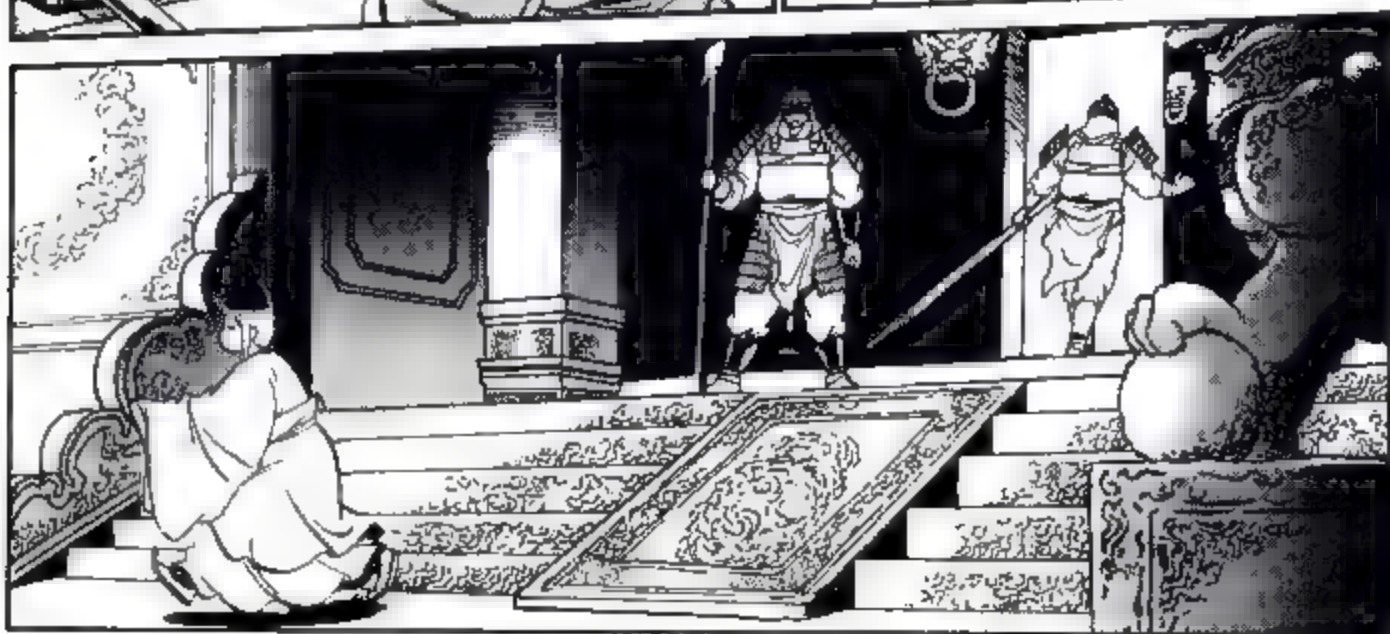
!!

いけね
ご主人様の
お帰りだ









あの噂
まことで
ございま
しょうか
右將軍

私も言中で
耳にいたしましたぞ

丞相が
反乱軍と通じて
いると……

いや
私など
街中で語られて
いるのを
聞きました

何でも
丞相が
単独講和に踏み切り
陛下を退位させる
算段とか……

ふうむ……わしも
家中の者がそう
噂している時は
バカバカしいと
思ったが……

これは
容易ならざる
ことかも
しれん……！

骸延様は
頭の切れるお方
陛下の力を背景に
五丈を乗っ取り
ました

しかし国が
治まった今
陛下に代わる
実力者を
反乱軍に求めた
のでは？

陛下を
竜我と
取り替えようと
いうのか





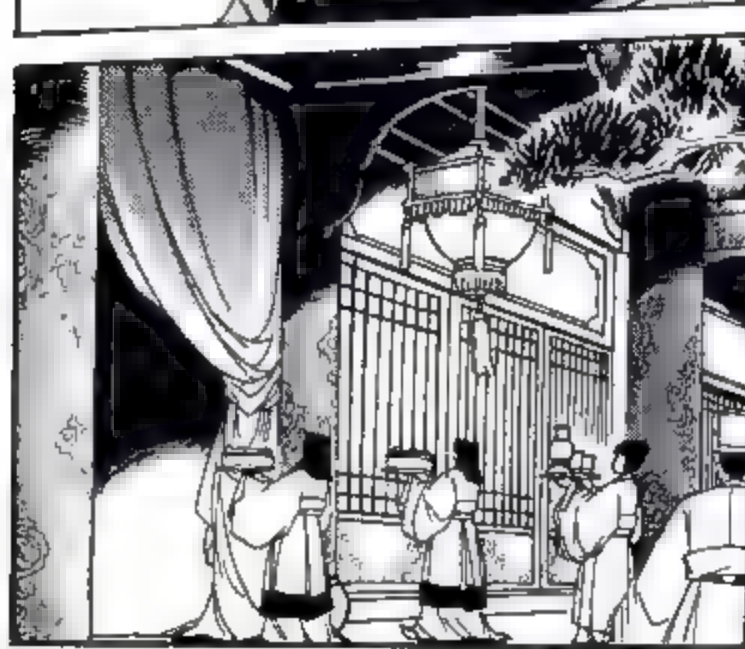
これは右將軍様
どうぞ奥へ



丞相は
あいにくまだ
帰宅して
おりません
ここ数日
帰りが
遅いので
ございます



では
また
出直して
参る





.....



ほう
遠方よりの……

何でも
遠方よりの
お客人が
参るそうで
ございます



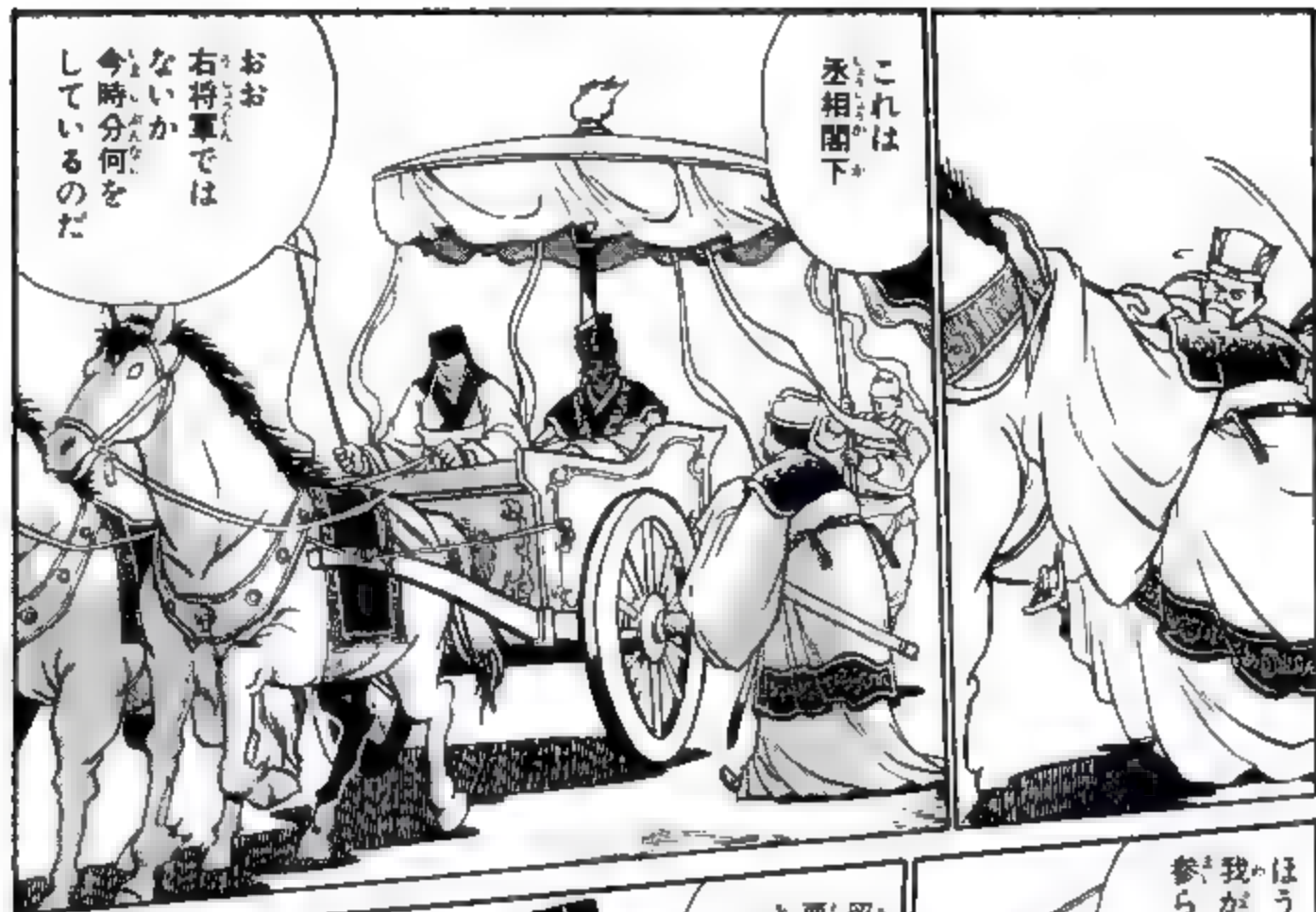
今日は
この館で
宴席でも
あるのかな

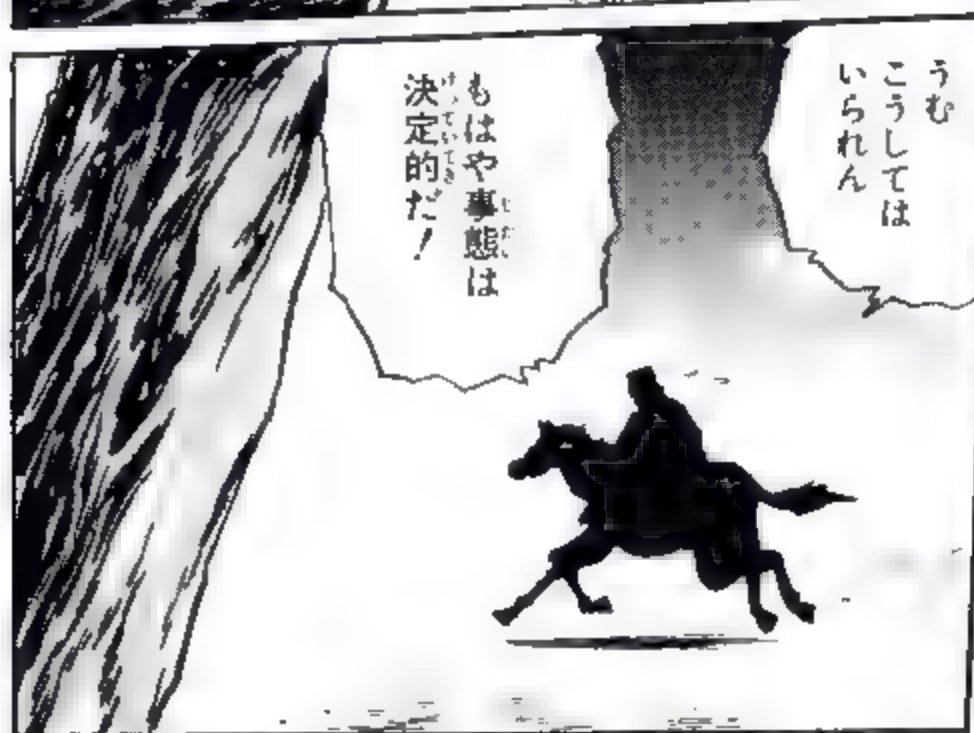
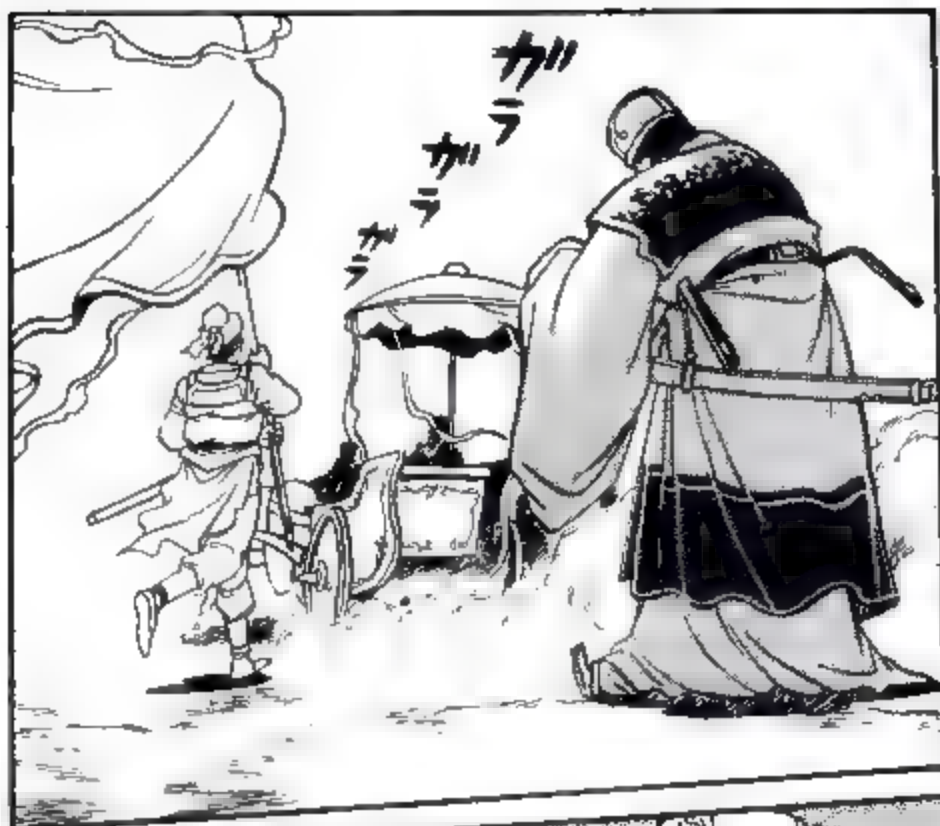
はい
先ほど丞相より
知らせが
参りまして



ん？









お帰り
なさいまし

うむ
今日は疲れた
酒を持って



むっ？



なぜ
宴席の
準備など
している？

は？

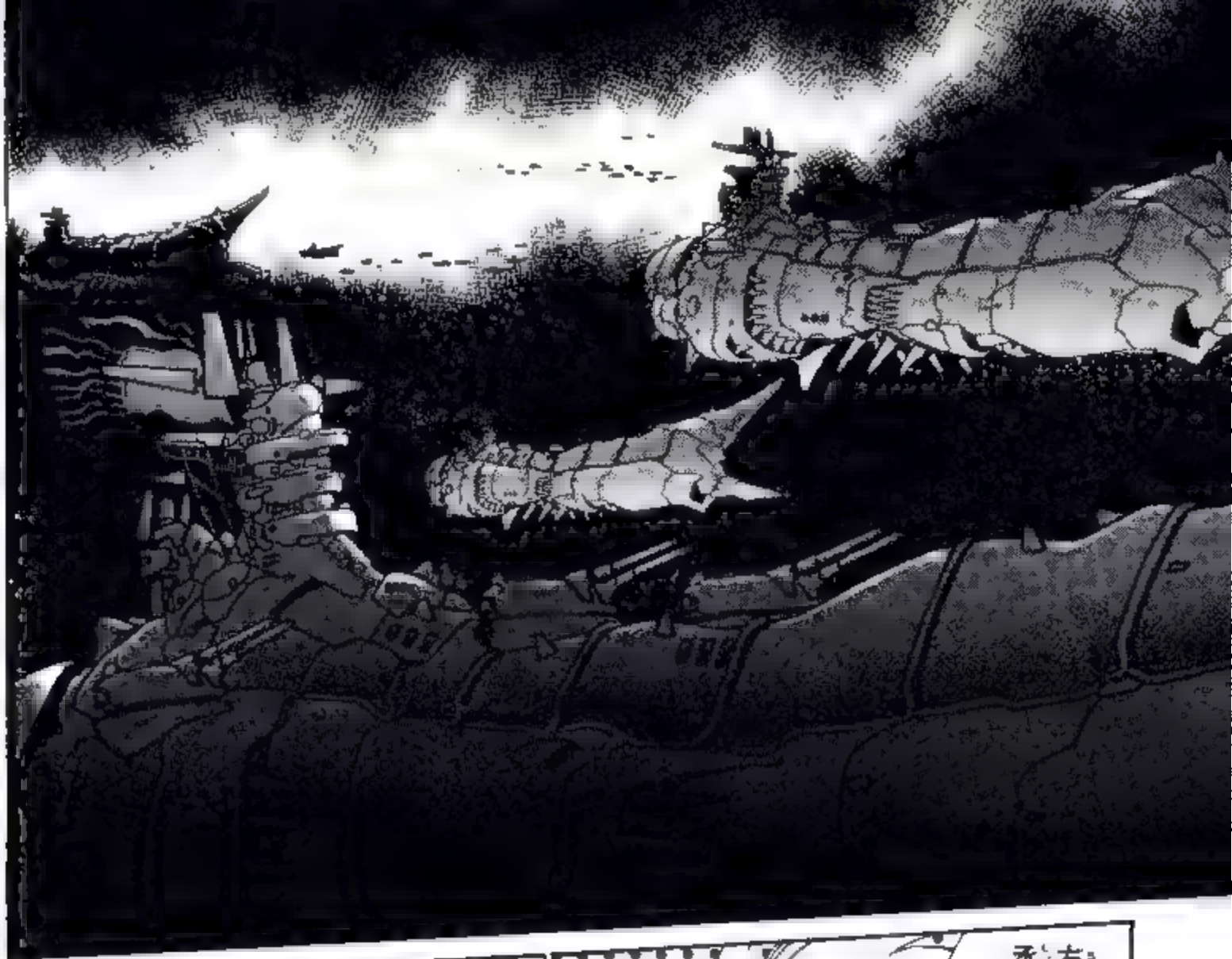
しかし
丞相より
客がある故
用意するようにとの
書状が参り
ましたが



このようなもの
わしは書いた
覚えがないぞ

は…はあ
では何かの
手違いで…
申しわけ
ありません

気になるな…
明日にでも
調べてみよう



左大元帥狼刃
丞相骸延



五丈の人物といえは
この二人だけだ
あとは有象無象
小人の集まりで
しかない



まあ
そのうちの一人
骸延の命運も
これまでだろーて

太助のやつ
うまくやってっ
かな

まあ
心配ないだろ

今五丈は
度重なる敗戦続きで
動揺してるだろーし
骸羅は頭に血が
昇ってる
タイミンクとしては
ばっちしだ!

俺の計通り
動けば
大丈夫さ

骸羅が
骸延を
処刑するの
は
時間の問題だ

しかし
何といつても
実の弟で
知恵袋だぜ
骸延は

奴だつて
骸延の策が
あつてこそ
天子の位に
つきたんだろ

雷
昔からこーいう
ことわざが
あるのを
知ってるか

「狡兔死して走狗煮られ
高鳥尽きて良弓蔵れ
敵国敗れて謀臣亡ぶ」
ってやつだ

な…何だ
それは？

兎が死ぬと
獵犬はいらんから
殺される
つまり大業を
成し得た時
それを助けた人間は
不要になるって
ことさ

骸羅は
自分が皇帝に
なるためには
骸延の頭を
必要としていた

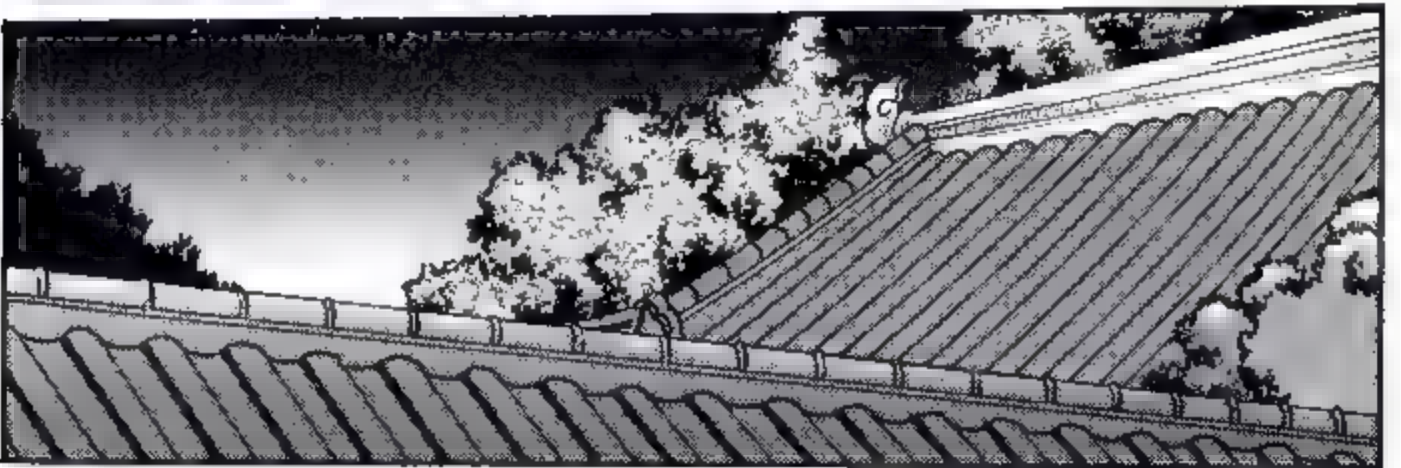
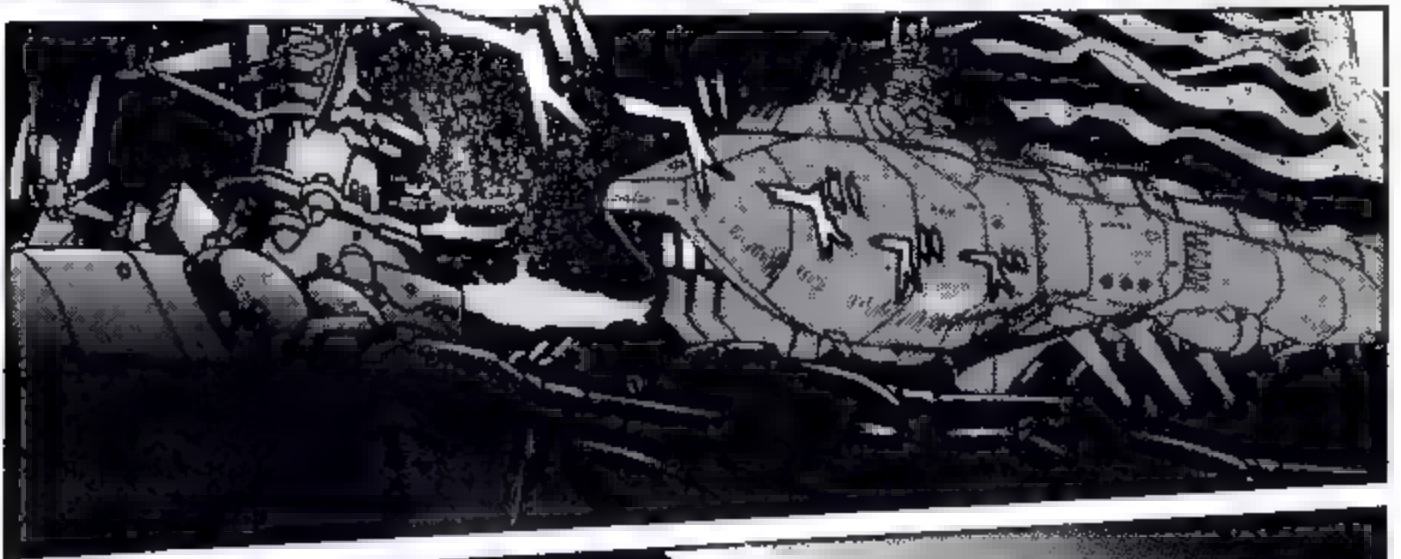
だが
皇帝になった今
すべて自分の力
だけで
やっていけると
思い込み始める

となると
主君を超える勇略は
必要ないし
逆に疎まれもする

同じ血を分けた
兄弟でも
同じことだ
骸羅が帝位に
ついた時に
骸延の命運も
決まっていたのさ

そーいう時の
処世を
うまくやって
いくのも
この乱世じゃ
必要なんだ

お前
自分の策で
陥れながら
骸延にけっこう
同情的なようだな



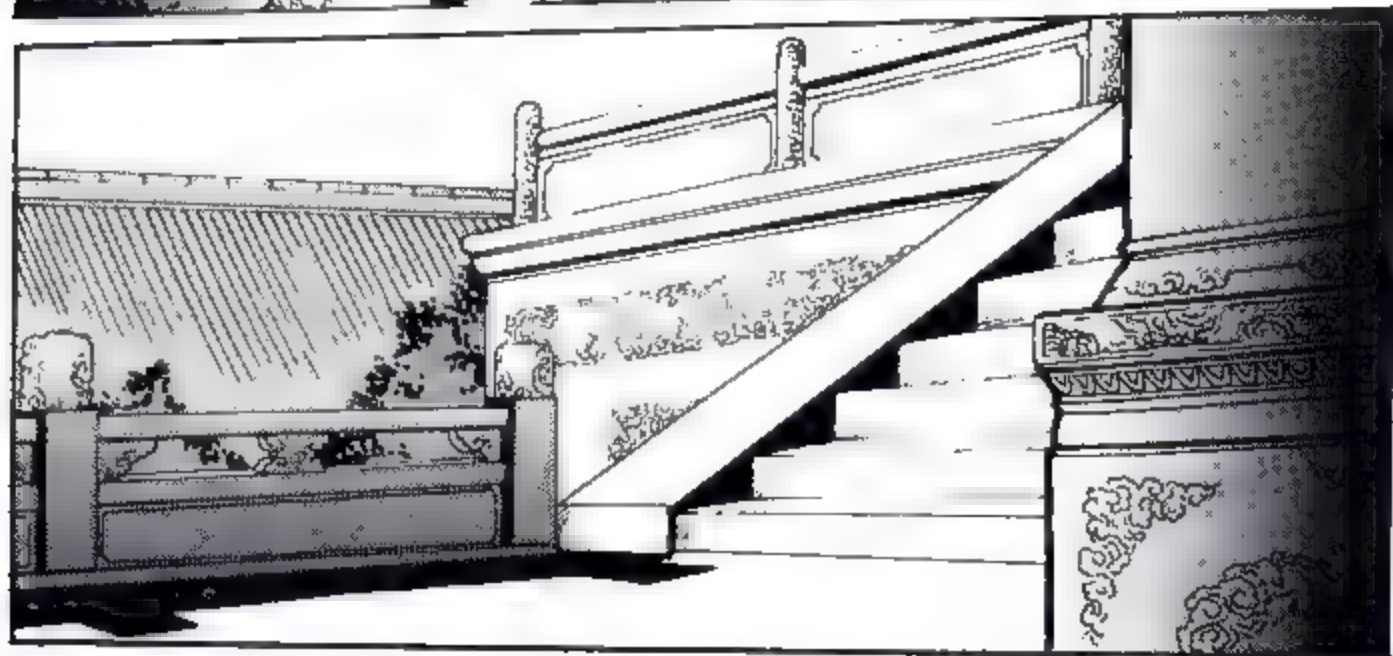


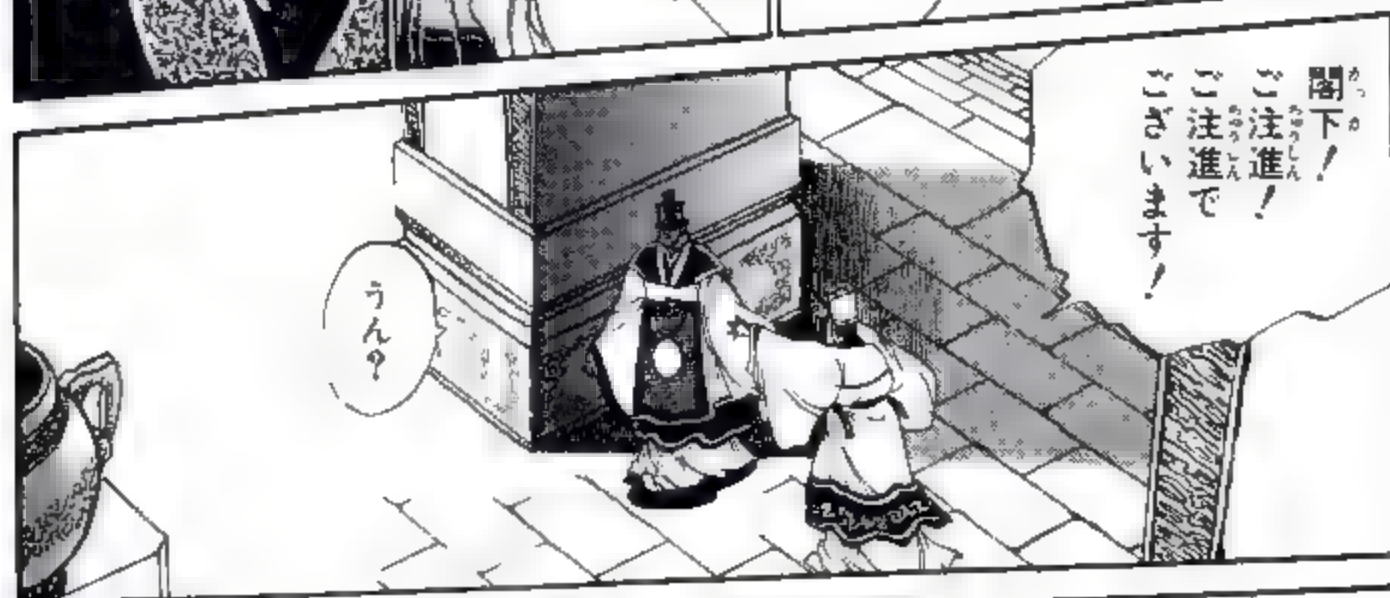
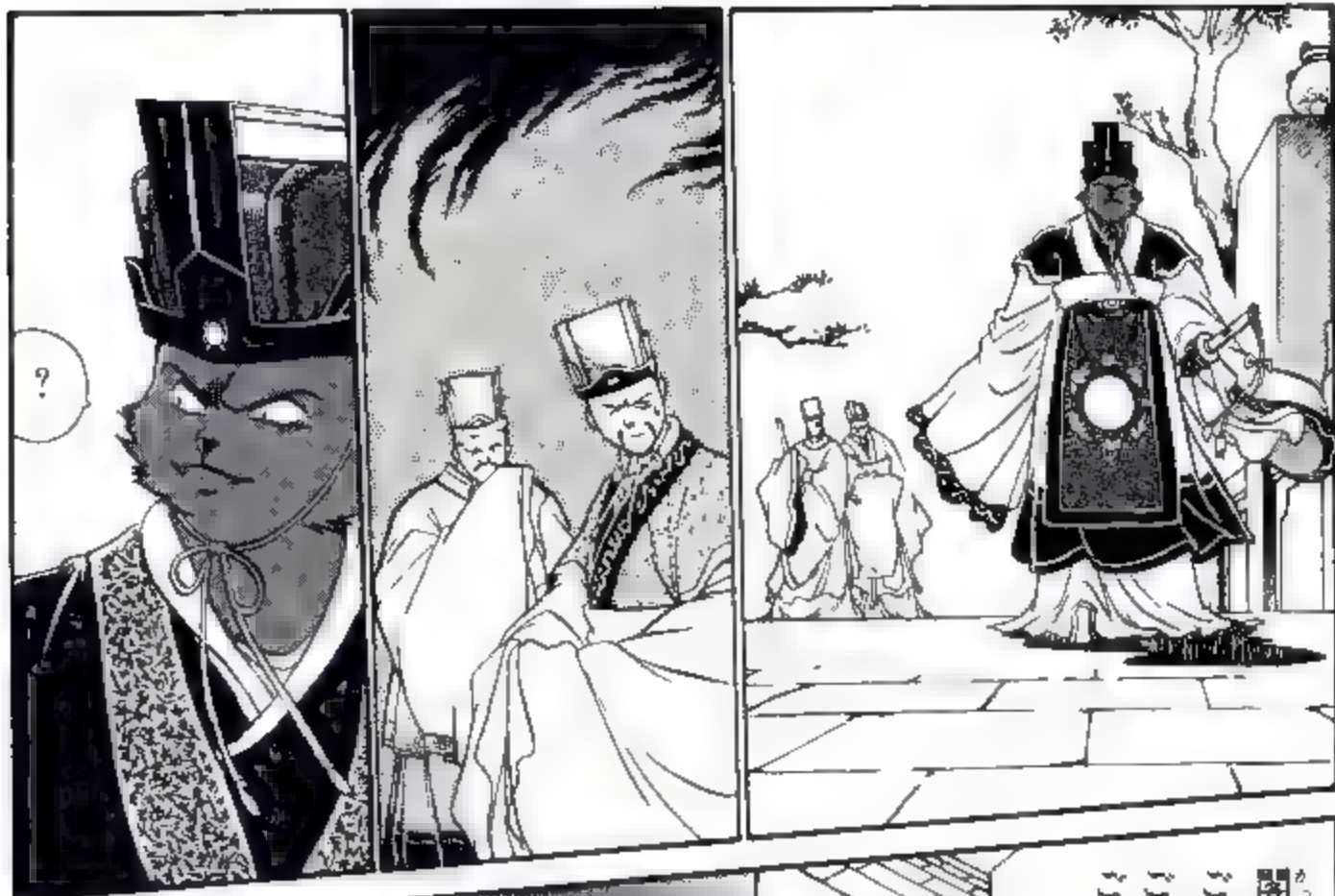
お体には
くれぐれも
お氣をつけて
下さい

閣下は
五丈の柱石
それに……

わかつている
そなたに
心配はかけぬ

今日はなるべく
早く帰って
息子の相手を
しよう





重臣の一部が
陛下に
閣下に謀叛の
兆しありと
奏上しました

今日の朝議も
閣下を詰問
するために
開かれるのです!!

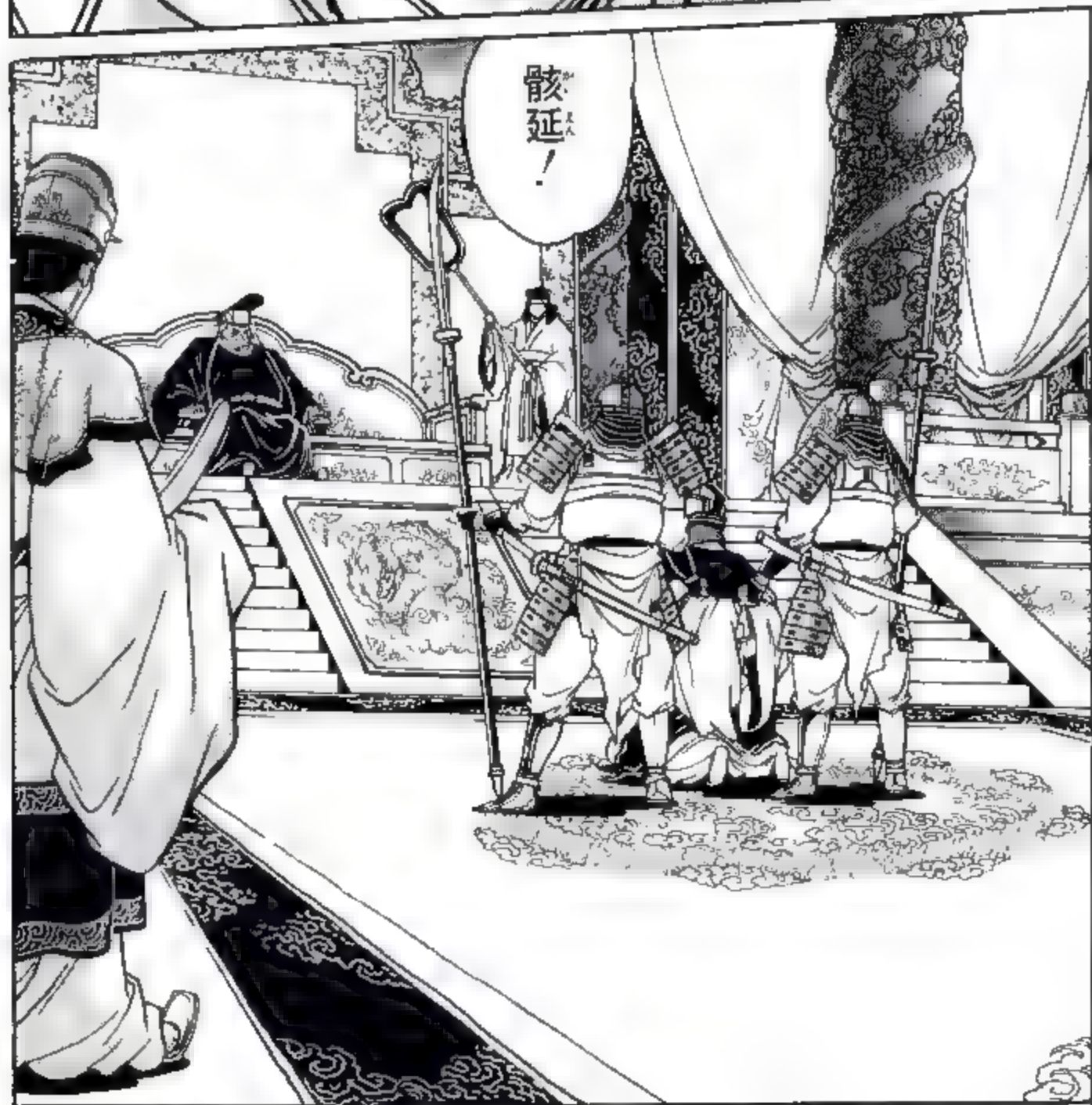
ば...ばかな
このわしが
謀叛だと...!!
何を根拠にだ!!

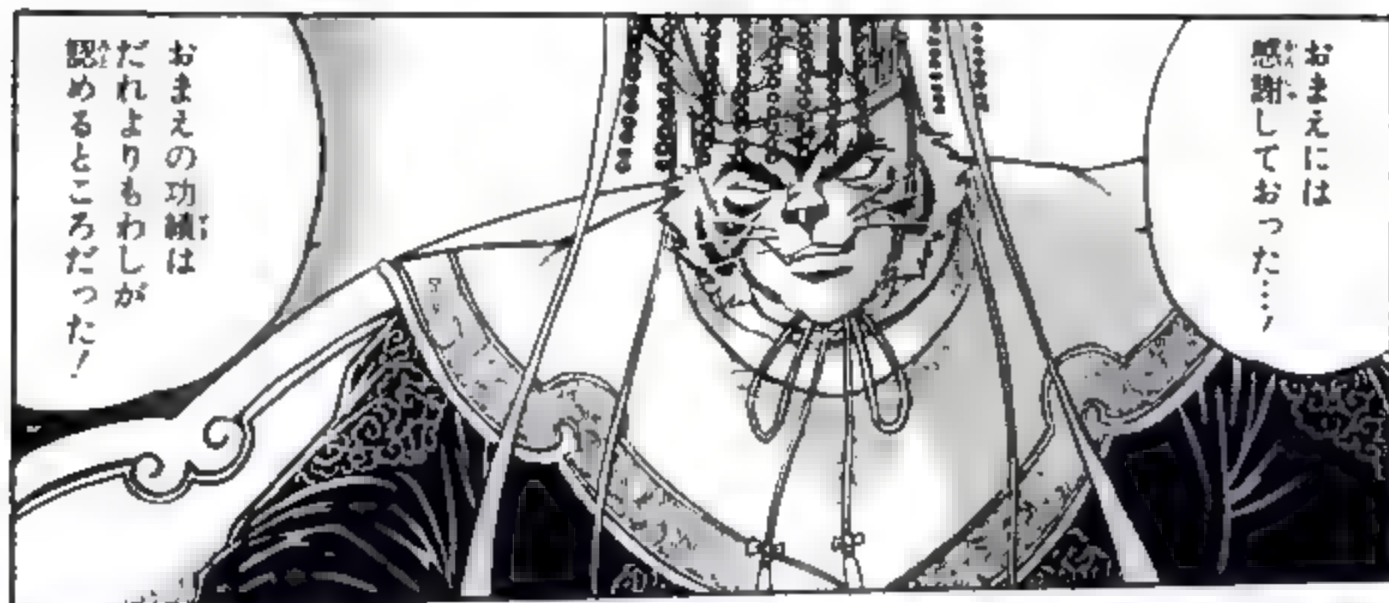
わかりません
とにかく
危険がせまって
おります!
今日のご参内は
おやめ下さい

い...いや
このまま
帰ったのでは
陛下の疑心に
油を注ぐだけだ
...!!

このわしに
やましいことは
一つもない!
よく道理を説けば
陛下の疑いも
晴れよう

う...っ!!



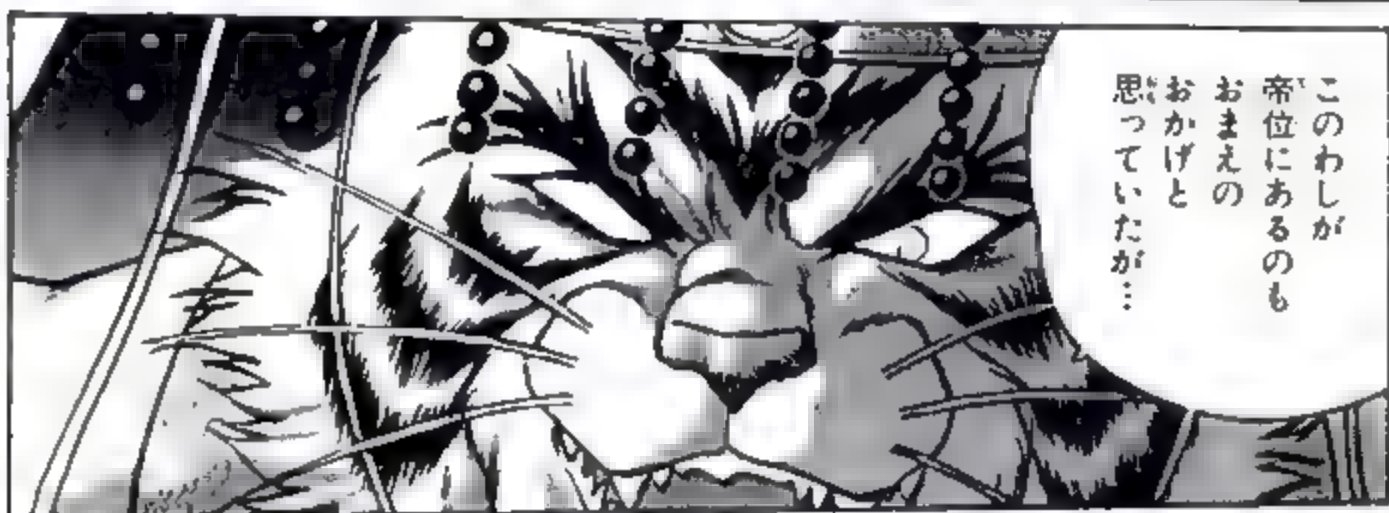


おまえには
感謝しておった……

おまえの功績は
だれよりもわしが
認めるところだった！



それゆえ
わしはおまえに
国政のすべてを
任せておった……



このわしが
帝位にあるのも
おまえの
おかげと
思っていたが……



へ……陛下……

そのおまえが
わしへの
忠義を忘れ
叛心を抱くとは……！



罪状を
読みあげいっ!!

呉景公
骸延!



その方
丞相という重職に
ありながら
賊軍と通じ
造叛をたくらむとは
不屈き千万!

きさま
陳承!
右將軍の分際で
このわしを
裁く気か!!

この幾
どう申し開き
なさるか!



おだまり
なされ!

各大臣連名の
告発状で
ございますぞ!!



バ...バカな...



どうじゃ
骸延
申し開きできる
ものなら
やってみい!



陛下
どうかお心を
お静めになつて
お聞き下さい

それがしが
叛心を抱くなど
全くもつて
身に覚えが
ございません！

だまれ！
きさまが反乱軍と
内通していたことは
多くの家臣が
証言しておる！

まだ白を
切るつもりか！！

だ…誰が
そのような
戯言を……！！

ええいっ！
打て！
こやつを打ちのめして
白状させい！

はっ！

陛下の御命で
ある
早々に白状
なされ！！





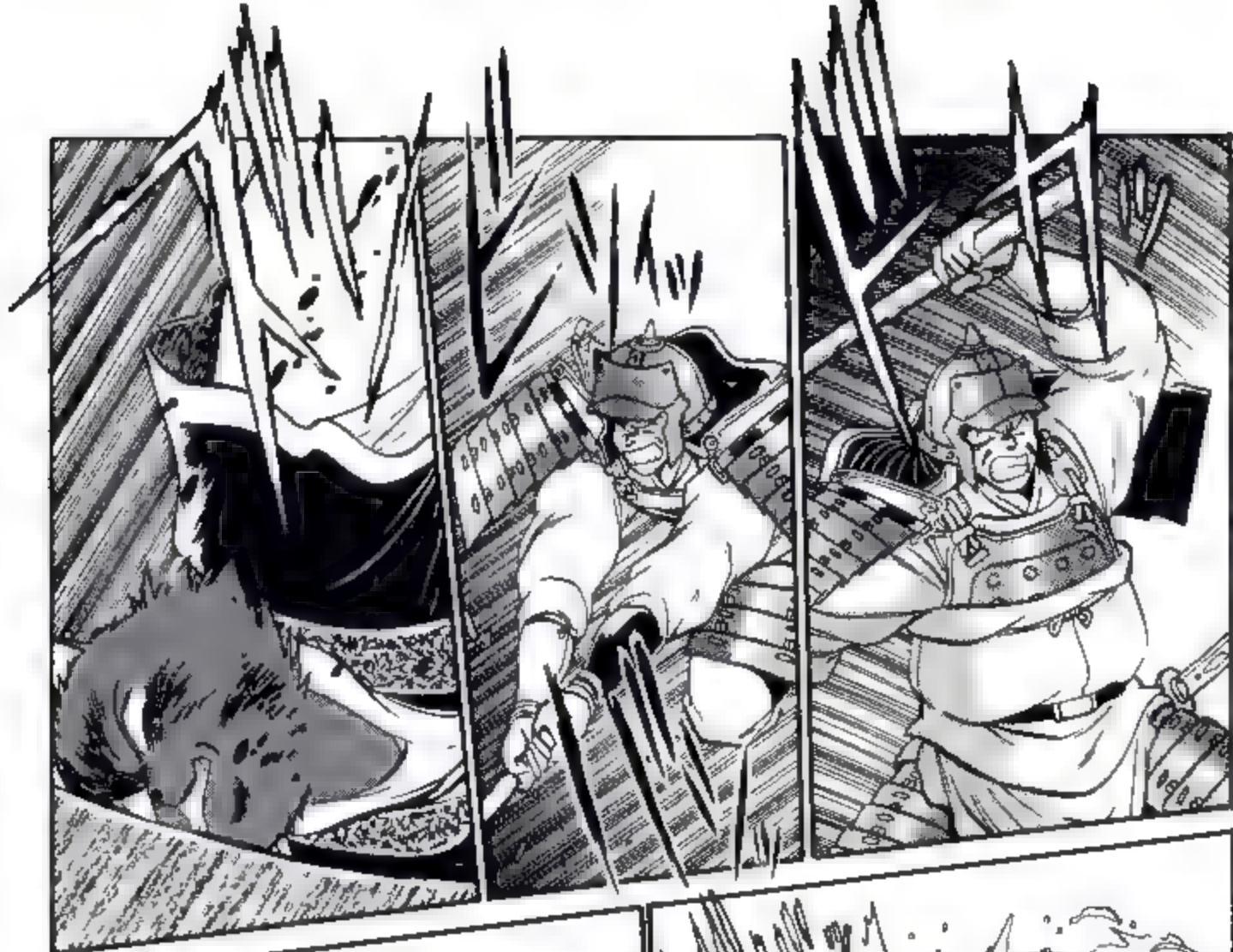
お疑いなら
それがしに一軍を
お貸し下され……
必ずや反乱軍を
討つてご覧に
入れます……!!

へ…陛下



バカが!
謀叛人に
兵を渡すなど
できるか!

ええいっ
手ぬるい!
もっと厳しく
責めいっ!!





唐香!!



陛下...いや兄上!
これは竜我の
反間の計ですぞ!!

乗せられては
なりません!
とうかそれがしの
言葉を信じて
下され!



逆臣の種を
残す気は
ない!

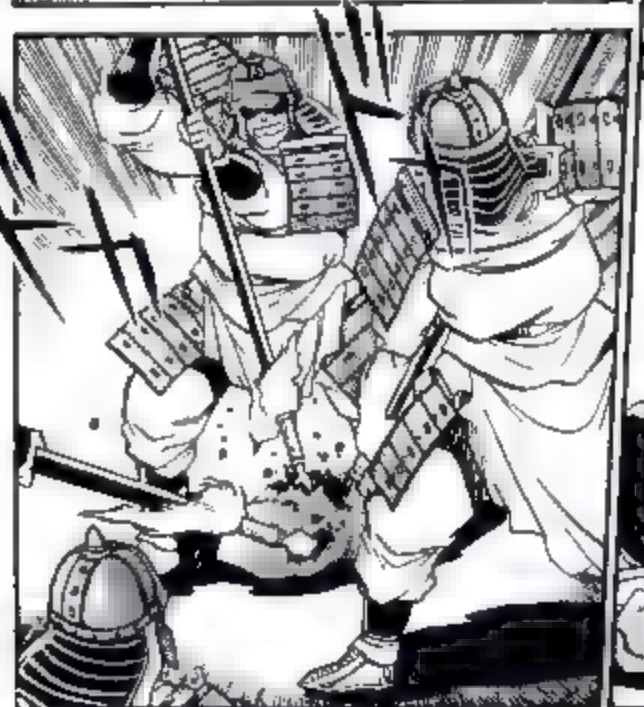
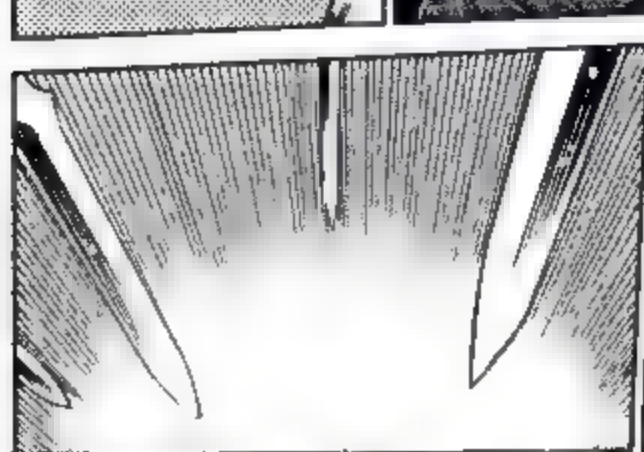
素直に罪を
認めればよし...!
さもなければ殺す!!



閣下!!

我が弟ながら
見苦しいぞ
骸延!

あにうえ
兄上!!



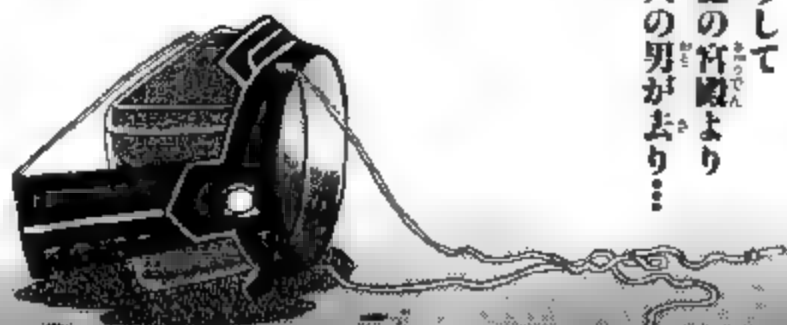


何^{なん}ということ^を……
何^{なん}ということ^を
してくれたのだ……!!





こうして
骸羅の宮殿より
人の男が去り…

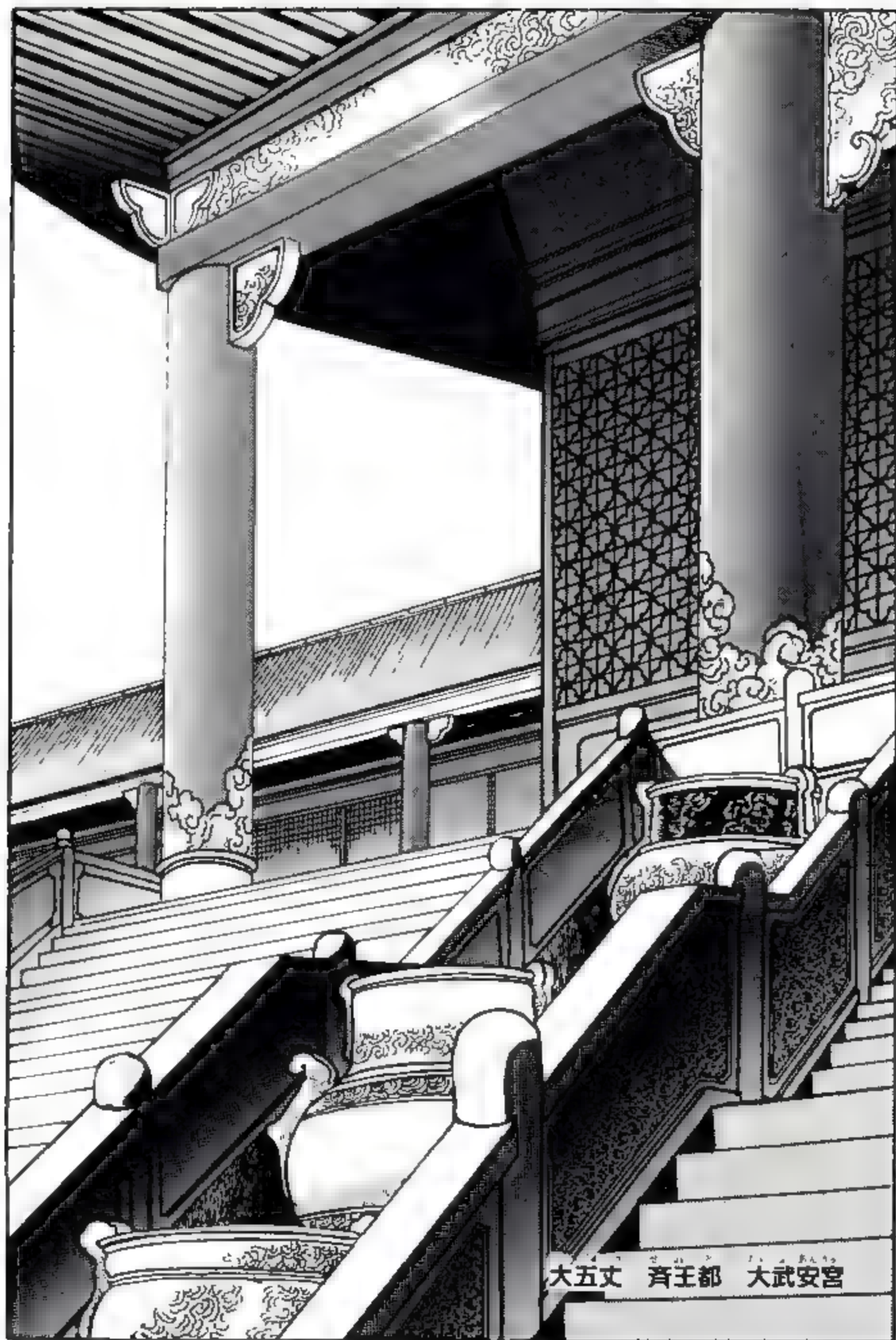


今また
骸羅は
最後の切れである
人物を
宮殿に招き入れた

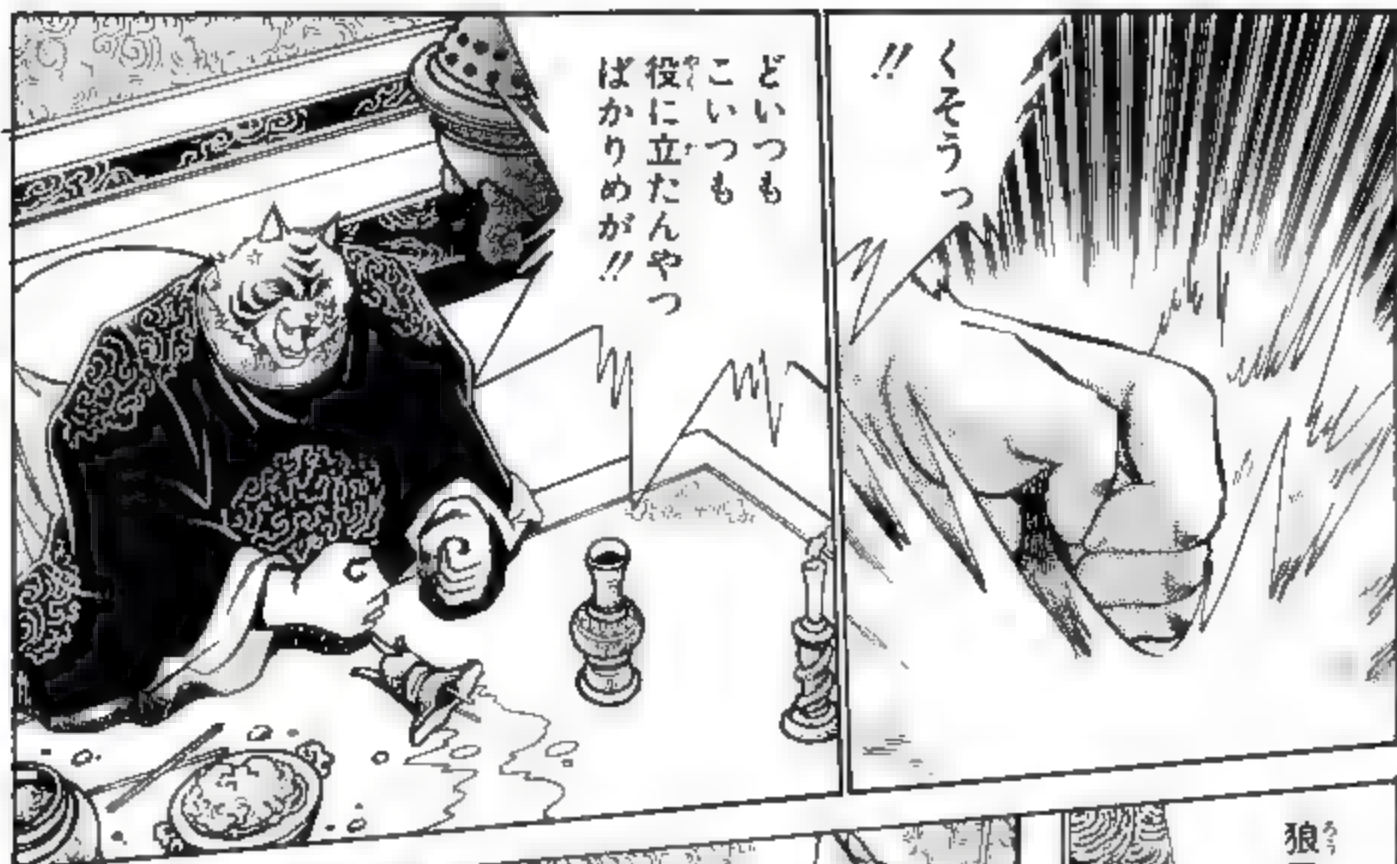


大海に
放たれた竜
竜我雷を
そう評したのは
時の驃騎元帥
狼刃であつた

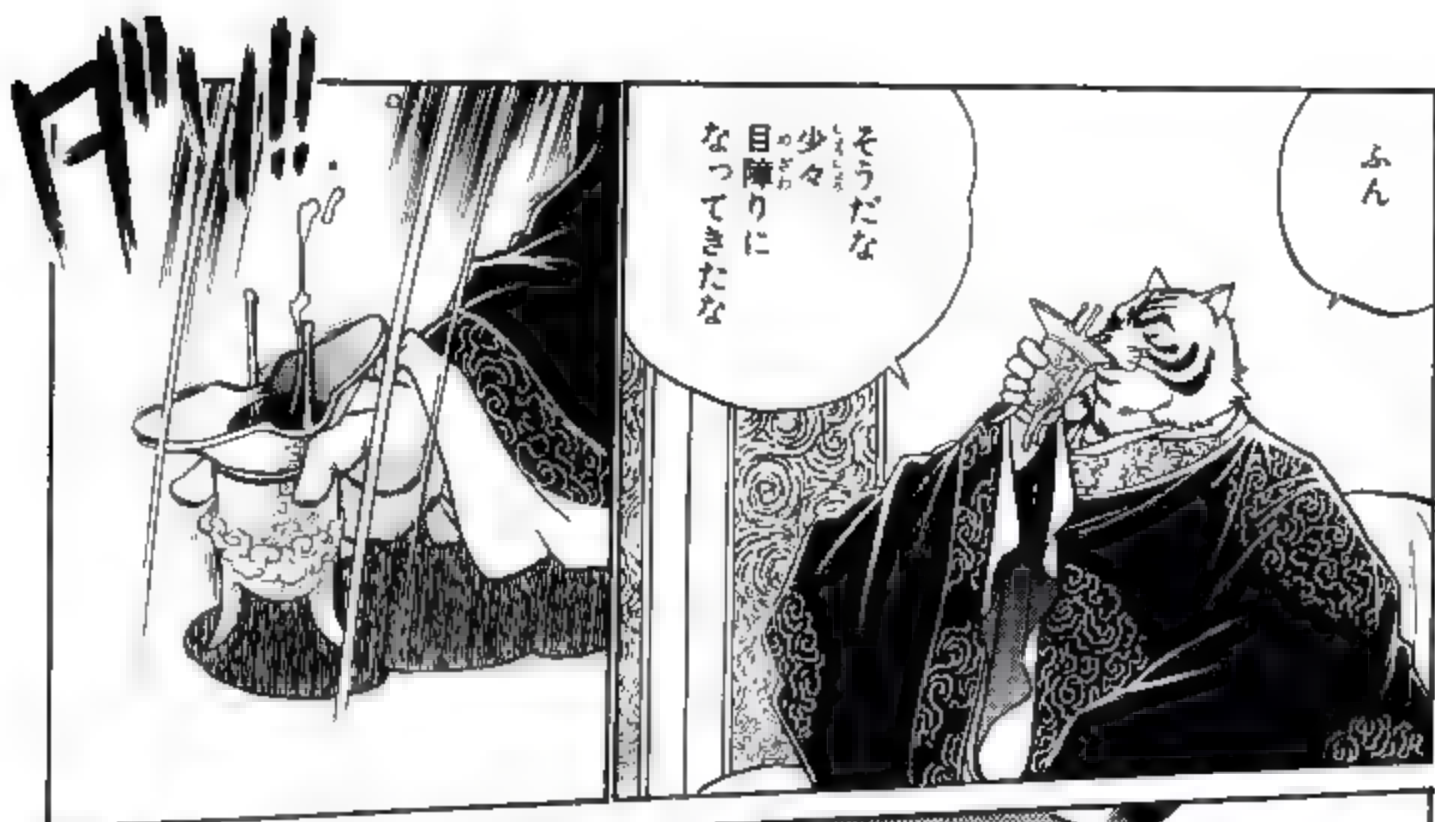




大五丈 齊王都 大武安宮







まあ
おまえに
とつちや
指先で虫を
弾く程度で
物足りねえ
だろうが

ここは一つ
腹ごなしだと
思っ
頼むぜ

虫を弾く
か……

虫の一咬みで
巨象も倒れる
こともある
……

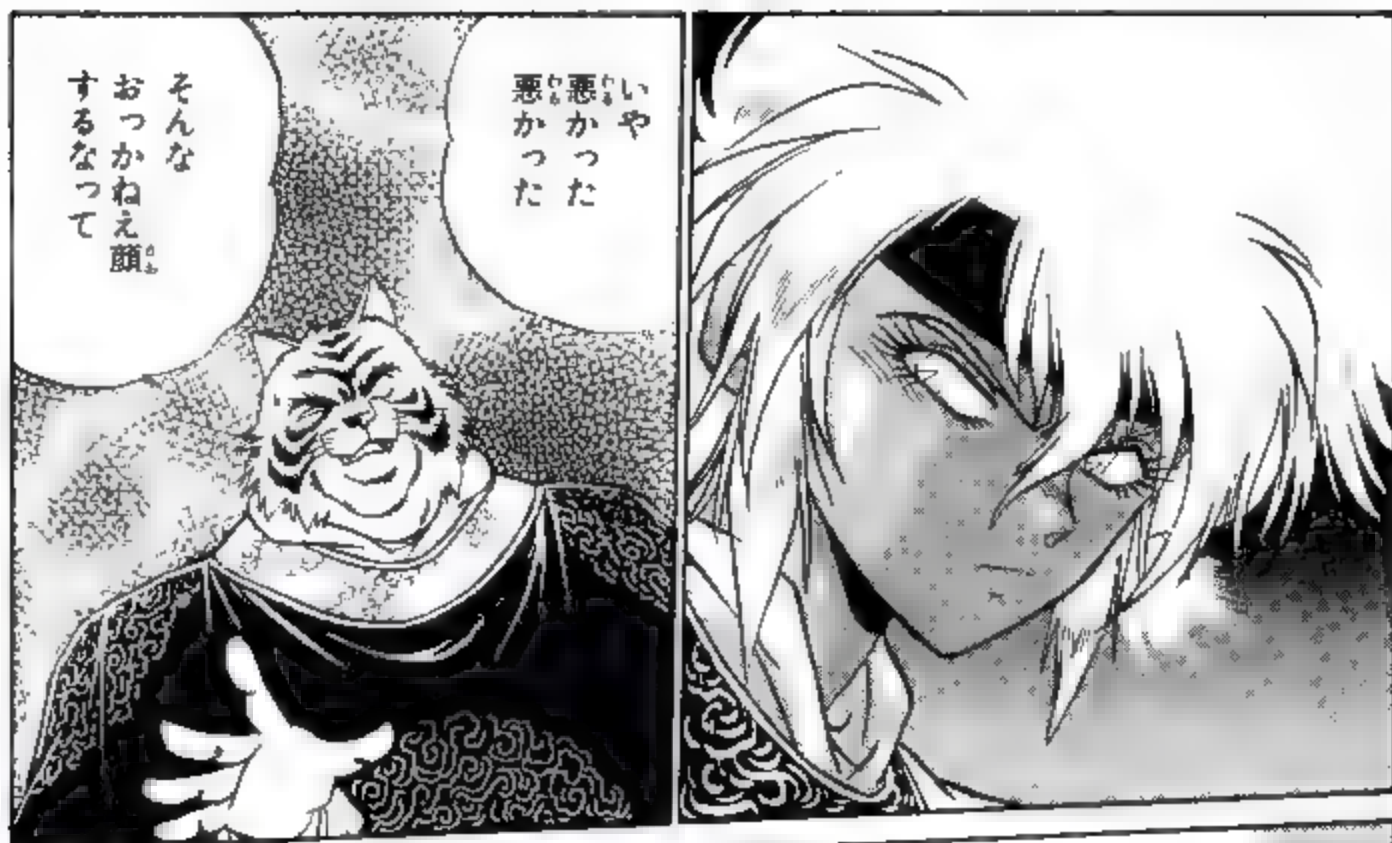
もっとも
あたしは
巨象に
なる気は
ないけど
ね

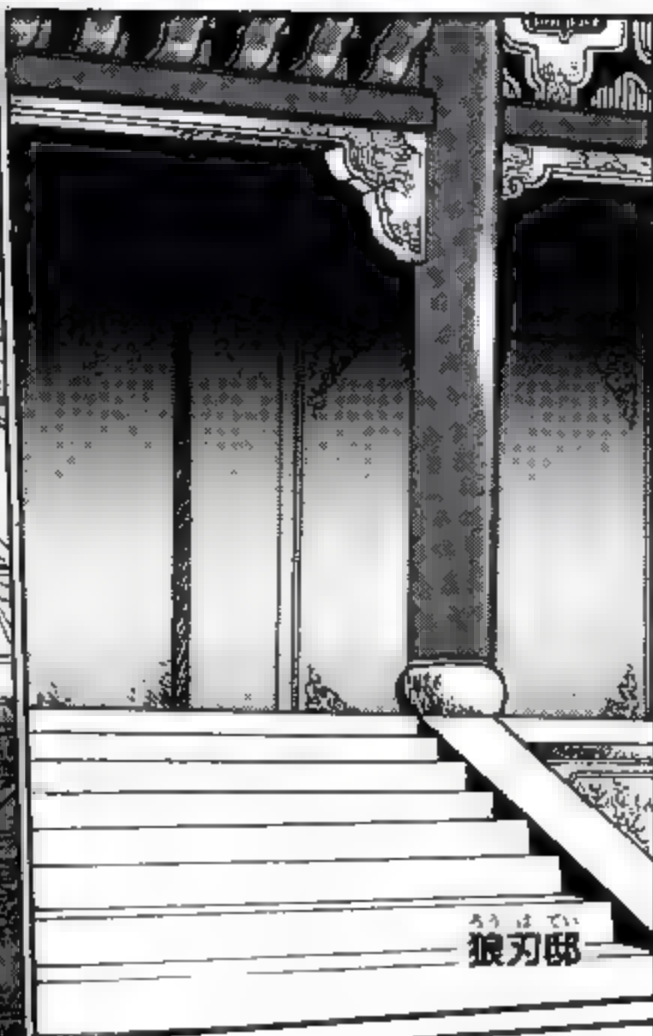
そうか！
頼まれて
くれるか！
いや
おまえにまで
面倒かけるのは
悪いと思っ
たが
よろしく
頼むぜ

明朝にでも
発つよ

こんなことを
聞くのは
なんだが……

あの若造は
以前はおまえの
部下だった
よもや
手心を加えたりは
しねえよな





狼刃邸

閣下
お言いつけ通り
屋敷内の金品は
全て集めました

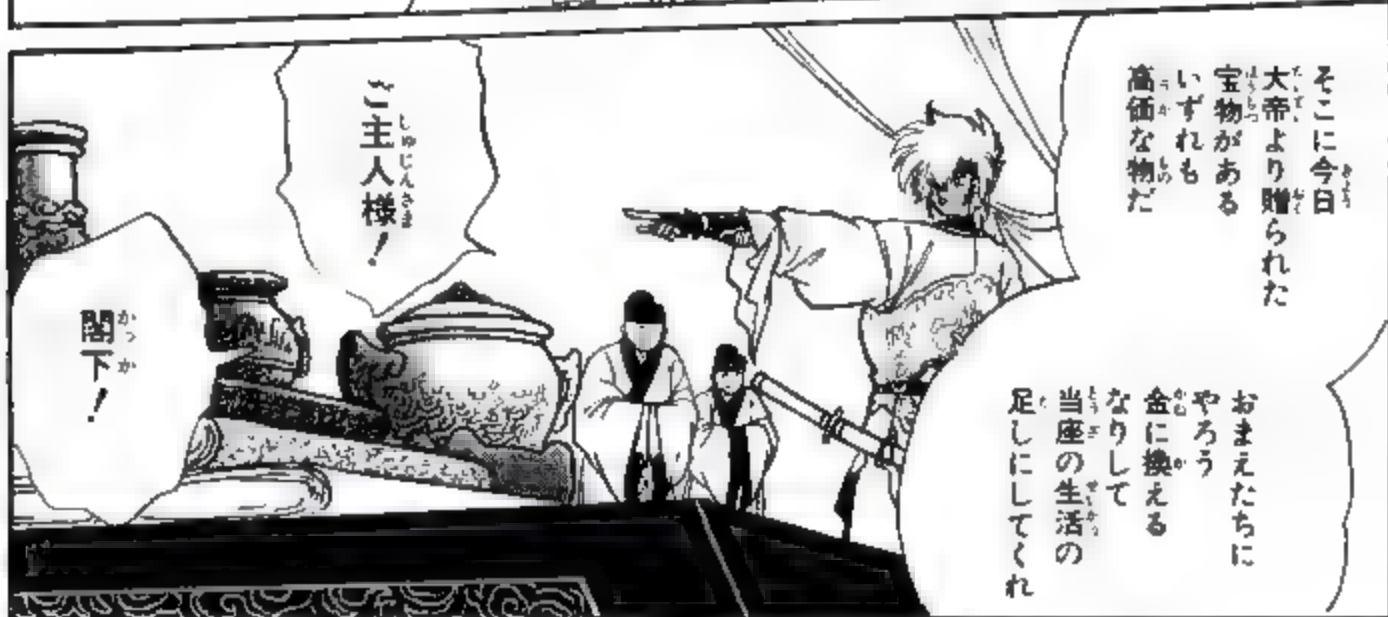
これらの物は
全てあたしが
五丈国より
賜った物だ
明日
城内の倉庫に
もどせ



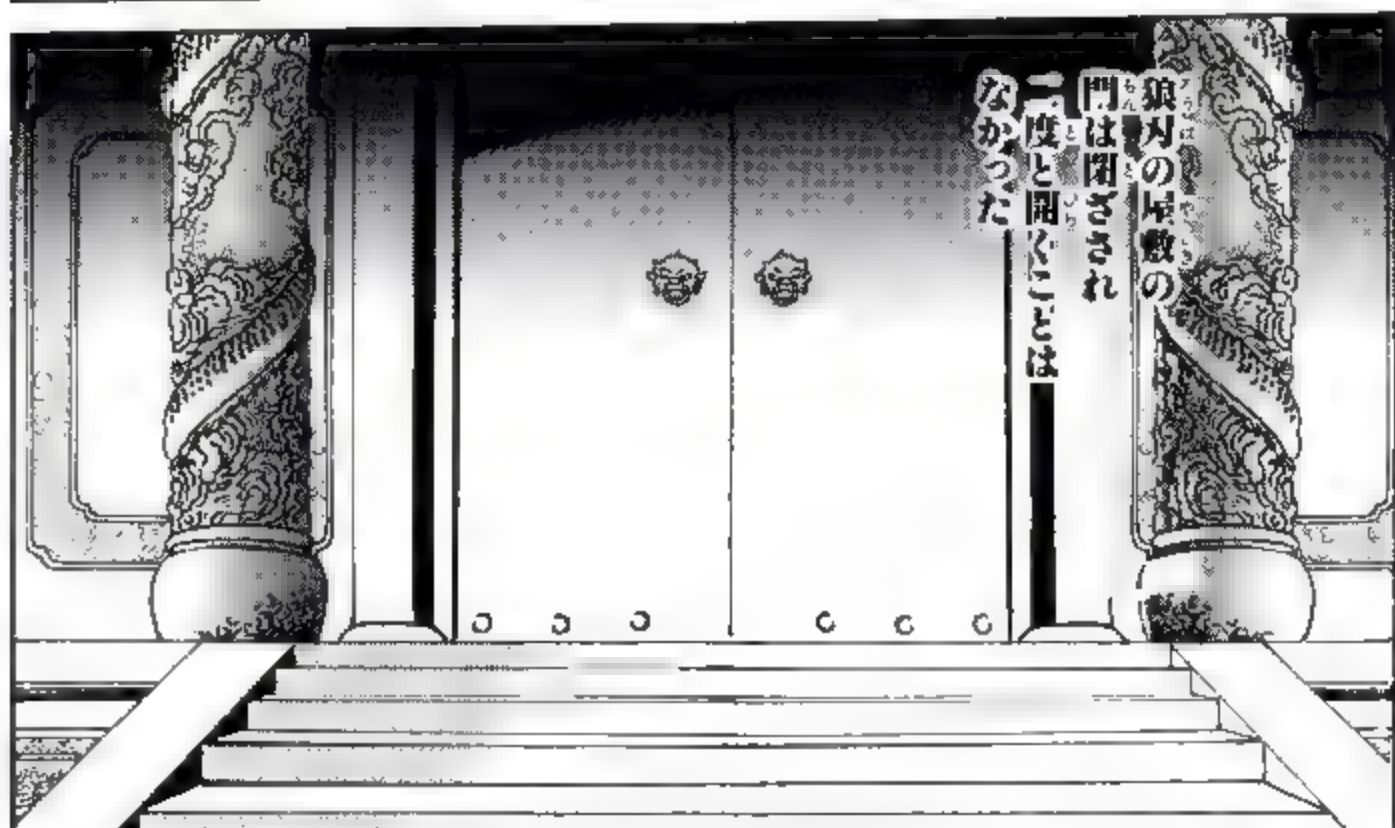
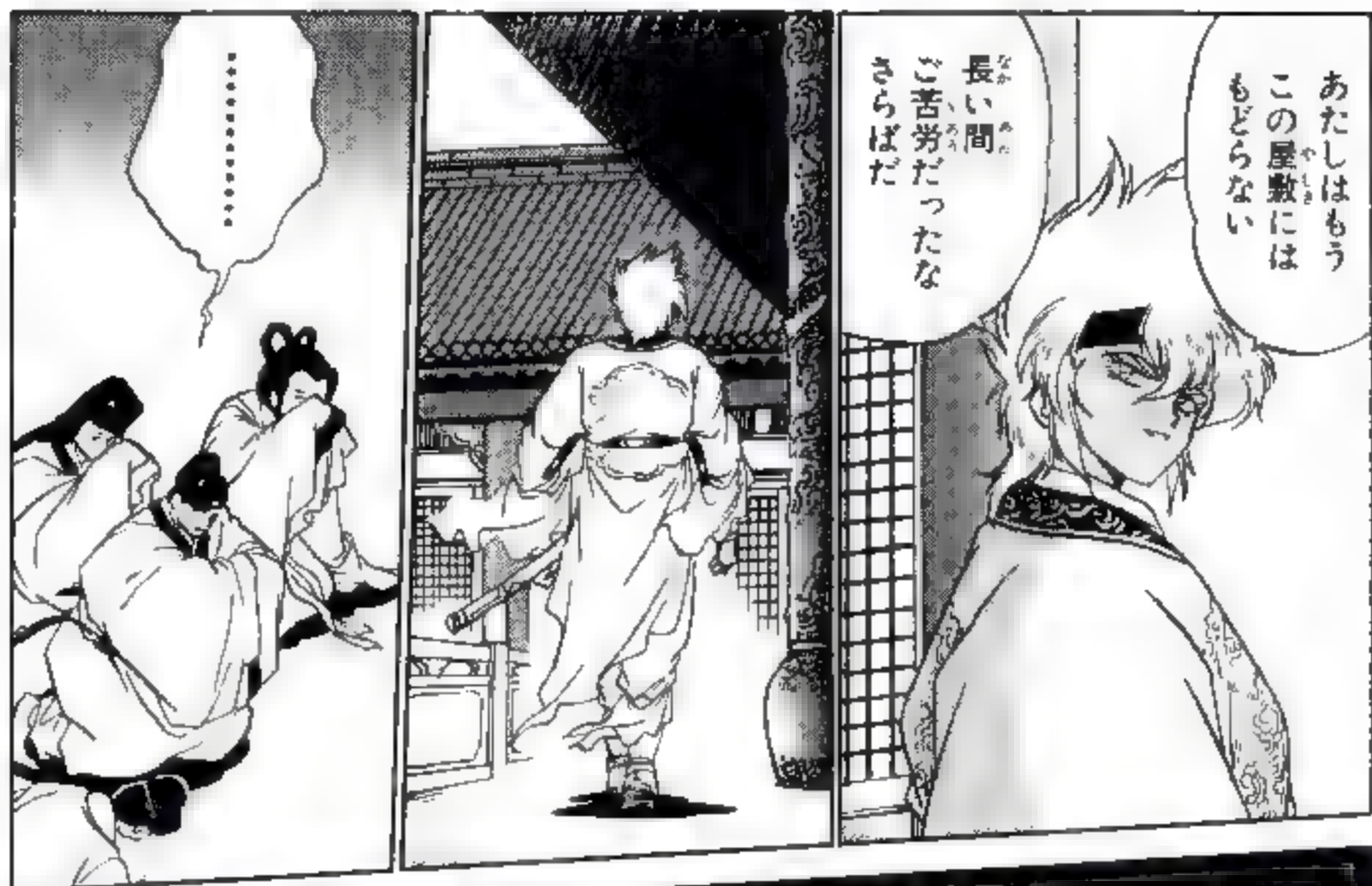
そこに今日
大帝より贈られた
宝物がある
いずれも
高価な物だ

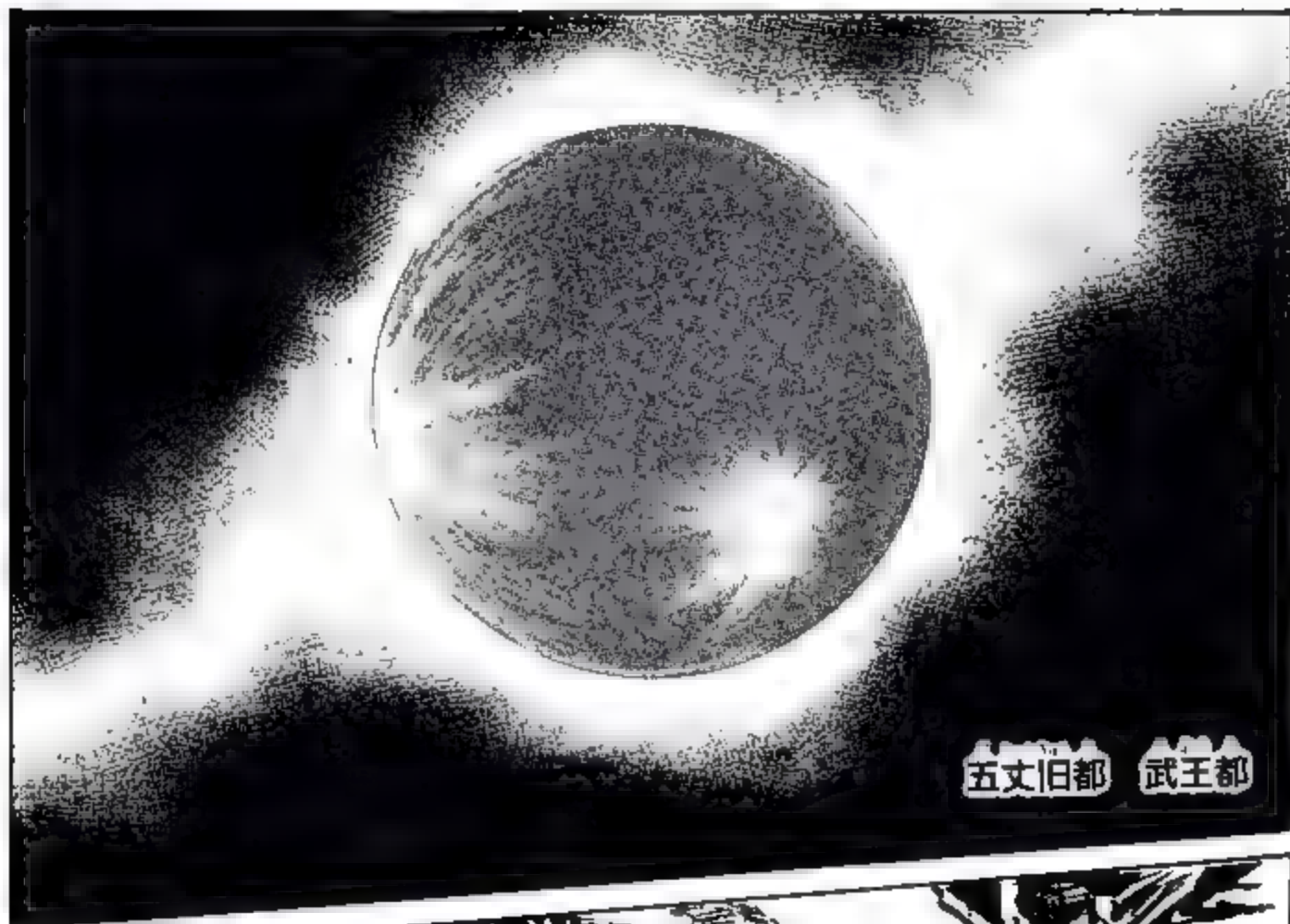
ご主人様！

閣下！



おまえたちに
やろう
金に換える
なりして
当座の生活の
足しにしてくれ





五丈旧都 武王都



彈止存命中は
繁榮を極めた
武王都であつたが
影羅の遠征で
焼き払われ
何百万といわれた
住人も
わずかに数人を
残すのみ
瓦礫の山と
化して
いた



属の各外敵甲の
 ところ
 比紀神止の
 口人な陸奥が
 ある



しかし
 調神品を
 引った
 数層によつて
 あばかれ
 無様な姿を
 さらしていた

ひでえ
もんだな

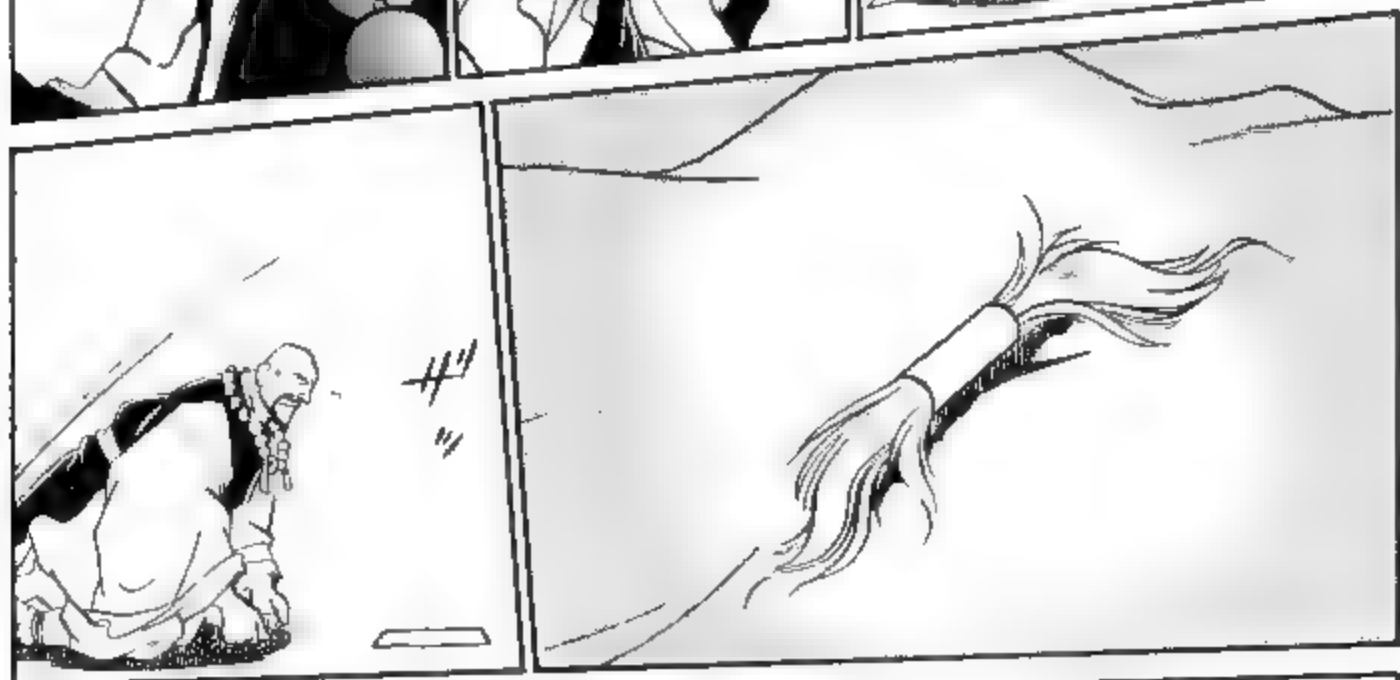
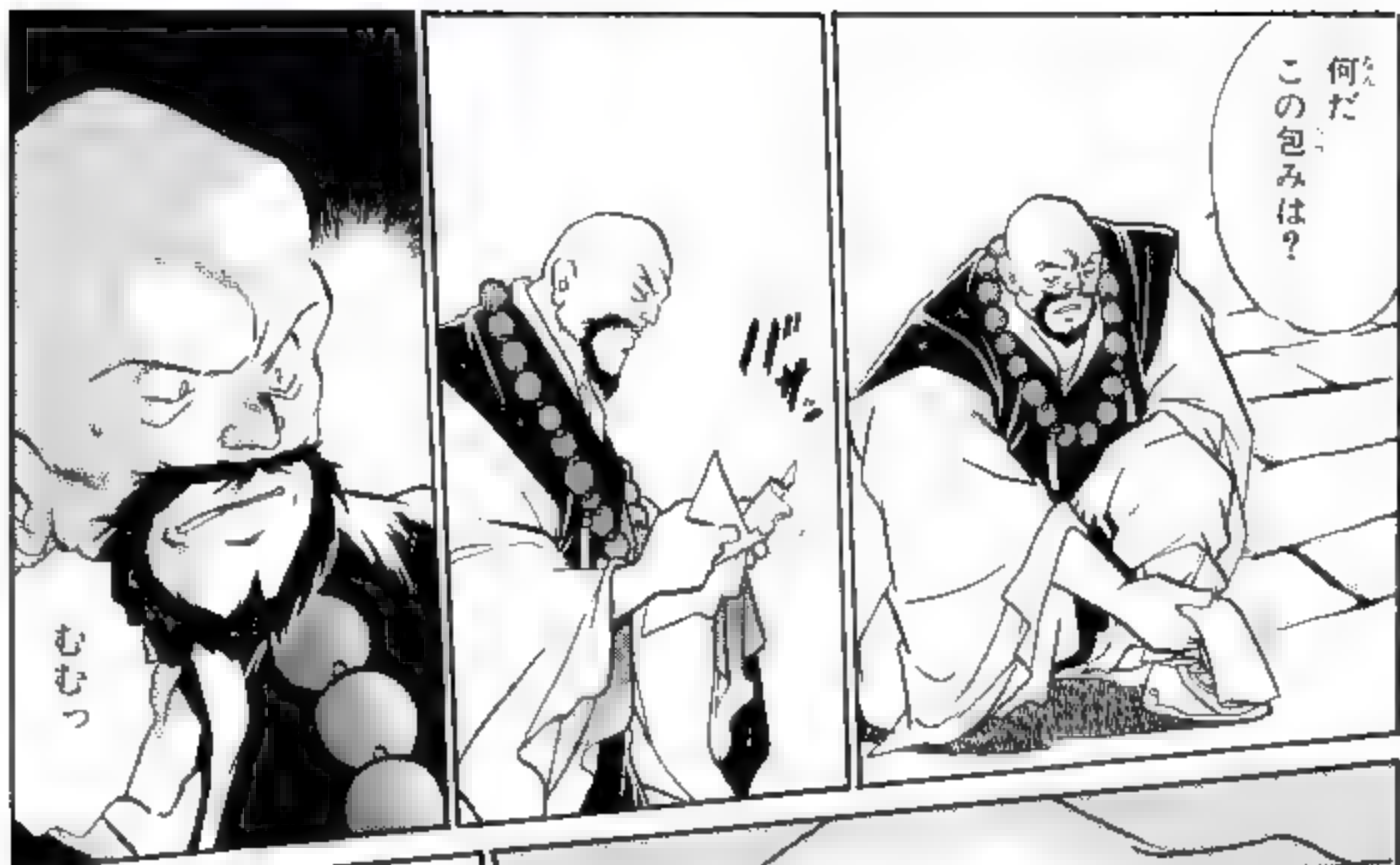
これが
あの弾正公の
勢威の
なれの果てか
……

見ちや
おれんわい
どれ
念仏の一つでも
差し上げよう

ん？

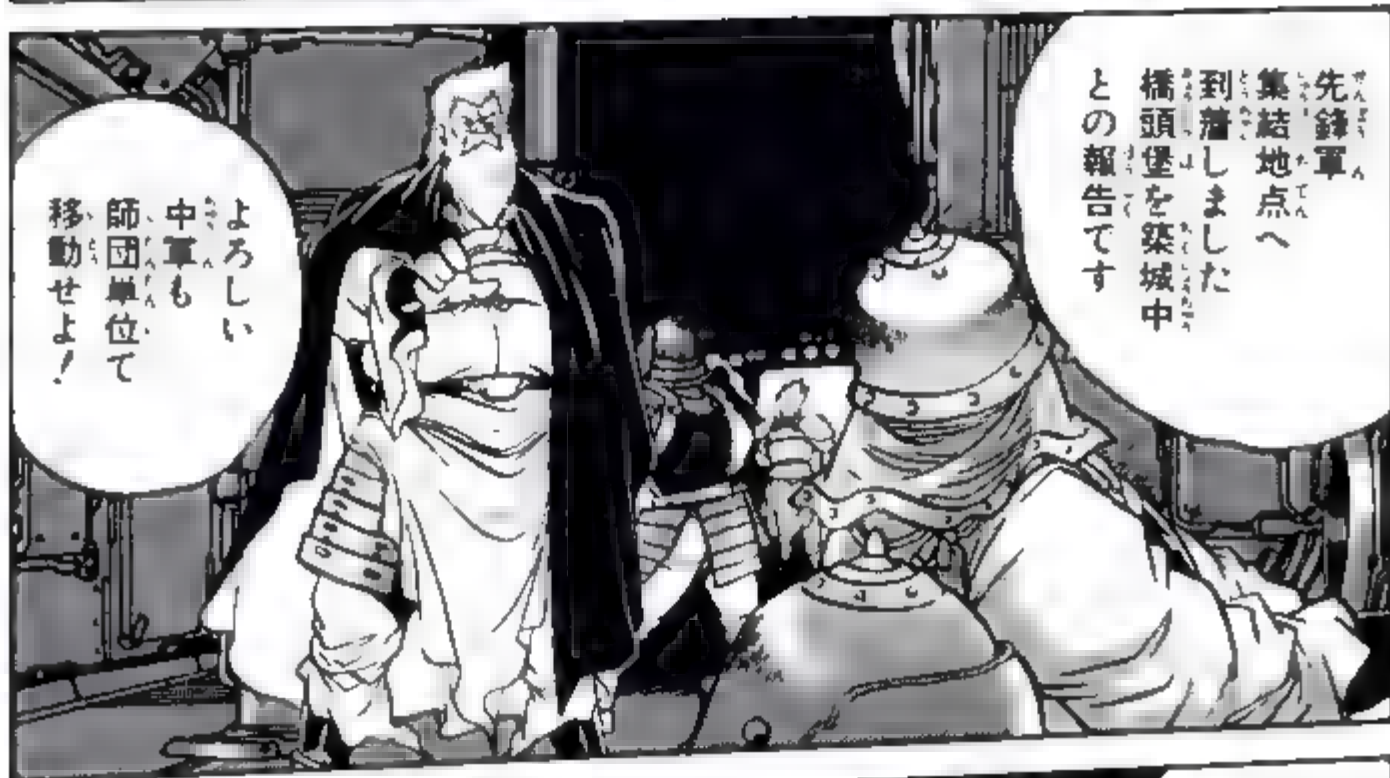
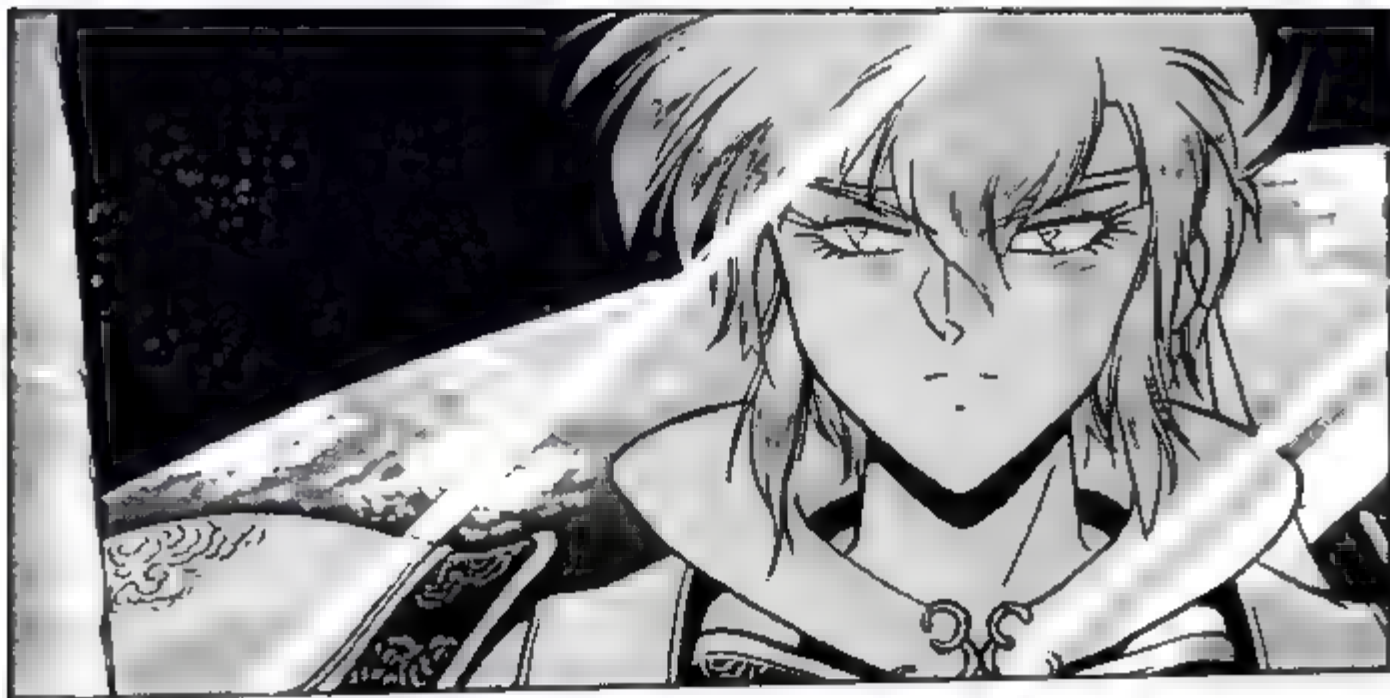
ほう
ついさつき
ここに人が
来たに見える

まだまだ世の中
捨てたもんじや
ないわい









はつ
各々国境の
駐屯地より
兵を率いて
集結中とのこと

元帥の
ご到着を
お待ちしております
いますので
ございます

そうか

ぼうや
ぼうやと
思っていた男と
今まさに
剣を交えることにな
るとは……

歳は
とりたくない
もんだな
ええ老將軍

……
閣下には
いつかこういう時が
来るのは
わかっていたのでは
ございませんか

ふふ

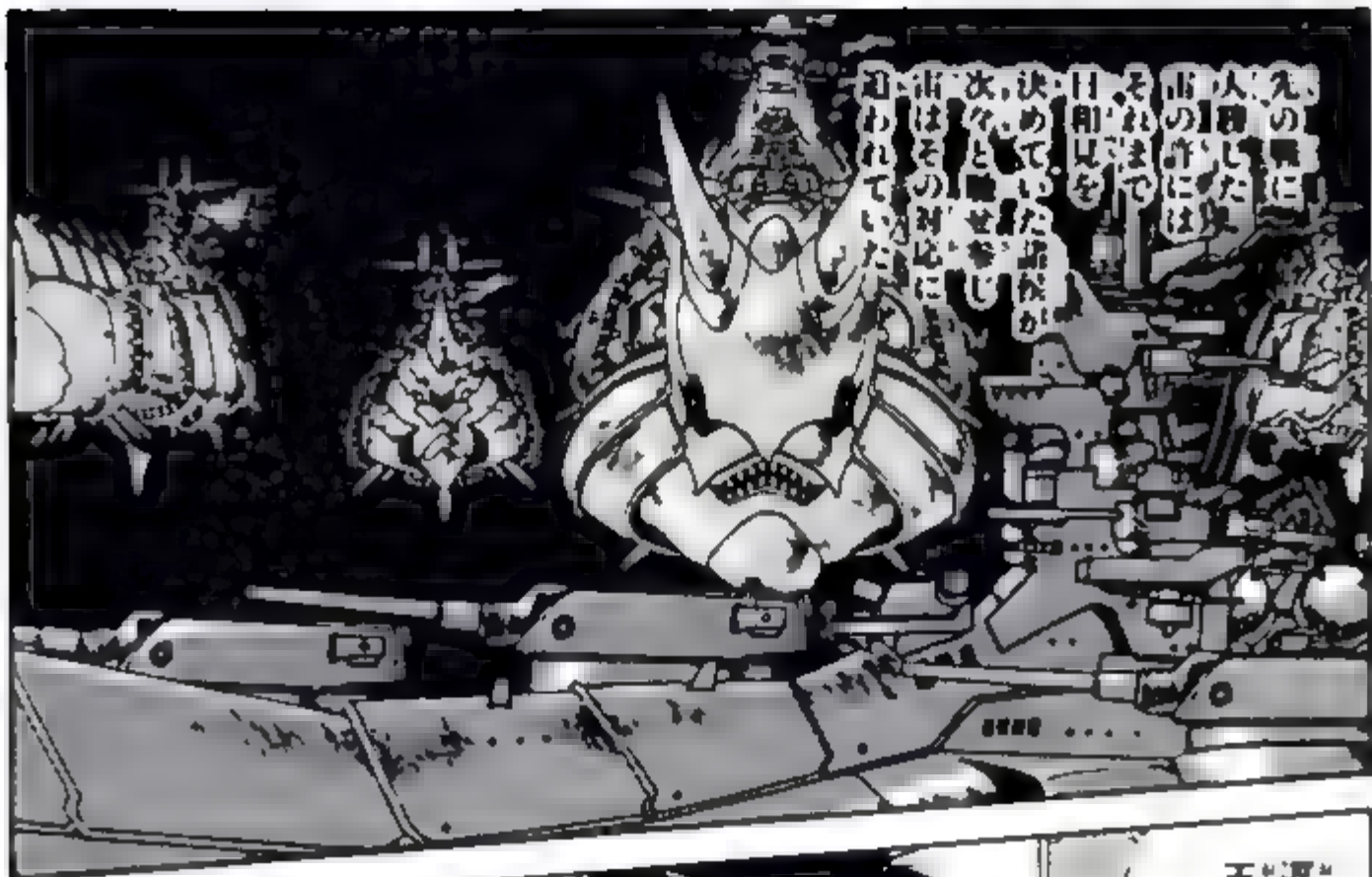
大海に竜を
放った時に
この日が来るのは
予感していた

大海を得た
竜が
どのくらい
成長しているか
……

楽し
み
だね！

一方、山本、南、米、四、決、進、休、時
本、京、る、帝、戦、撃、息、を
は、軍、べ、軍、に、も、と、負
い、は、は、き、力、回、一、し
る、は、の、え、時、て
る、は、の、え、時、て





先の戦に
人勝した
山の許には
それまで
日和見を
決めていた諸侯が
次々と降参し
山はその対応に
追われていた



遅かったな
王郎とやら

もっと早く
来てくれると
思っていた
がな



ははあつ！
な…何しろ
戦の連続…
民衆は混乱するわで
なかなか機会を得ず
心苦しく思っ
ておりました

どちらが
勝つか
高みの
見物と
いうわけか

め…減相も
ございせん





俺はあーいう
連中が一番
嫌いなんだよ

何ていうか
日和見主義で
強い方にすぐ
尻尾振るようなさ……
時間の無駄だぜ

そうおっしゃい
ますな



あー
くだらねえ!



まあな

小さき者など
一々お気に
なさいますな

將軍の
未だ聞かざる大功に
諸侯が驚いて
いるのです
当惑するものも
無理ございません



どうした
林則嘉
そんな息を
切らして

これが
騒がずに
いられますか

たった今
南京楼より
連絡が
入りました



將軍!
一大事です!!

練・南蛮
連合軍が
国境を突破し
怒濤の勢いで
領内に侵入している
とのことです!!

何っ!?
羅候がもう
動いたのか!!



…で
南京楼は
どうした!?

はい
包囲は
されましたが
ほとんど
無視されている
とのことです

その点
師真の読みは
当たったと
いうわけか……

しかし
こう早く
羅候が動くとは
計算外だぜ

師真を
呼べ!!

もう
来てるよ





將軍
それで
よろしいか……
すぐにでもここを
発ちたいが……

羅候も
もうただの
猪武者では
あるまい

頭をガツンとやれば
不案内な
五丈の地だ……
伏兵を恐れて
動きはすまい

ああ
できるだけ
早く片づけて
戻ってきて
くれよ

林！
將軍を
頼んだぞ

はい

予定通りに
……

万事
お任せを……

練軍来る！
この報は
全くの虚言で
あった
師良と林則良が
自分で戦おうと
する雷を
隠から支援する
ために
日夜相談して
練り上げた
策であった



將軍の軍師の出発を敵味方に少しずつ流すべきです

いえ軍師のご威名は天下に轟いています
それだけで敵は進撃を躊躇するでしょう

伏兵の必要もありません

何？
極秘にせねば伏兵の意味がないだろ

待てよ俺たちの当面の相手は五丈軍だやつらにも軍師不在がばれちまうぞ

その方がいいのです彼らも油断いたしましょう

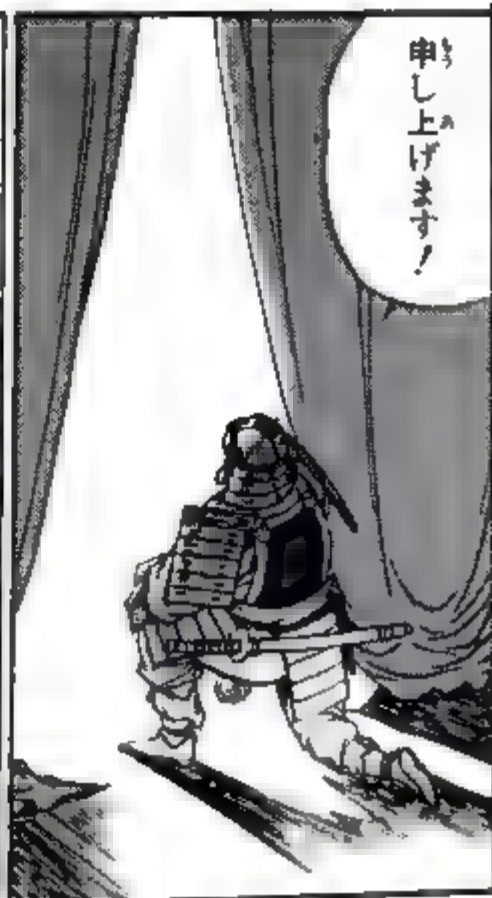
それよりも南京樓の民の恐怖感を和らげるのが優先です

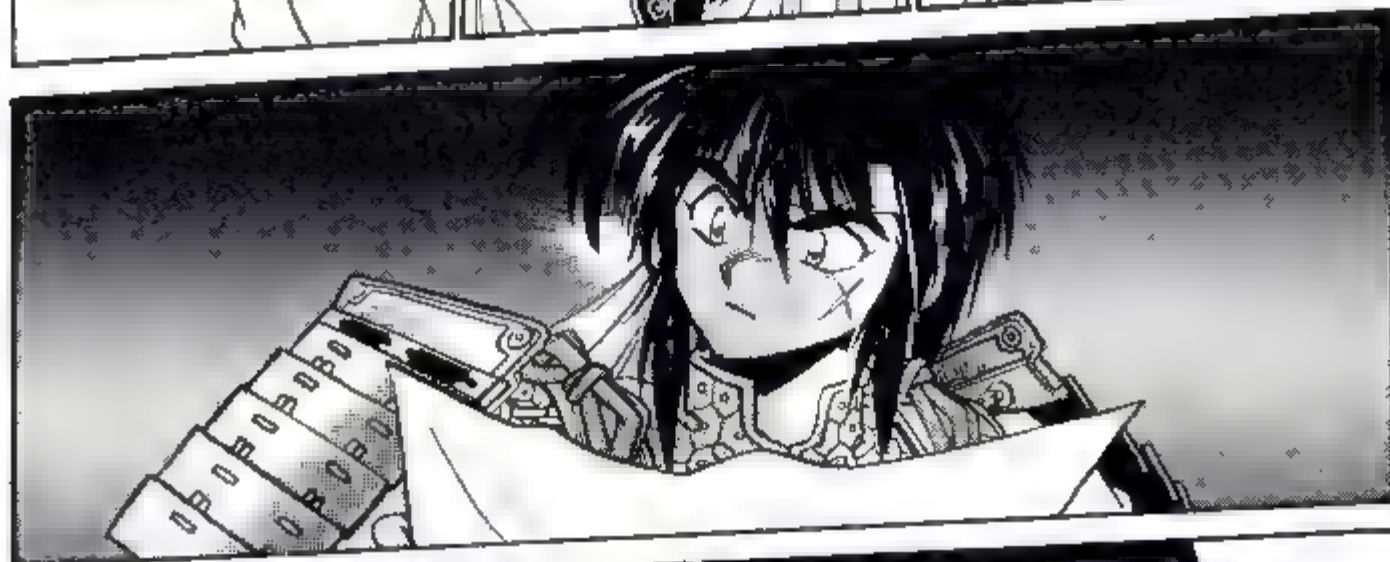
そうだな軍師不在を逆手にも取れるしな

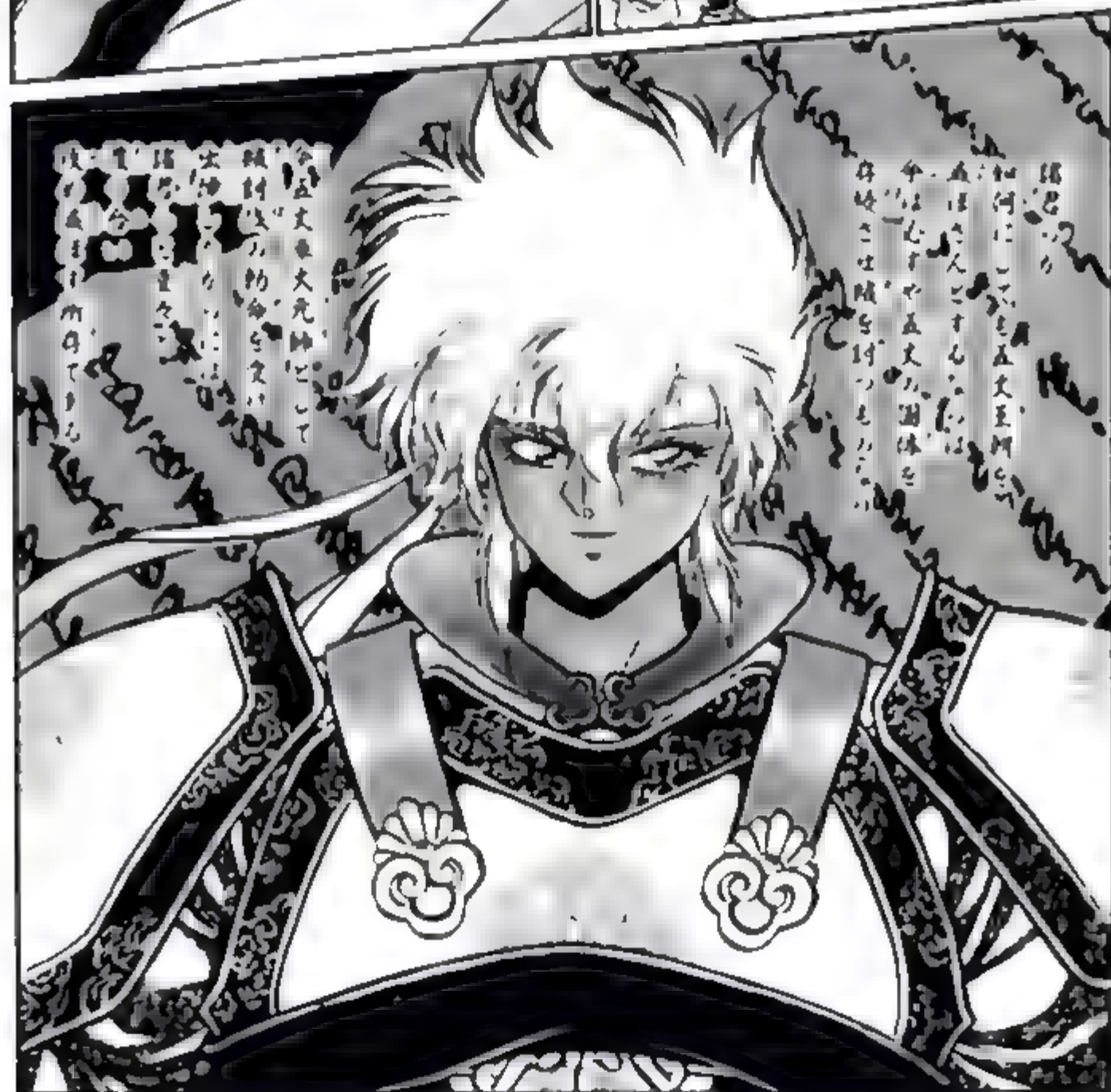
だがこの時
雷の勢えと
真白と
林間森の
勢えとは
迫っていた

並の敵将なら真に受けて油断もしようが

狼牙なら軍師の動きを見抜いているはず必ず無成する……







七日の後
金州海において
艦隊戦力による
決戦を
申し入れる

ゆめゆめ
拒むこと
なきよう……

五丈大元帥武南公
狼刃……!!





これは
いつかは
通らねばならない
我々の試練だ！

元帥と
五丈軍の主力を
討ち破って初めて
齊王都への道が
開けるのだ！

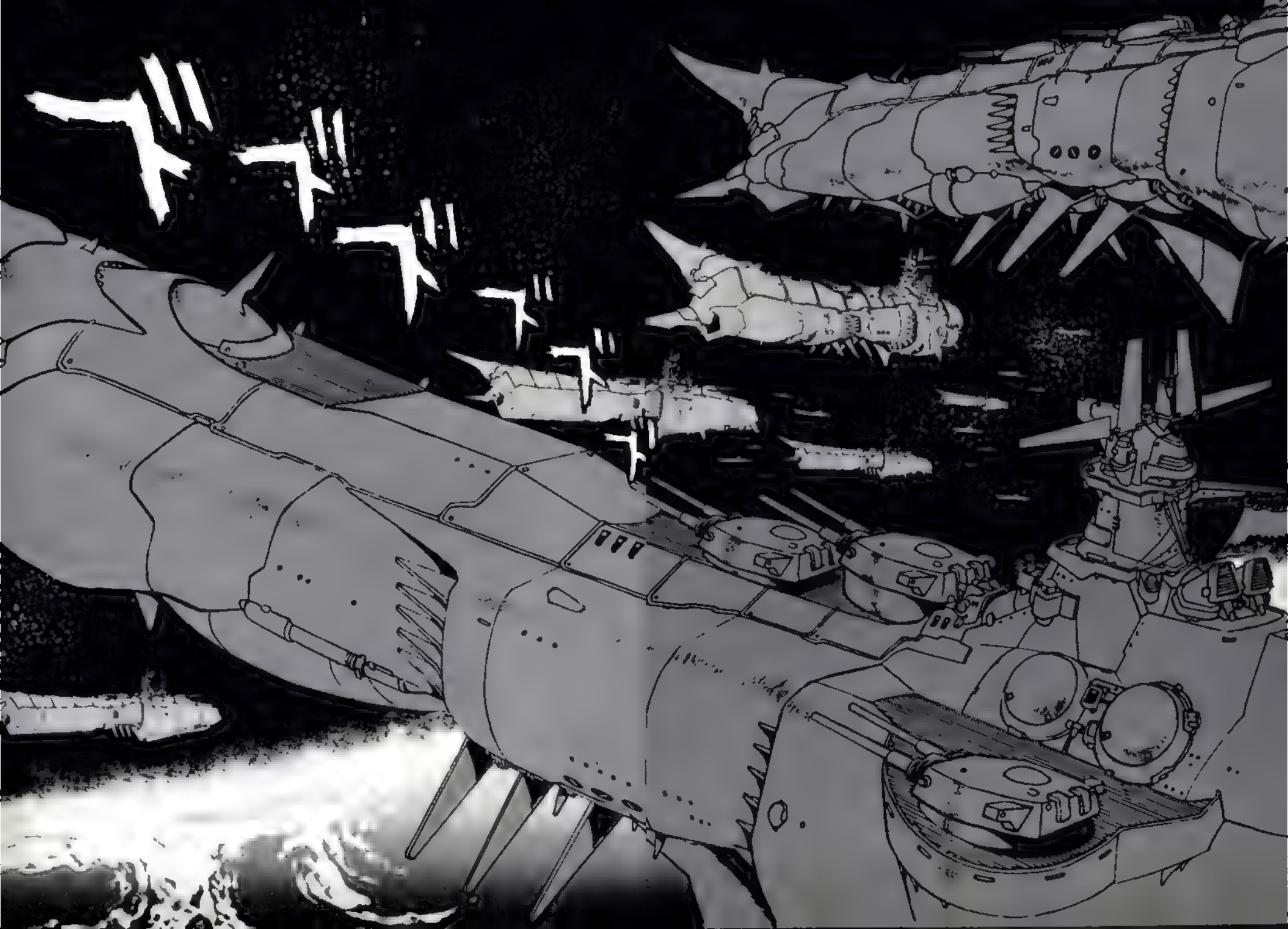
俺は狼刃元帥に
勝つ！！

龍



全軍
金州海へ!!

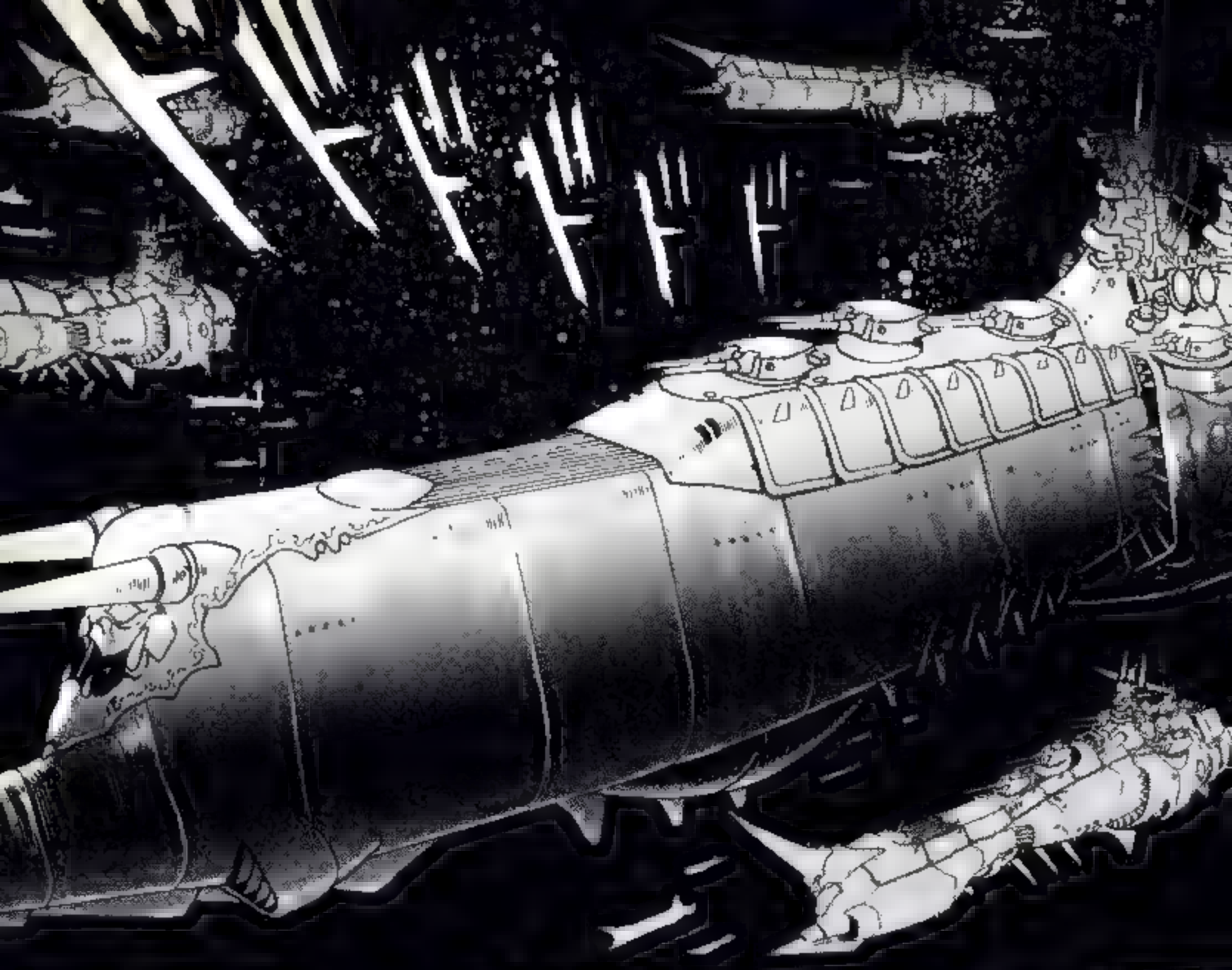


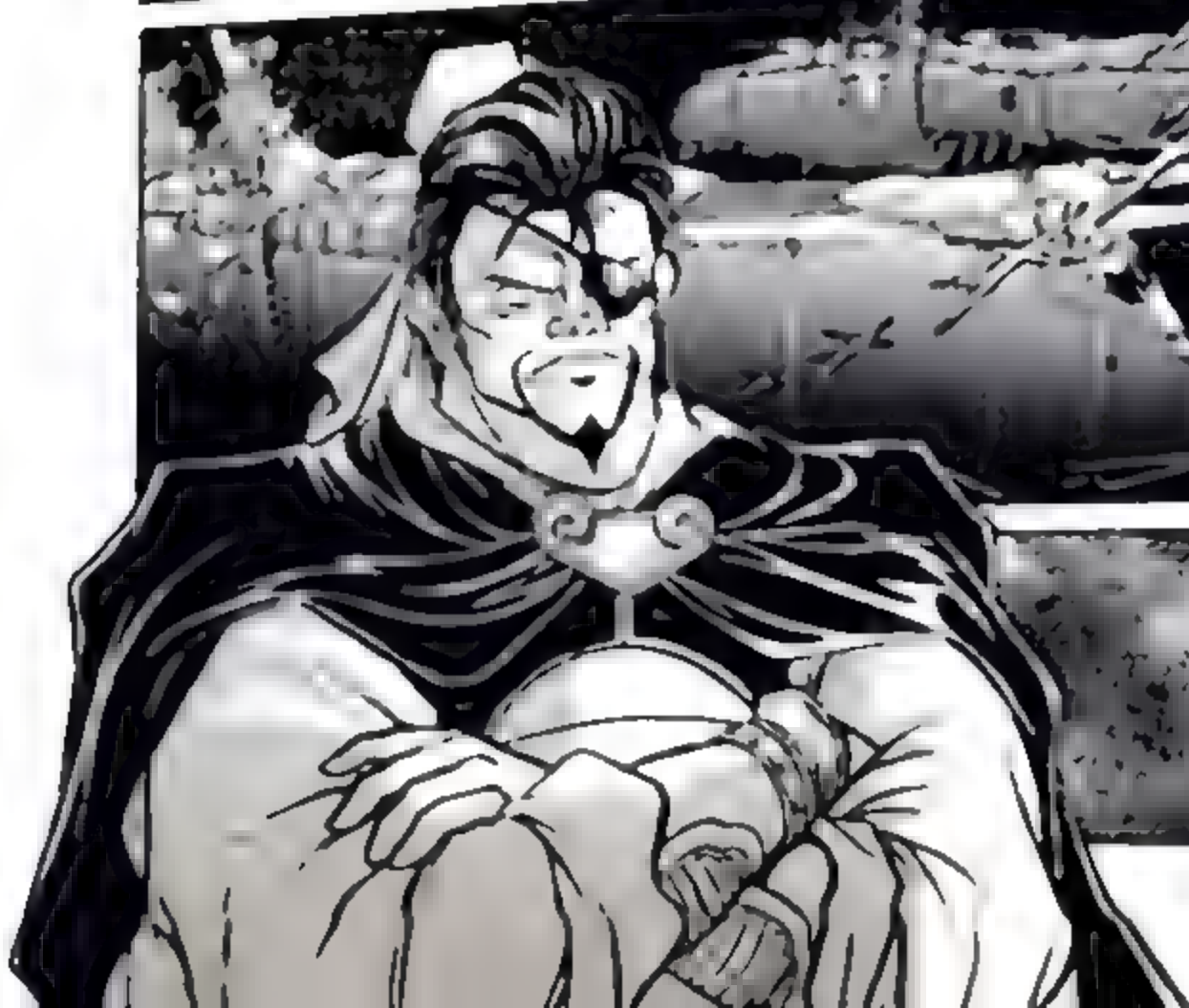


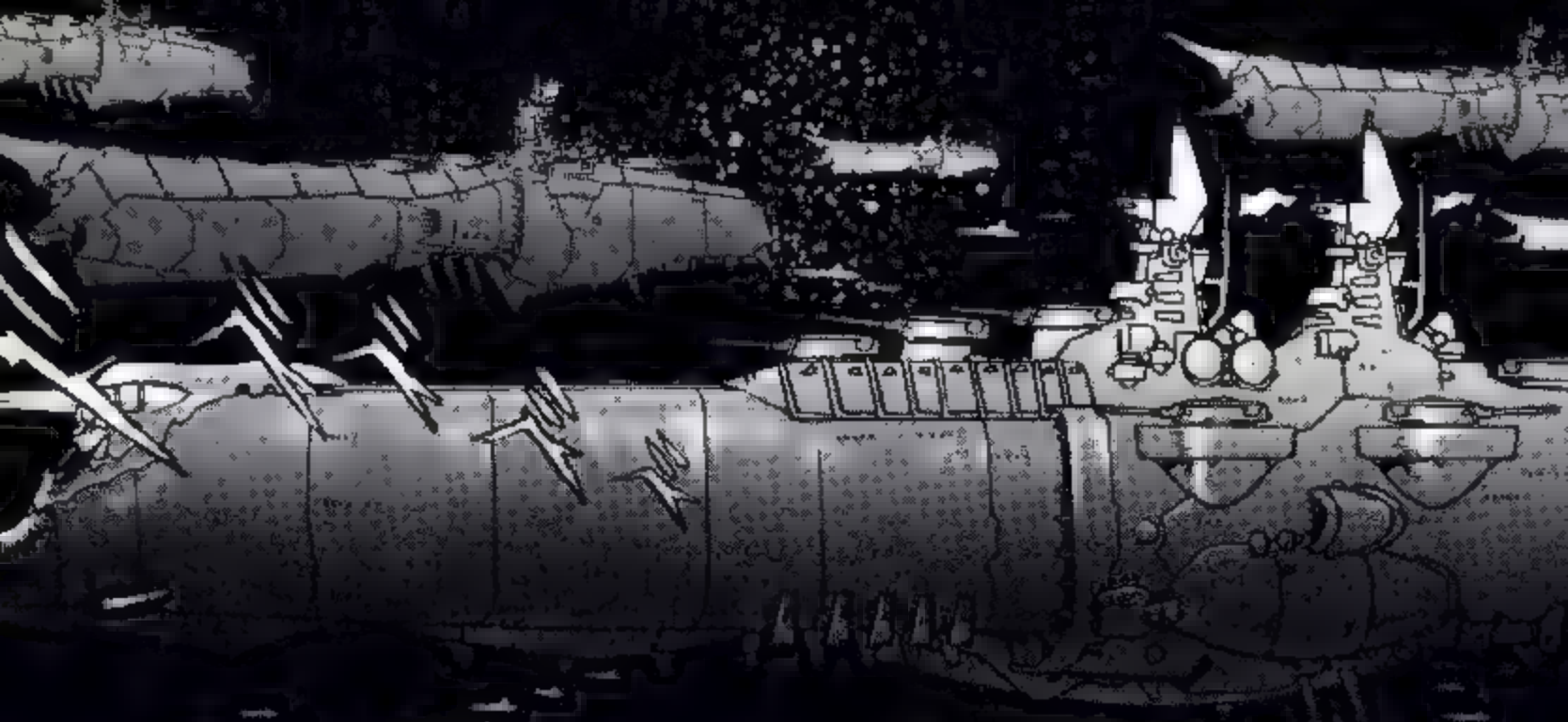


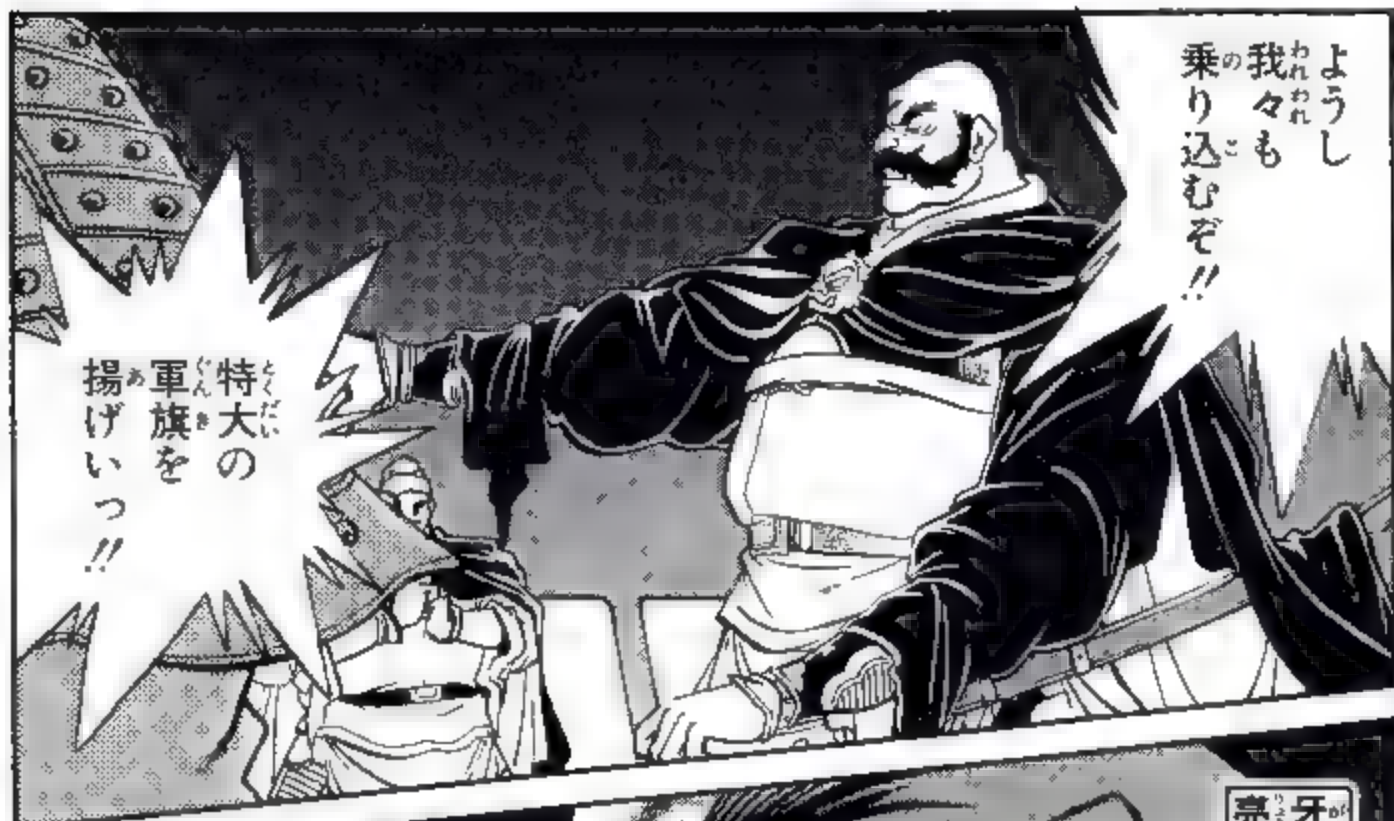
街に
桃戦状を
叩きつけた銀月は
紅沙嶺に本營を
置くと
兵方の集結を
急ぐ一方
西羌との国境より
五人の猛將を
呼び寄せた

■西羌 南蛮王国とともに、銀河帝国と国境を接する異民族国家。
しばしば国境をはさんで、五丈軍との交戦を繰り返している。









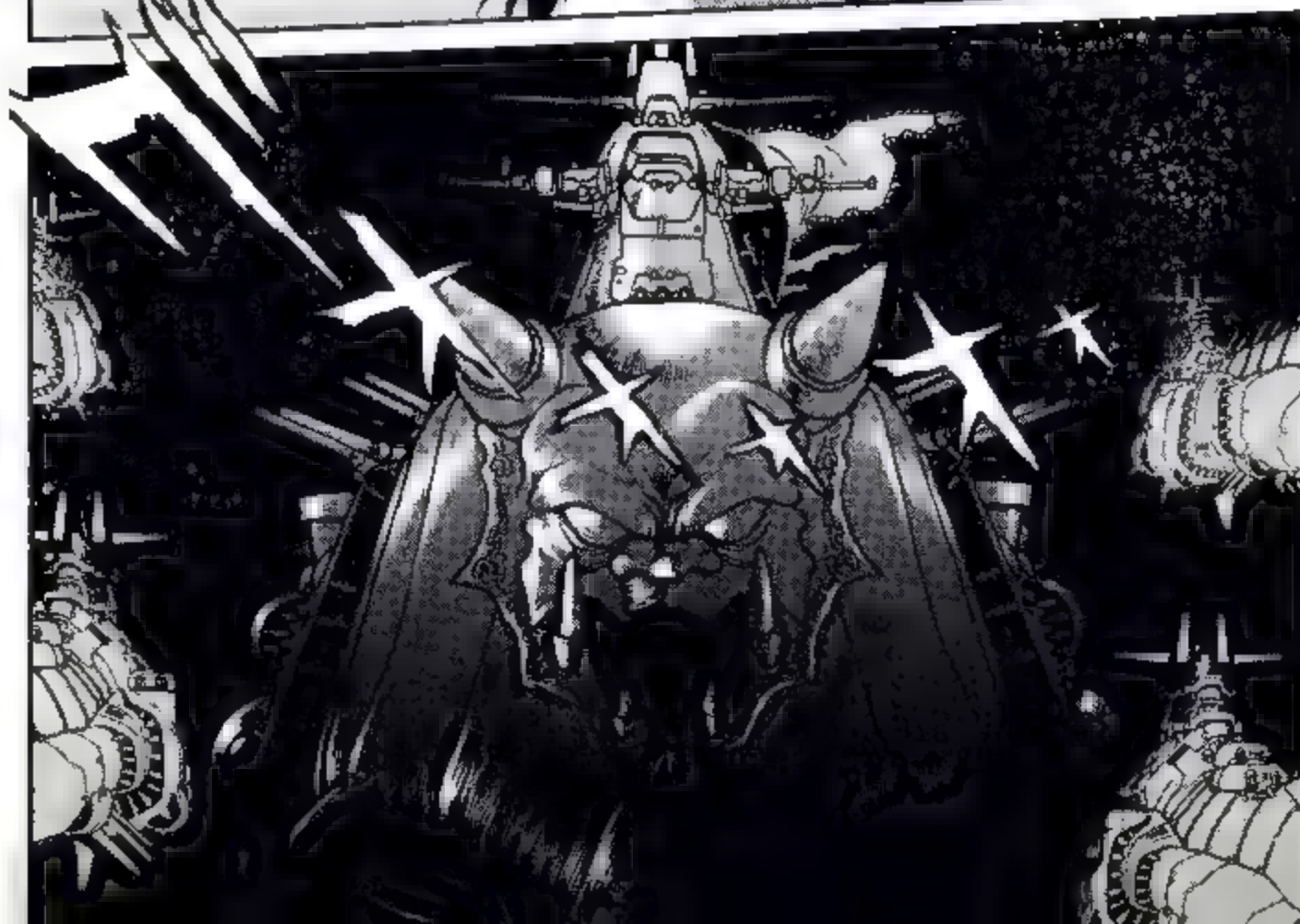
ようし
我々も
乗り込むぞ!!

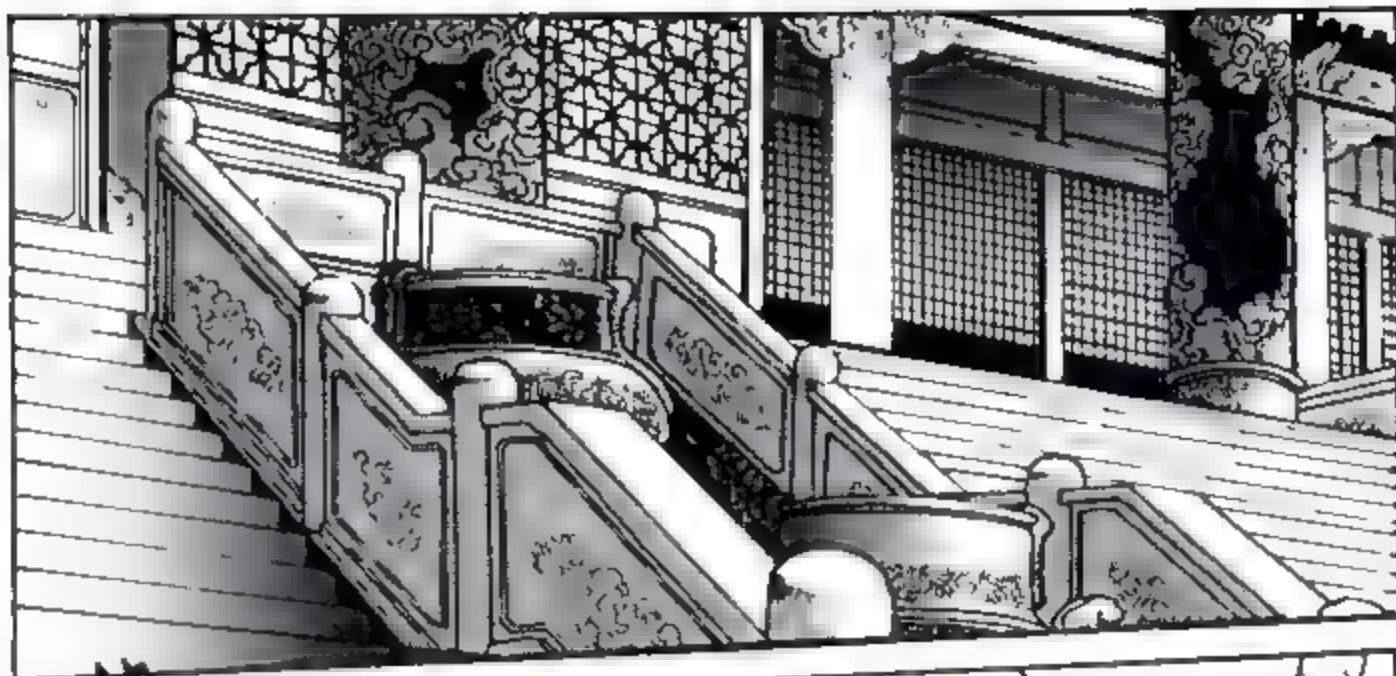
特大の
軍旗を
揚げ
いっ!!

牙門將軍
亮殿格



くくく
腕が
鳴るわい!







狼刃様には
ご機嫌うるわしく
恐悦至極に
ございます

うむ
堅苦しい
あいさつは
抜きだ



遠路
はるばる
ご苦労だったな

生きて
お前たちに
再会できるとは
思ってもいなかったぞ

はっ
我々も
西羌国境に
配備されてからは
あの辺境で
骨を埋める
覚悟でした

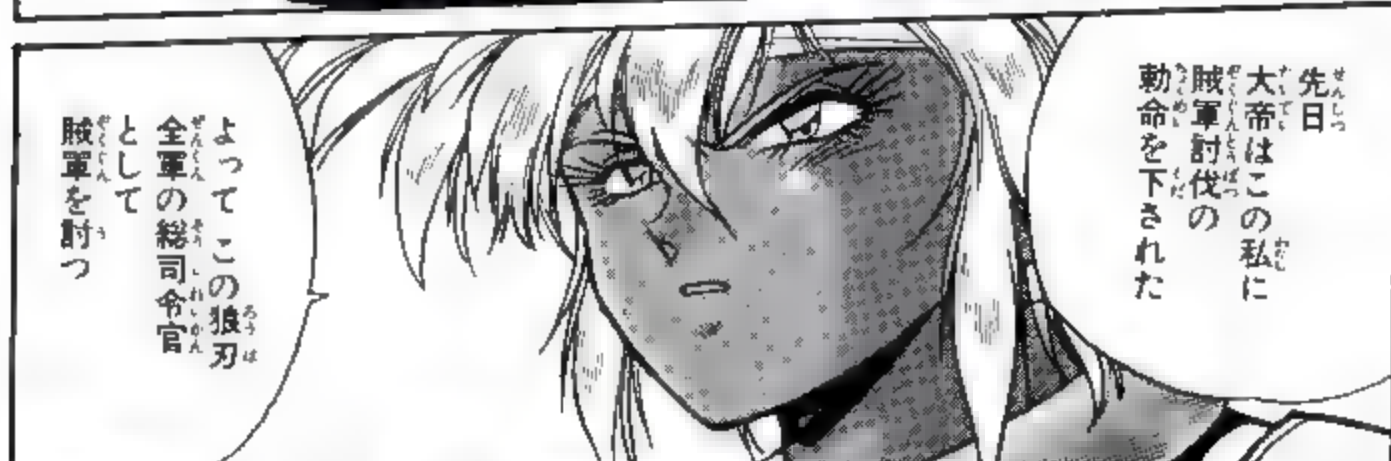
今ここで
元帥閣下の
御尊顔を
拝見できるとは
夢のようですな



おぬしらを
呼び寄せたのは
他でもない

聞いておろうが
鎮南將軍竜我雷率いる
叛乱軍が
帝都より十日の位置まで
攻め寄せている

骸山 武倒国は
戦死
丞相骸延も
失脚し
五丈の屋台骨も
きしみ始めた



先日
大帝はこの私に
賊軍討伐の
勅命を下された

よってこの狼刃
全軍の総司令官
として
賊軍を討つ



そこで
おぬしたちの
力を借りたい！



会戦場所は

金州海

古代より幾多の
会戦の場となった
古戦場だ

金州海……

むむ

おぬしたちの
闘いの場として
これ以上ふさわしい
場所はない！



全軍を
五軍に分け
各々一軍ずつを
率いて布陣せよ！

これは決戦だ
抜け駆けは
許さんぞ



最後に一つ
言っておく

竜我を侮るな
天運が奴に
傾いていることは
間違いない

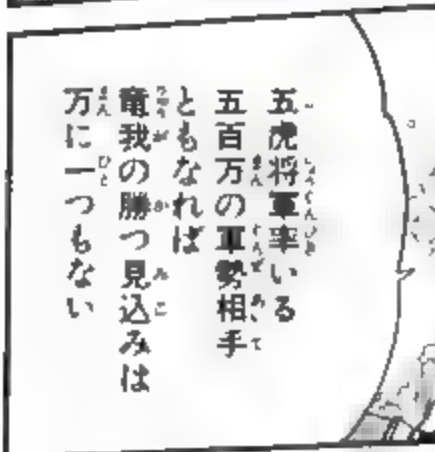
戦いは
歴史に残る
厳しきになる
だろう

出撃は明朝！
それまで行軍の
疲れを癒すように！



ははーっ!!

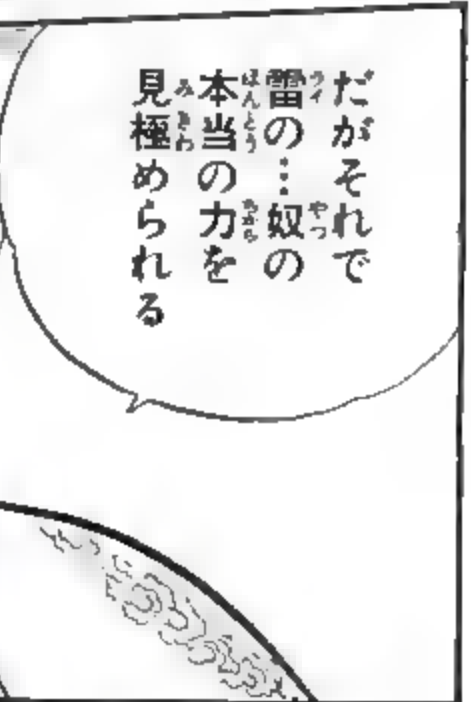
以上だ!



五虎將軍率いる
五百万の軍勢相手
ともなれば
竜我の勝つ見込みは
万に一つもない



頼もしき
連中ですね
閣下



だがそれで
雷の…奴の
本当の力を
見極められる

狼刃様の
目を見られたか？

うむ
あれほどまで
冷たく光ったのは
わしも初めてだ

竜我といえ
ば元帥が自ら
兵卒より
引き上げられ
たまさしく
子飼いの将だ

その恩を
仇で返されては
ご立腹も
理解できる！

その竜我だが
寡兵ながら
奇策をもつて
次々と討伐軍を
打ち破っている
そうだな

竜我だけの
仕業では
なからう

どうやら
敵軍には
大した知恵者が
いるようだな



何が
おかしい
亮殿格！

きさまら
それでも
五虎將軍か!!



そのような
小手先の戦法しか
知らぬ若造など
何を恐れるか!



蛇ににらまれた
蛙じやあるまい
恥を知れ!

何っ
きさま
言わせて
おけば!!



まあ
待て待て
仲間割れして
どうする

亮殿格殿も
久しぶりの戦で
血が騒いで
おるのだ
気になさるな



ふん
血が騒ぐのは
お前だけでは
ないわ

竜我は
この白鬼が
討つ!!



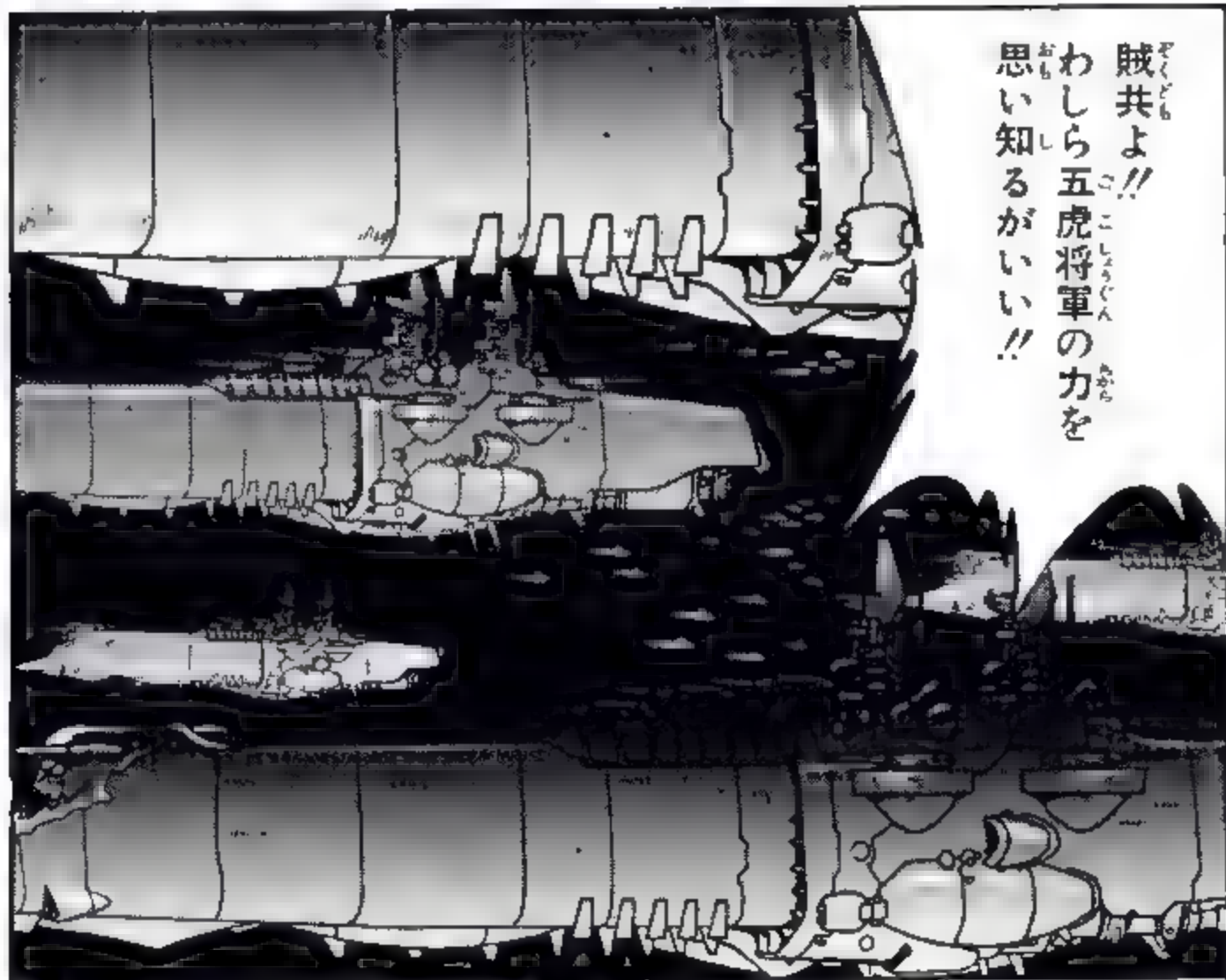
いやこの
魏相如の
手で!!

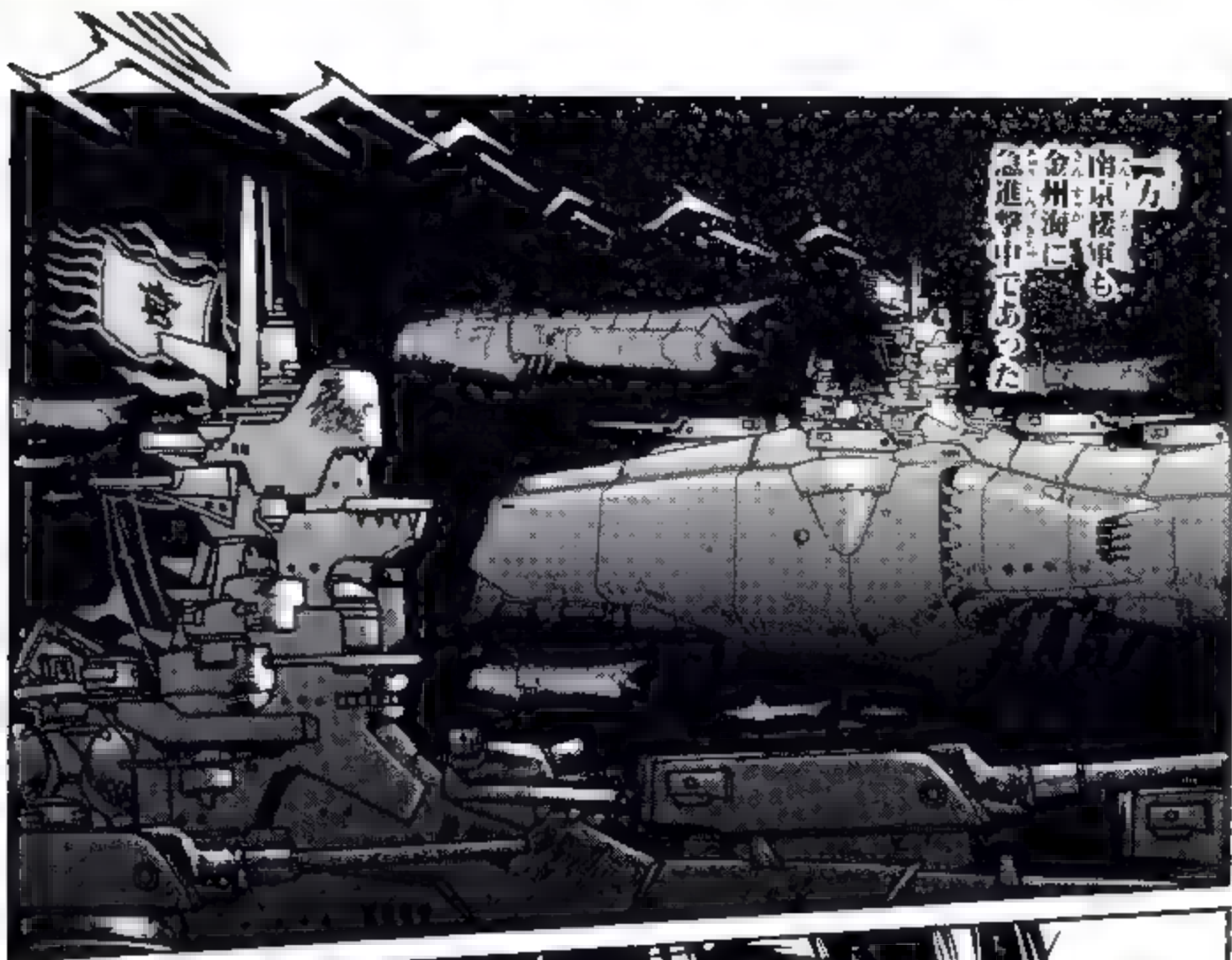
討つのは
この王政だ！

いや
安征將軍
武庸の手でな！！

殺るのは
この亮威格様
よ！！

賊共よ！！
わしら五虎將軍の力を
思い知るがいい！！





一万
南京橋軍も
金州海に
急進中であつた



りんそくか
林則嘉



はい

師真が
出ていく時に
多分お前に
いろいろと策を
授けていったと
思うが……



ただ
將軍をはじめ
皆さんの
戦い振りを見て
勇気づけられて
るんですよ

何ていうか
皆さんの力を
分けてもらって
って感じて……
ハハ……

あ……スイマセン
変なこと
言ってしまった

バカ
何を
あやまることか
あるんだよ

俺も初めて
自分の部隊を
持った時は
そうだったぜ

いい連中に
巡り合えた
と思ってるよ

お前に
会えた
こともだ

わ……わ……わ
滅相もない

一人気負ってさ
周りに盂闍らが
いなけりや
勝手に弾け飛んで
いたな

こんなクズを
ここまで
引き上げて
下さった
將軍には
感謝の言葉も
ありません

おいおい
立てよ
大袈裟だぞ



さあ行こうぜ
みんなも
集まってる

はいっ!!



策はなし……
絵図もなし……

人事を尽くして
天命を待つか……



おいおい
何だ姚文
まだ戦いの字も
聞こえねえってのに
人事を尽くしてた
とは言えねえだろ

ふふ
年がいもなく
あがってるんじや
ねーのか

まあ
そりや
そうだけど……
そういう
心境って
とこよ

ハハハハ

ところで
小耳に
はさんだんだが
敵は西光より
五虎將軍を
引き抜いてきた
そうだな

あー
そいつは
俺も聞いた

何でえ
五虎將軍って
のは？

対西光軍として
国境に
駐屯してる
猛者共よ

中央軍とは
全く別に
部隊でな

精銳には
違いねえが
決して
その守備位置を
動くことは
許されてねえ

だから
弾正公の南征にも
正宗優攻の迎撃にも
関われなかった
連中よ

西光の国境は
厳しいところだな
行ったら最後
二度と帰って
これねえって
言われてる
ぐらいだ

そんな連中に
名譽称号として
五虎將軍ってのが
与えられたってわけよ

かー
くっだらねえ
要は五丈には
もうそーいう
連中しか
残ってねえって
ことじゃねーの

だが
その戦闘能力は
未知数だ

油断は
できん





どんなところだ?

七つの太陽に
囲まれた広大な海域です
まさしく火に囲まれた
古戦場という
ところですね



周囲は
かなりの高温に
なっています
兵の疲労度も
数倍に増えましょう
また火は人間に
潜在的な恐怖感を
与えますからな

死んだら
火葬つきって
とこだな



とにかく
敵の方が数が多い
包囲されることは
避け
一気に敵の本陣を
叩く

お前たちに
この本陣の兵を
分ける
全力で敵の
前線を打ち破り
突破口を開け!

項武は
その開いた
口から突入し
一気に本陣を
突け!

なるべく
交戦を避けていけ!
速さが一番だ!



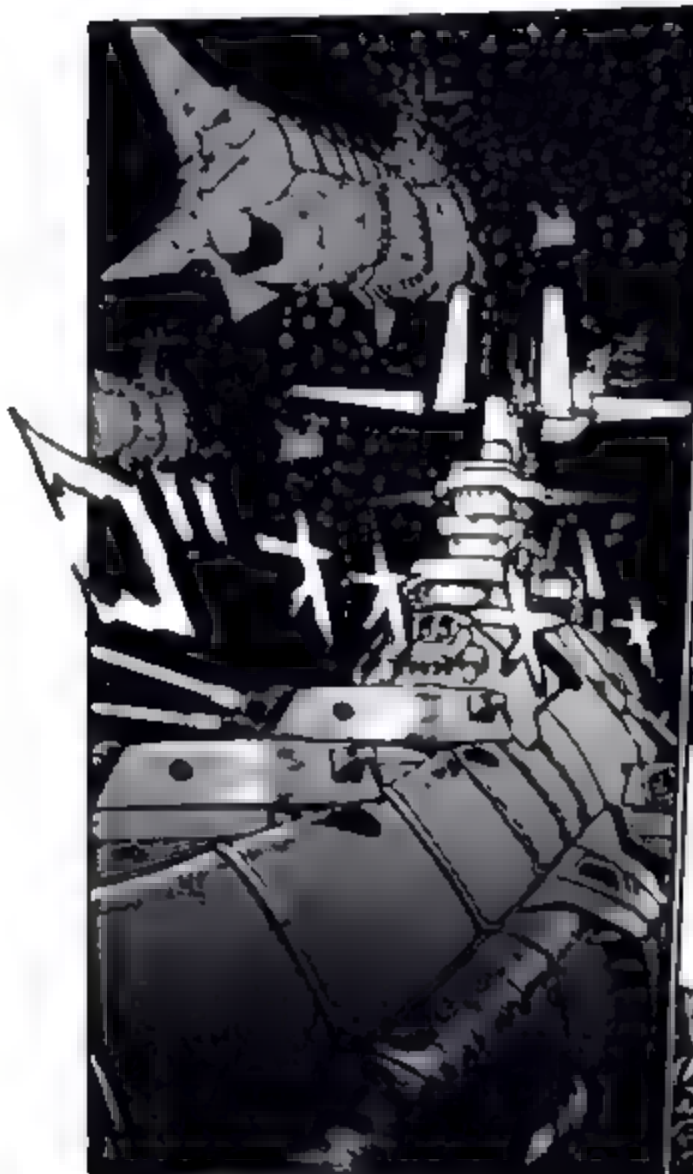
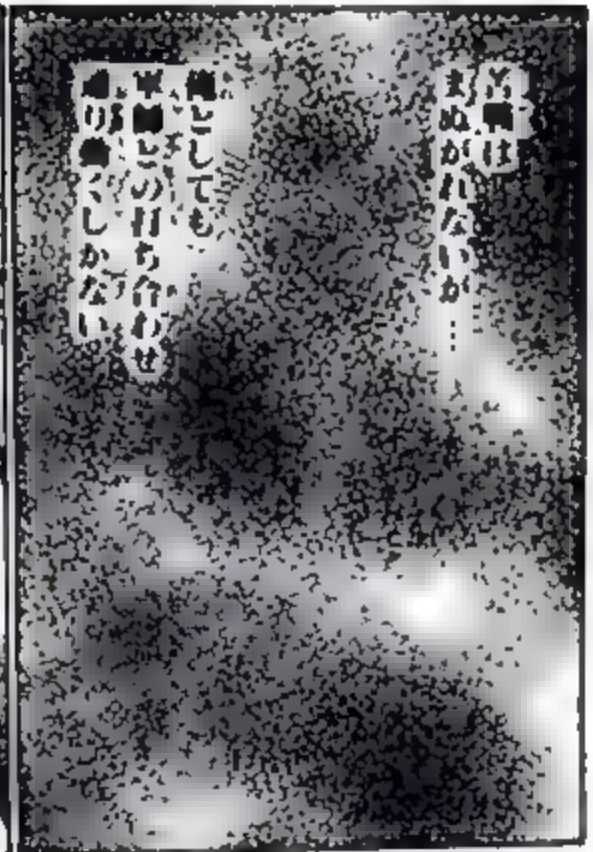
鍾士元!
姚文!

はっ!!

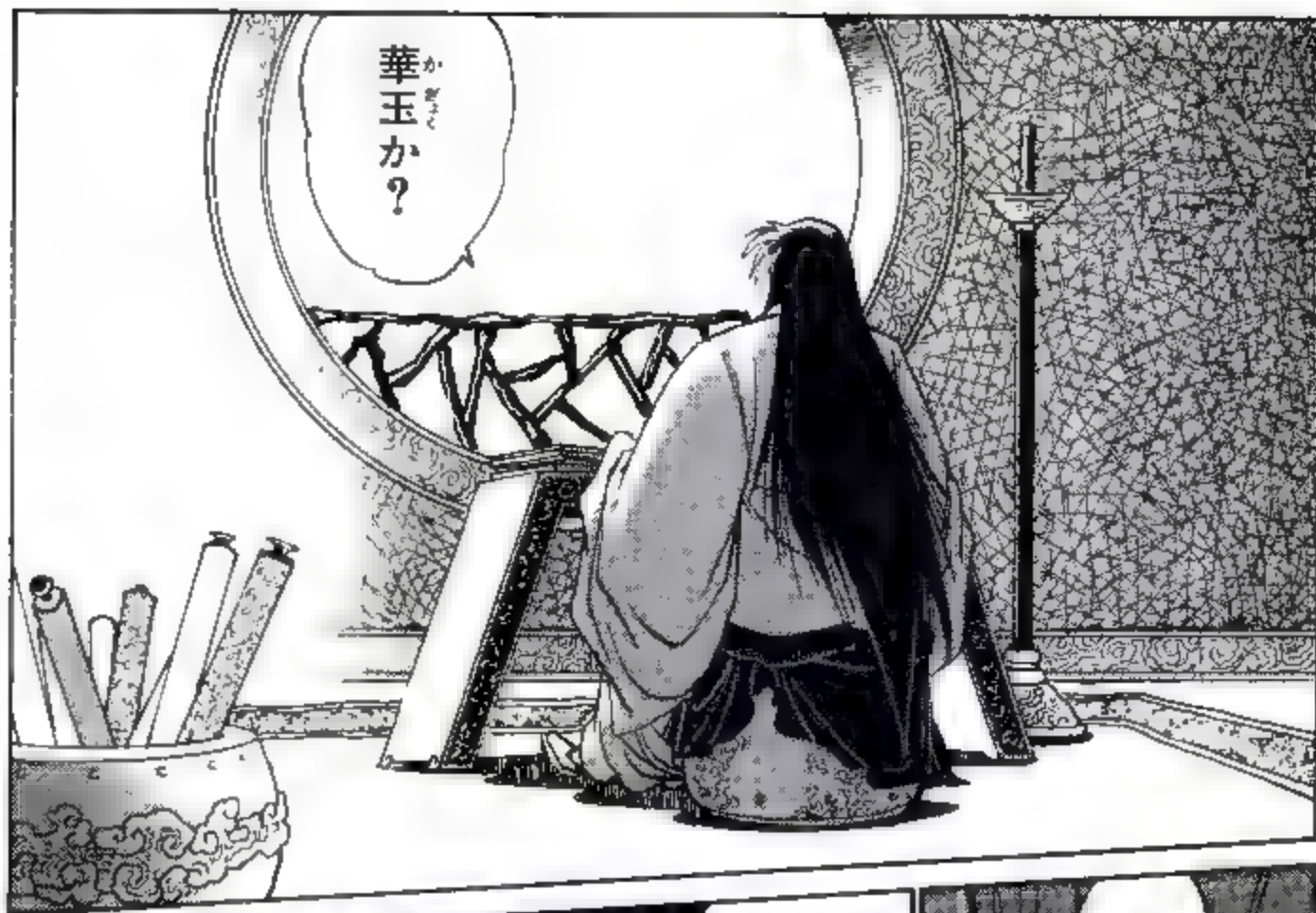
わかりました

おうっ!!









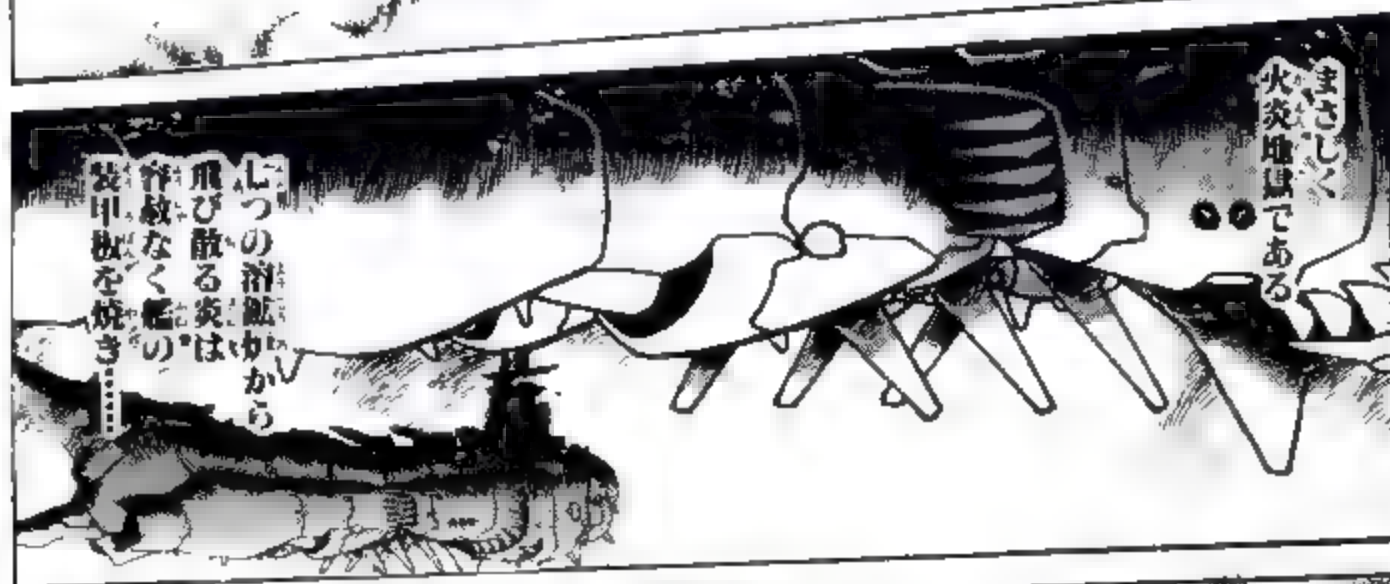
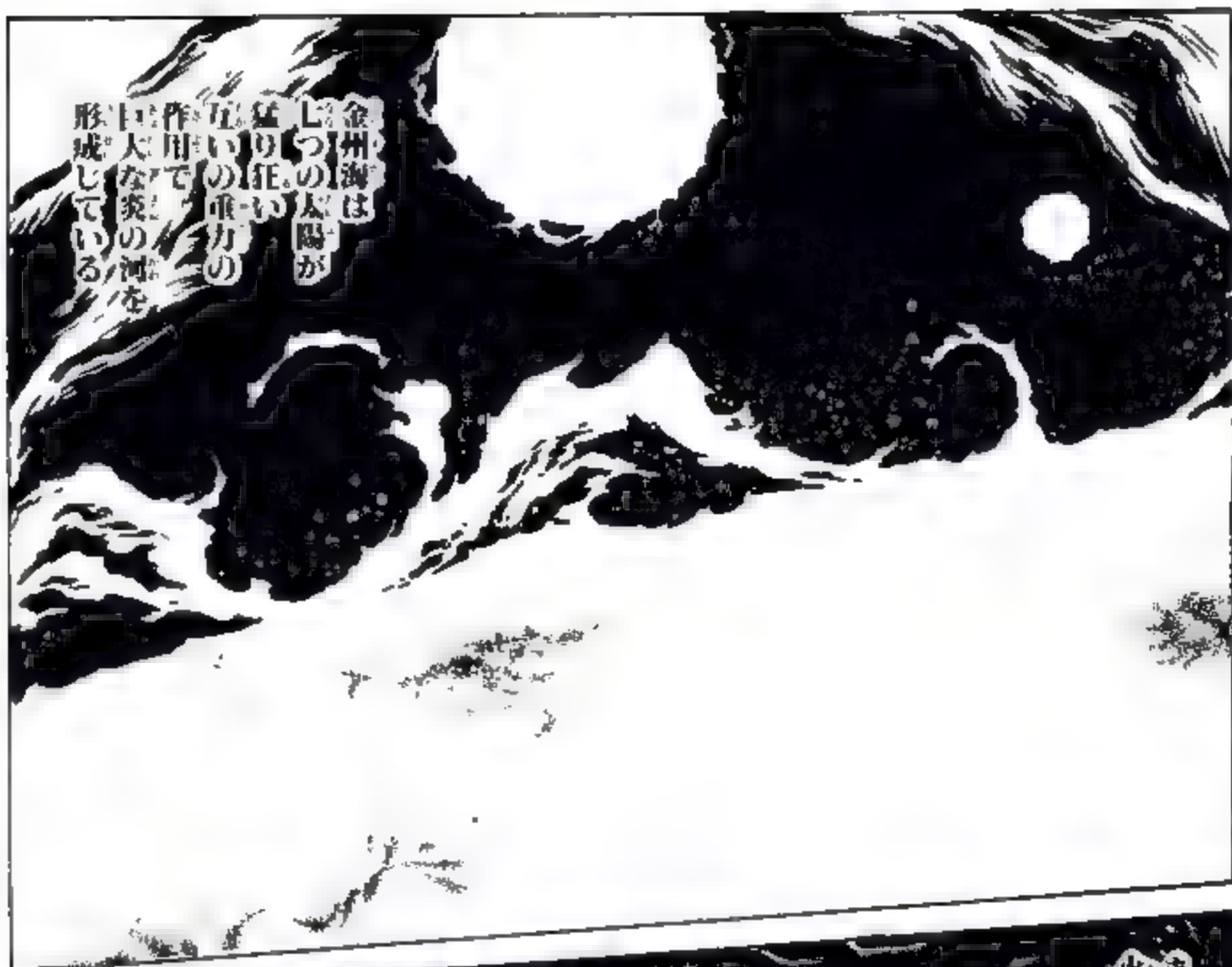






狼牙軍との
決戦場金州海に
雷撃する
南京援軍が
続々と集結した





想像以上の
熱さだな
こたえるぜ
こいつは

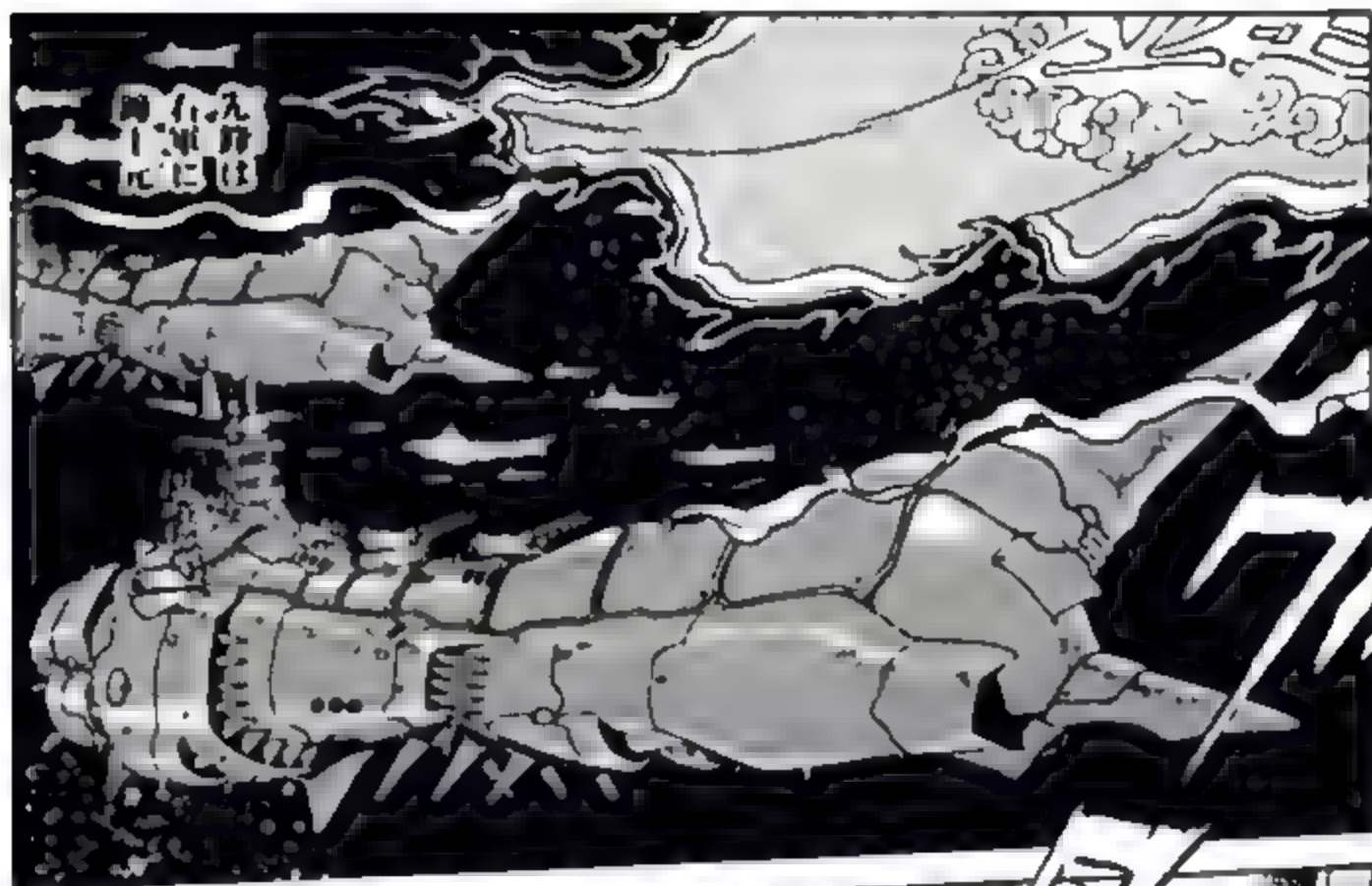
ほんとに

恐らく一戦が
限界でしょう
それ以上は
兵の体力が
もちません

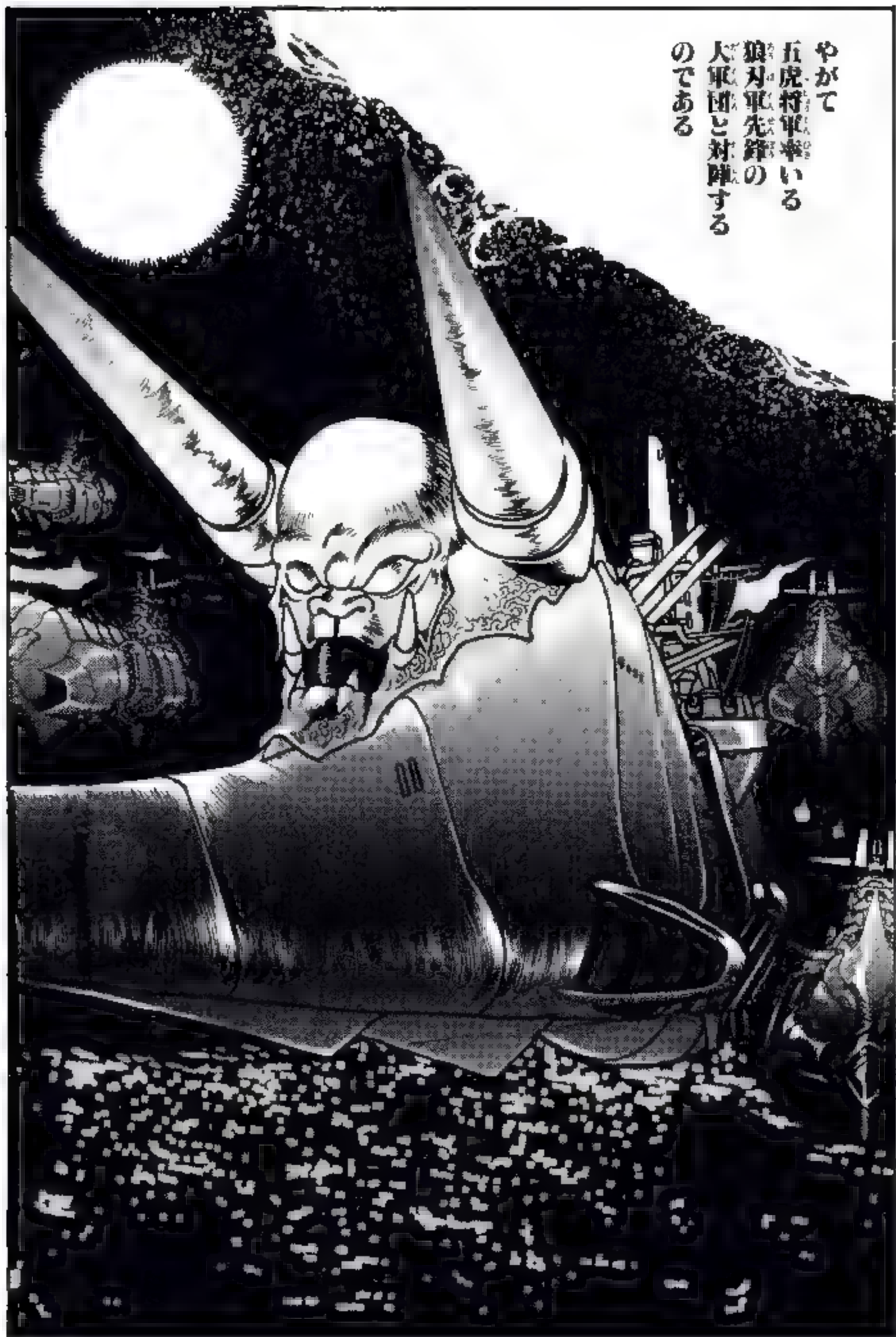
短期決戦に
なるな
最初の一撃で
勝負はつく
狼刃元帥がここを
決戦場に
選んだのも
そのためだな

將軍!!
全軍展開
完了!

よし!!
陣型を
保持したまま
前進!



やがて
五虎將軍率いる
狼牙軍先鋒の
大軍団と対陣する
のである







五丈を
ないがしろ
にする
不屈き者めが



出てきたな
逆賊どもめ！



前進！！



砲撃
準備！！



我らの
恐ろしさを
思い知れ！！

いやいか
野郎ども!!

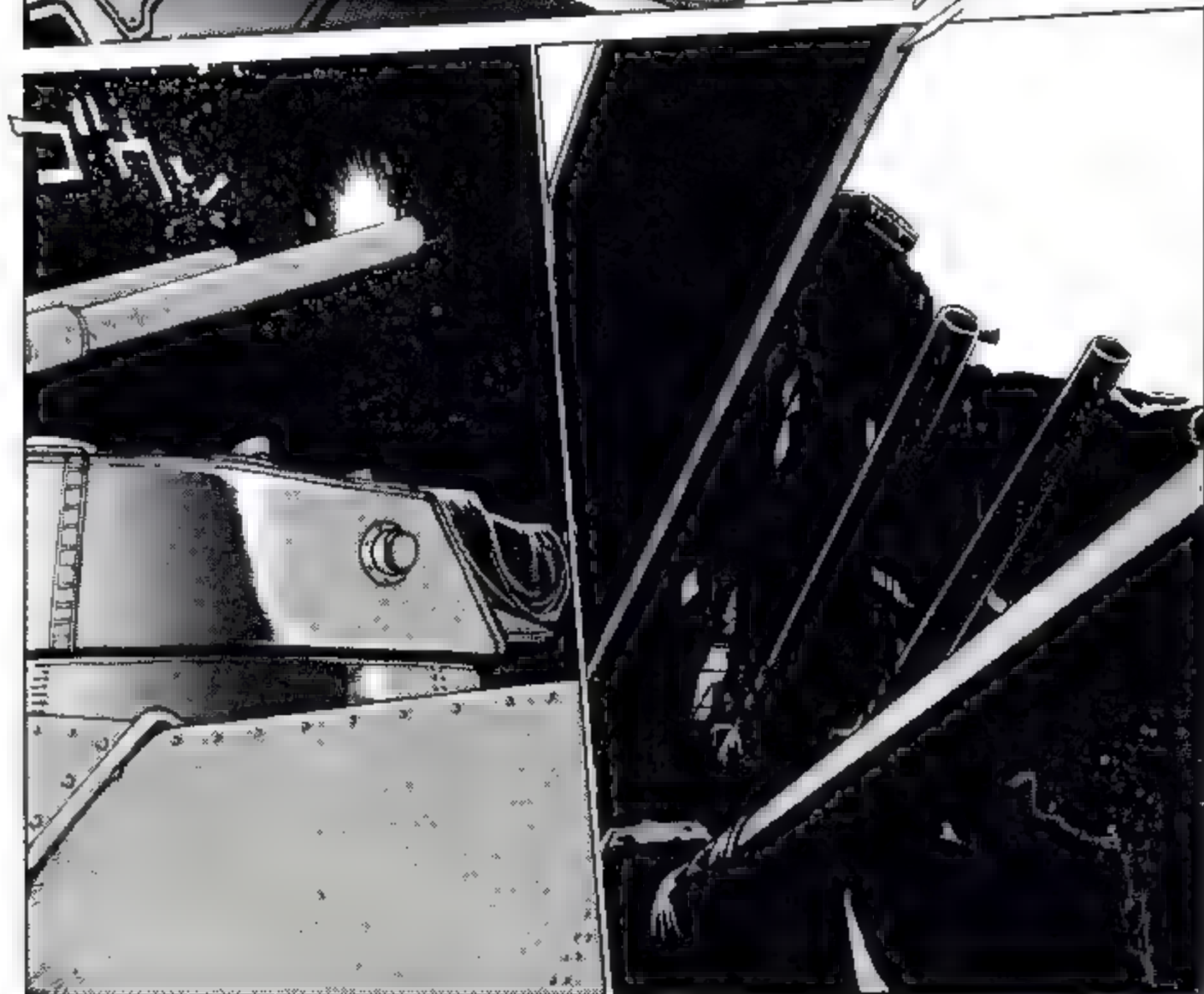
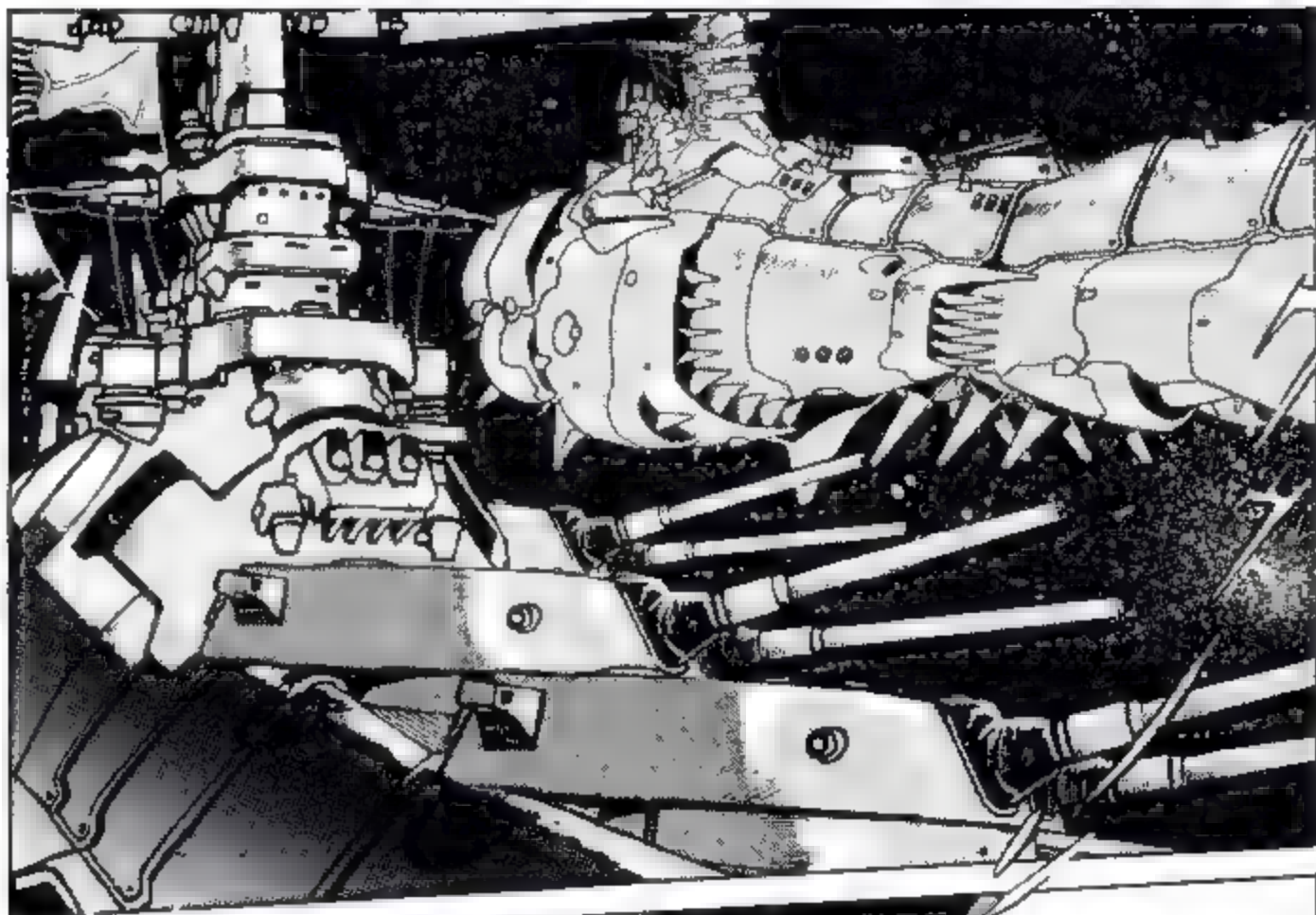
この戦は
俺たちの突進で
全てが決まると
言ってもいい!

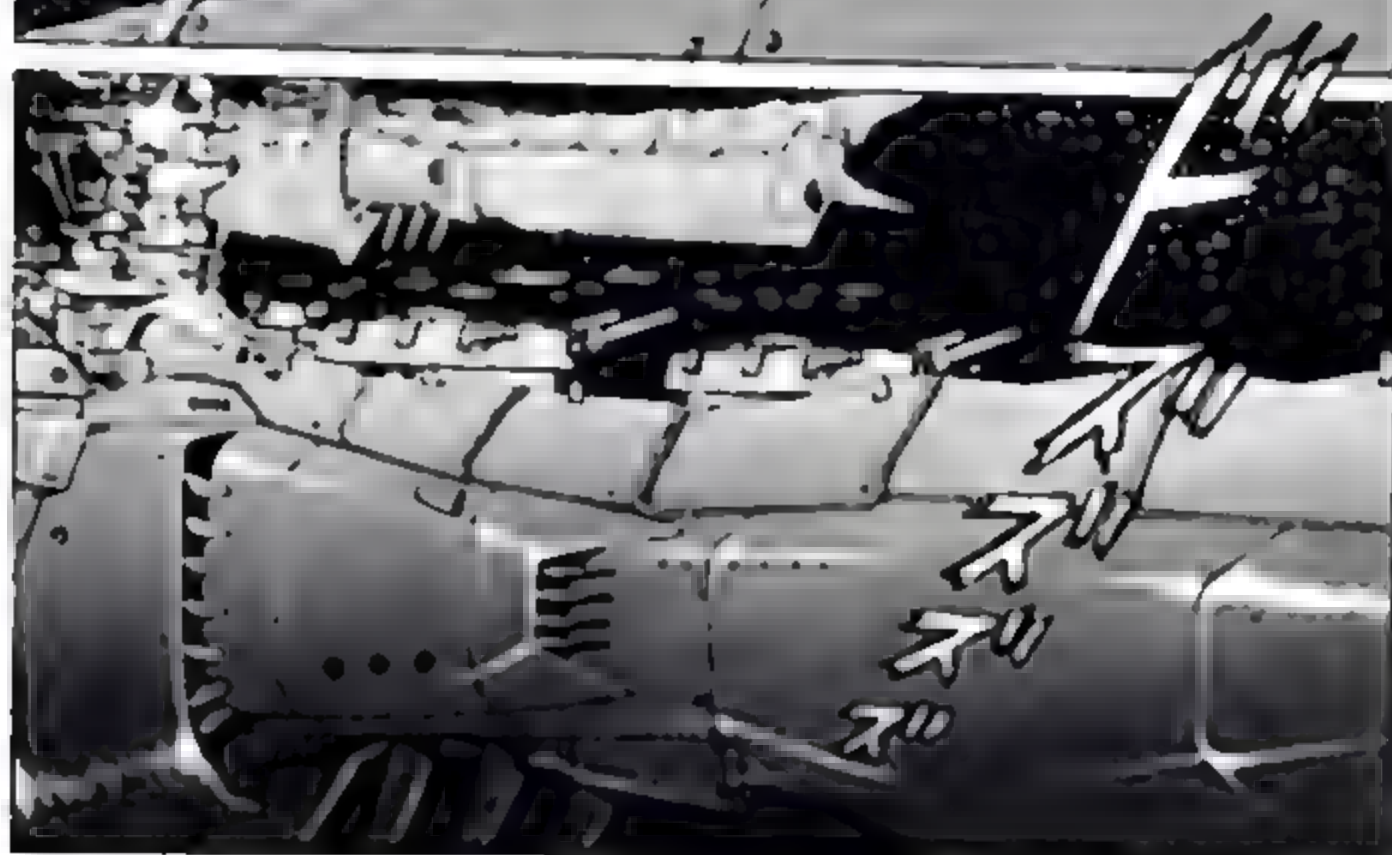
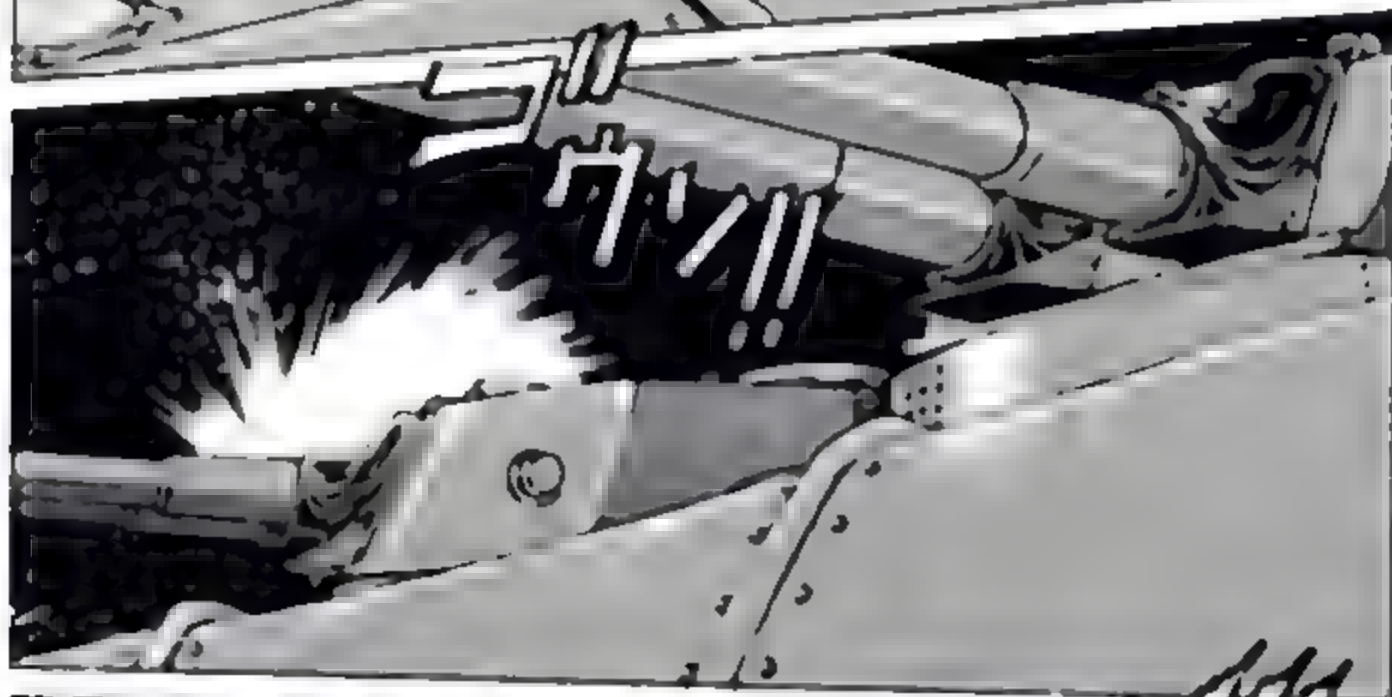
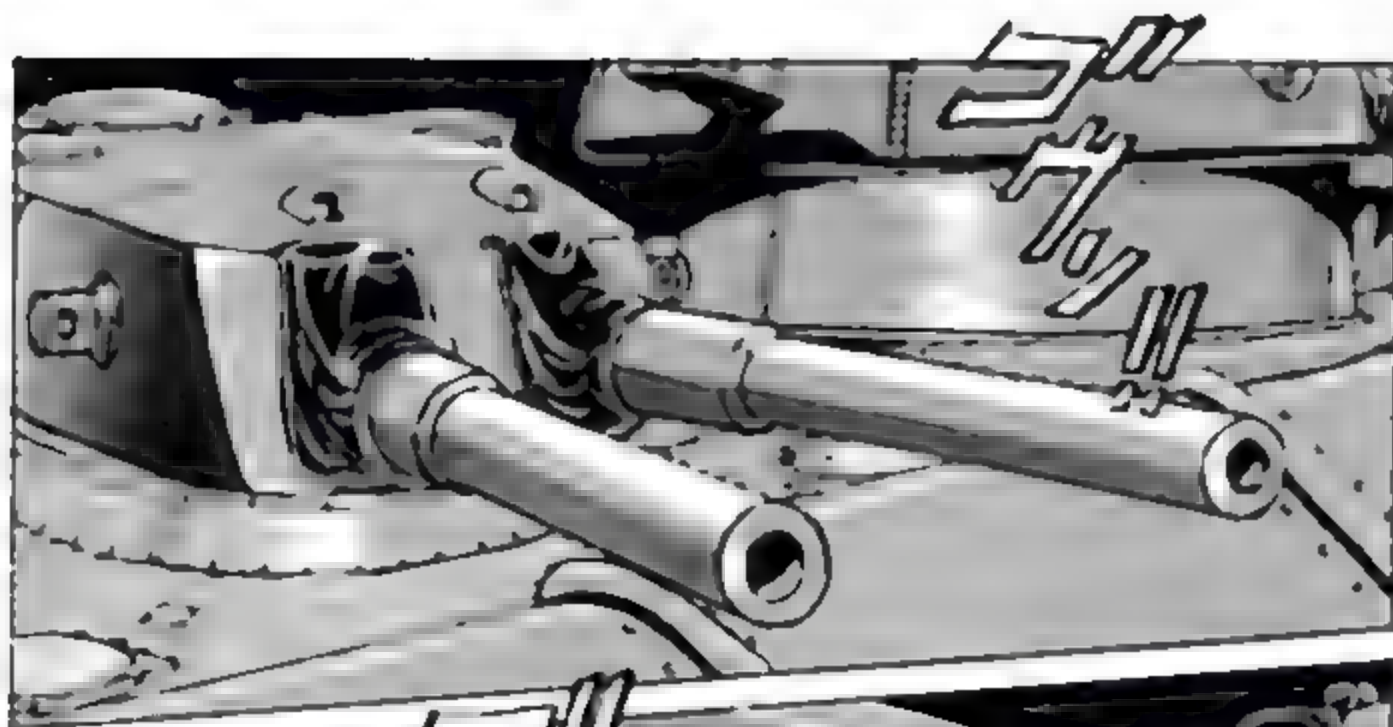
五虎将の
首級をあげた者には
千金を与える!

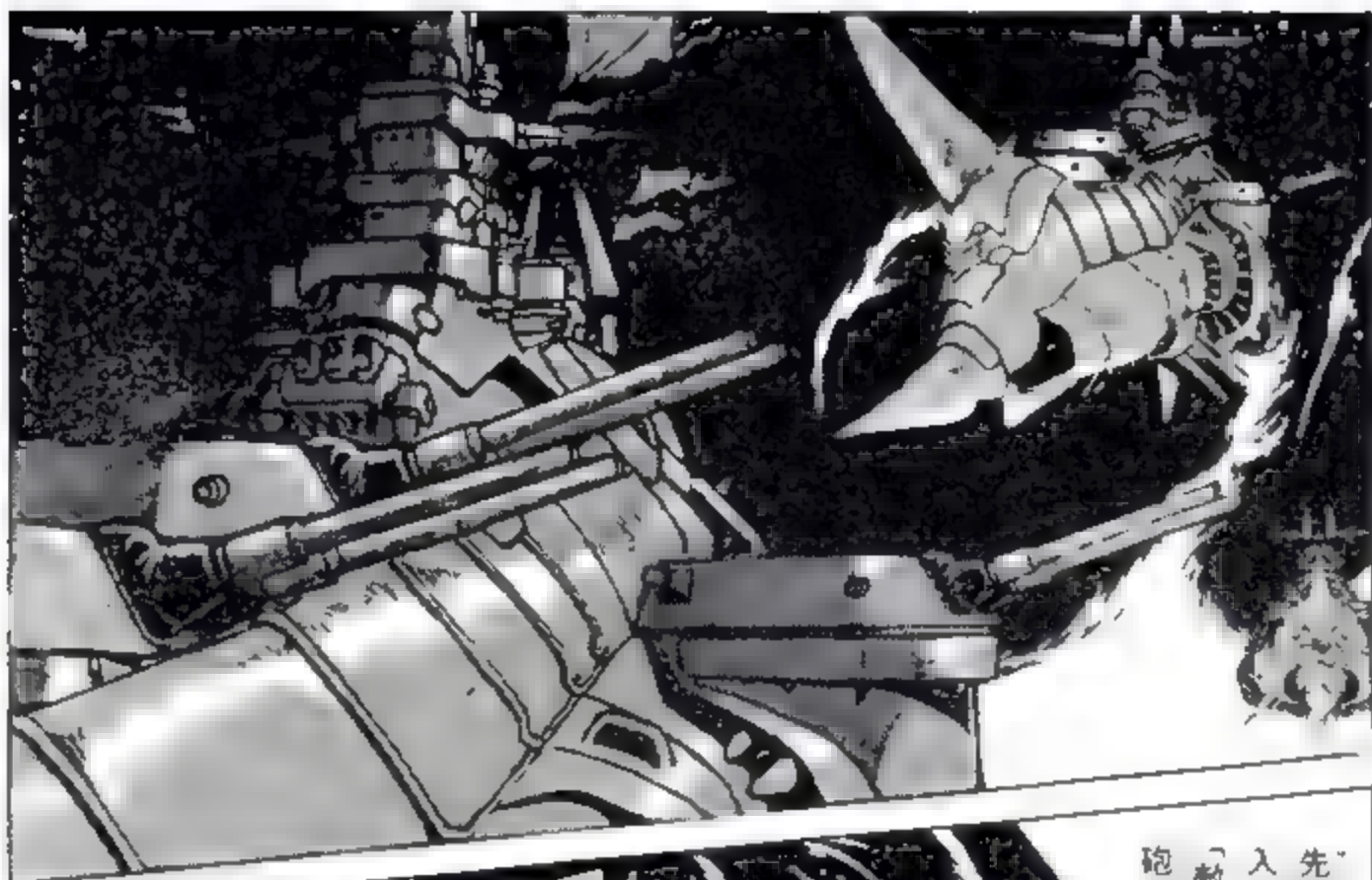
気いしめて
いけ
っ!!

前進
っ!!

撃ち方
用意
っ!!

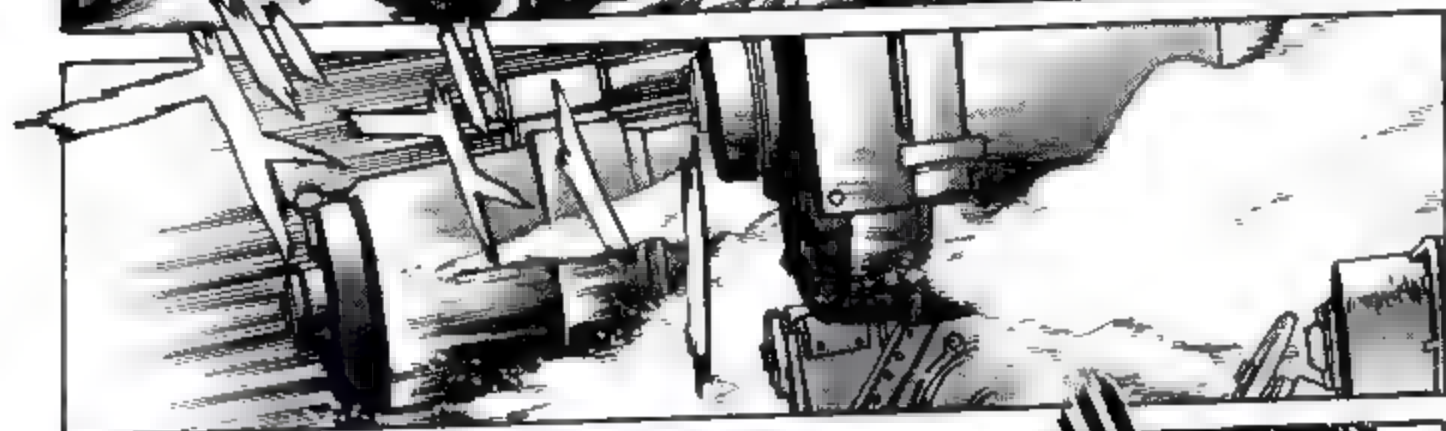
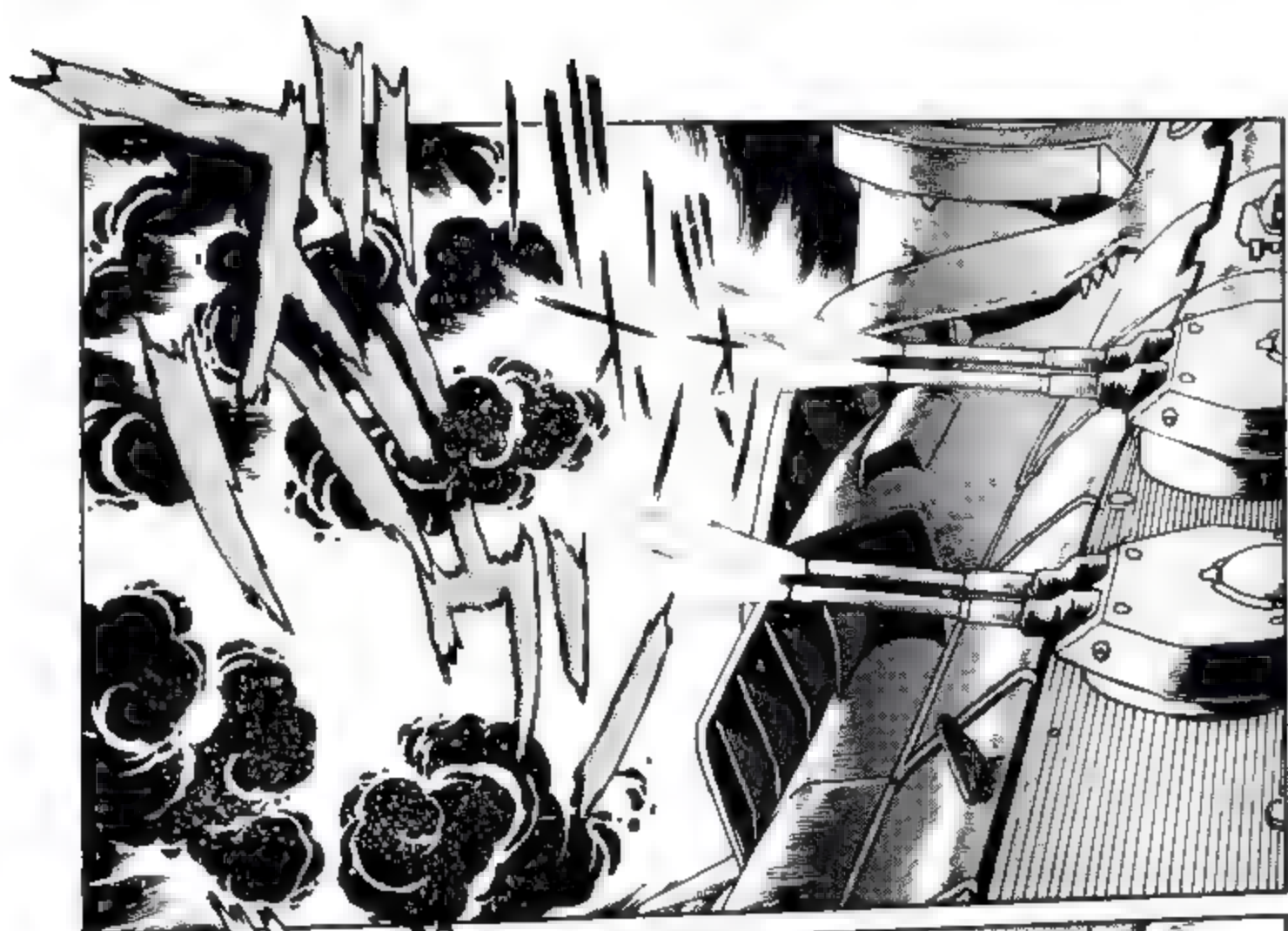


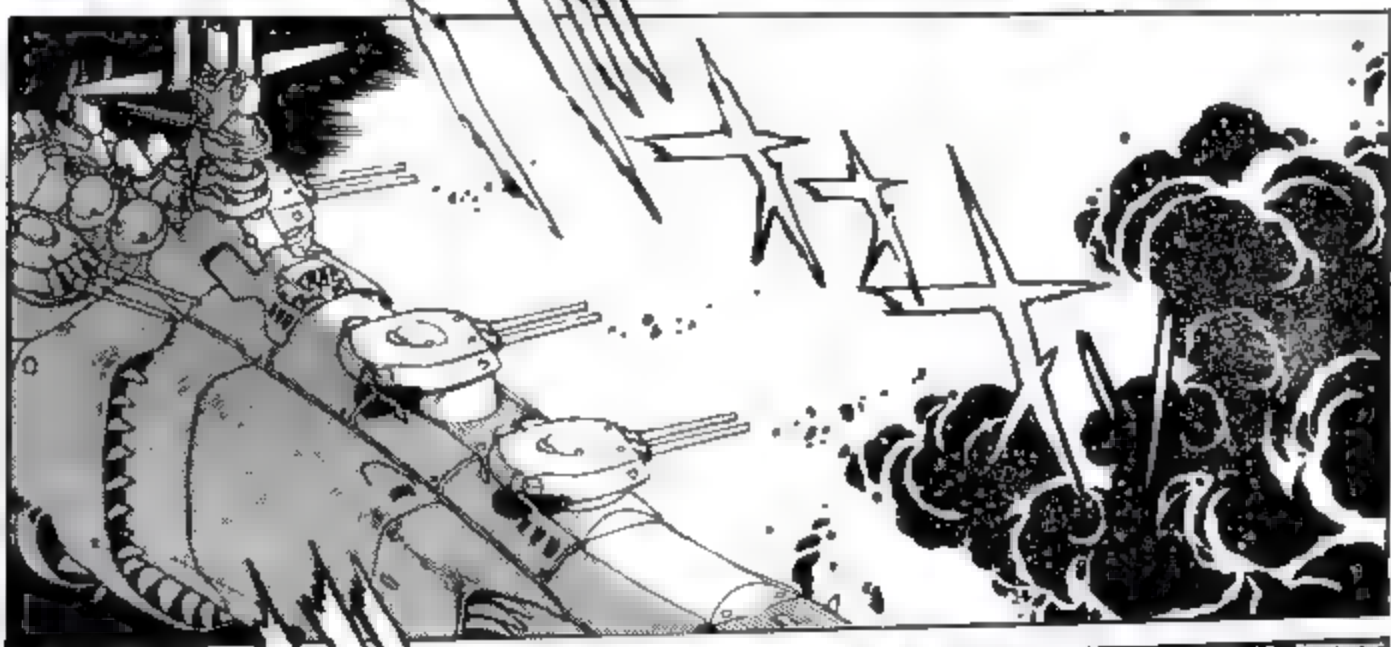
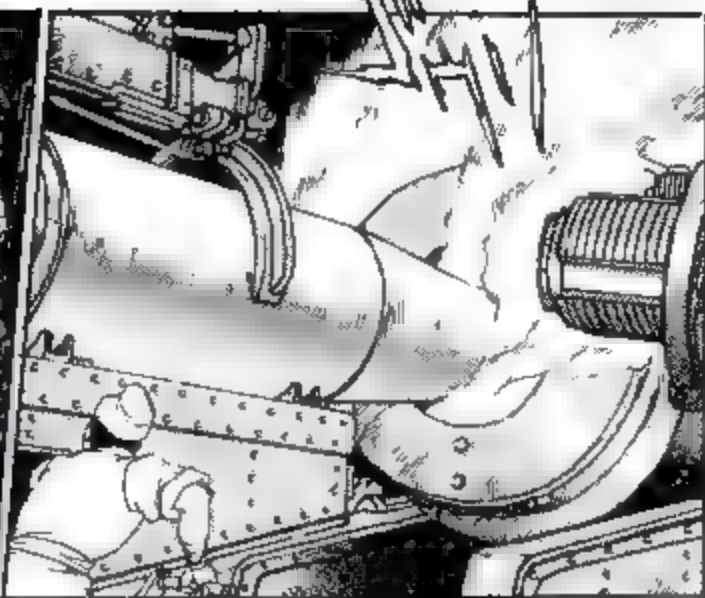
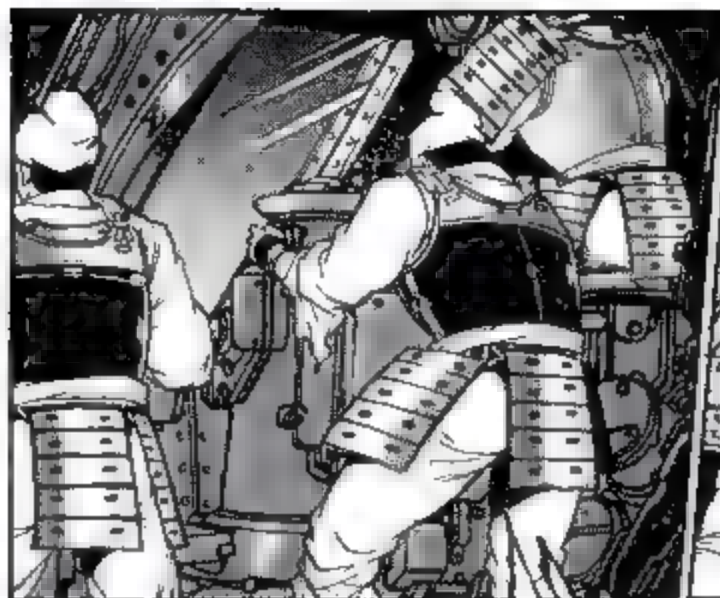




て
っ
!!

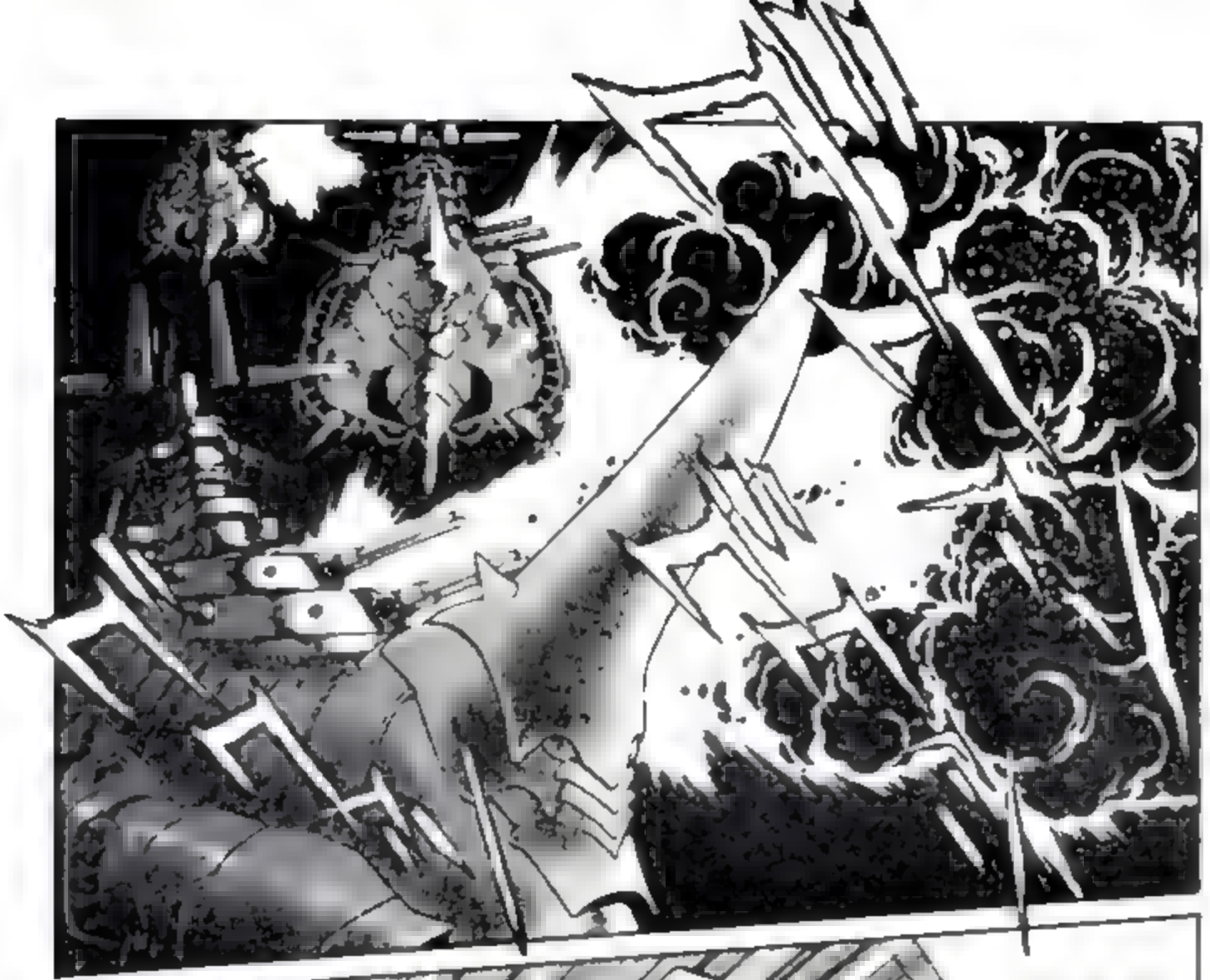
ついに
金州海での
大決戦の
火蓋は
切っておじされた



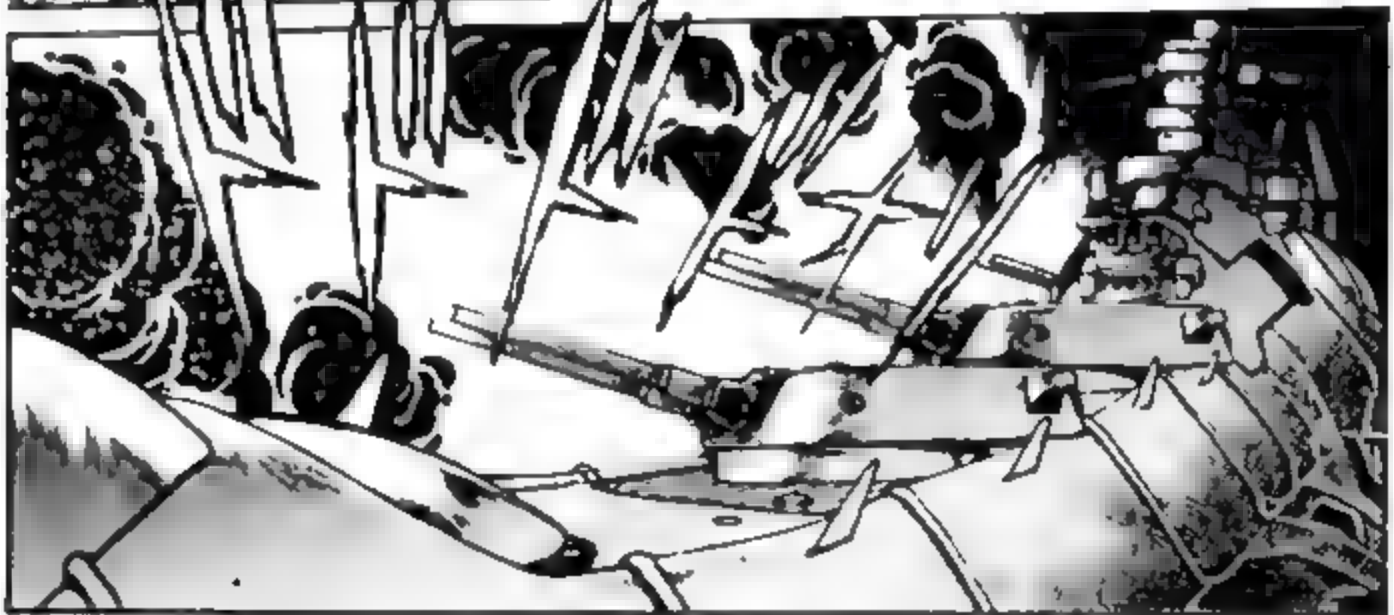


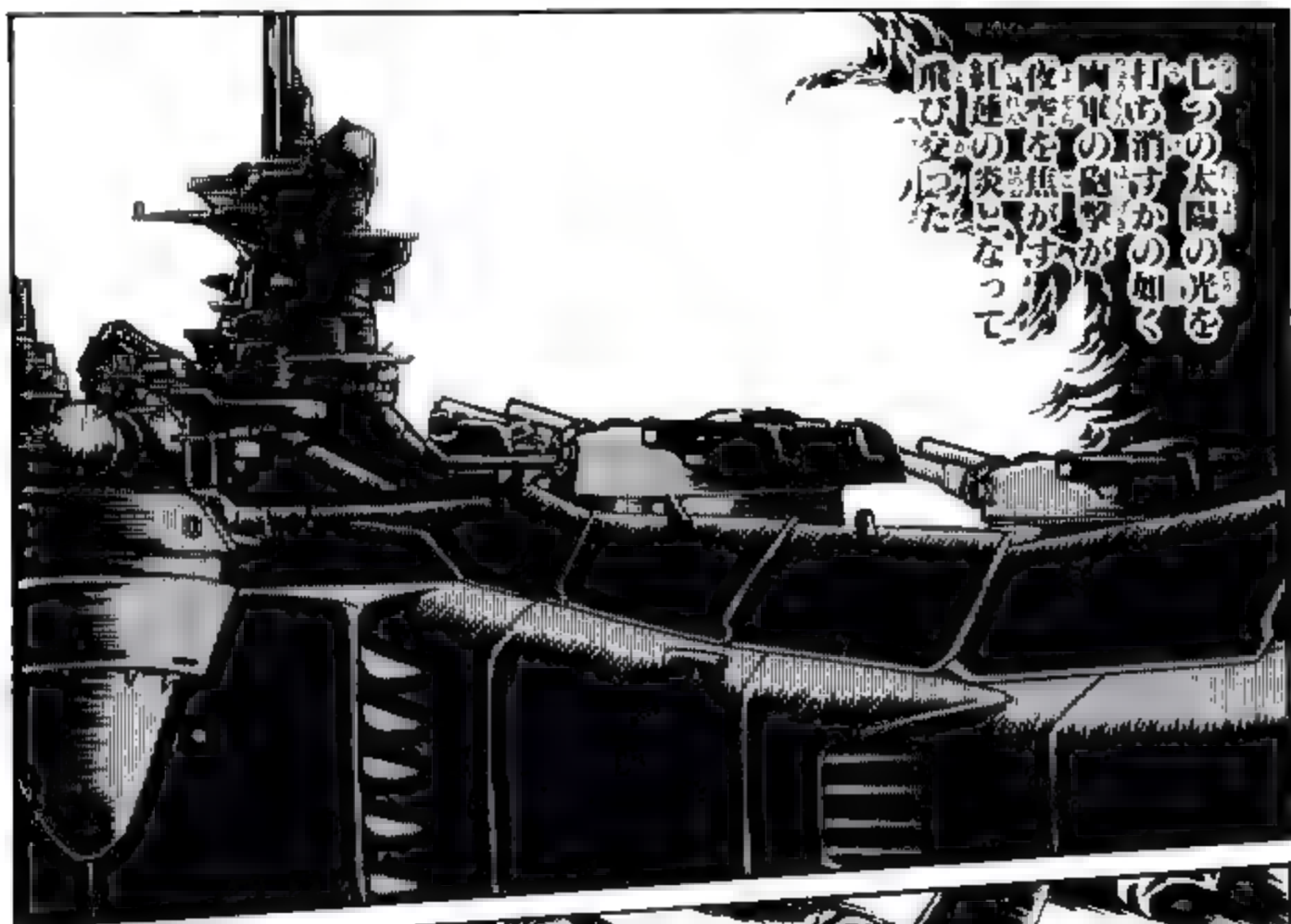




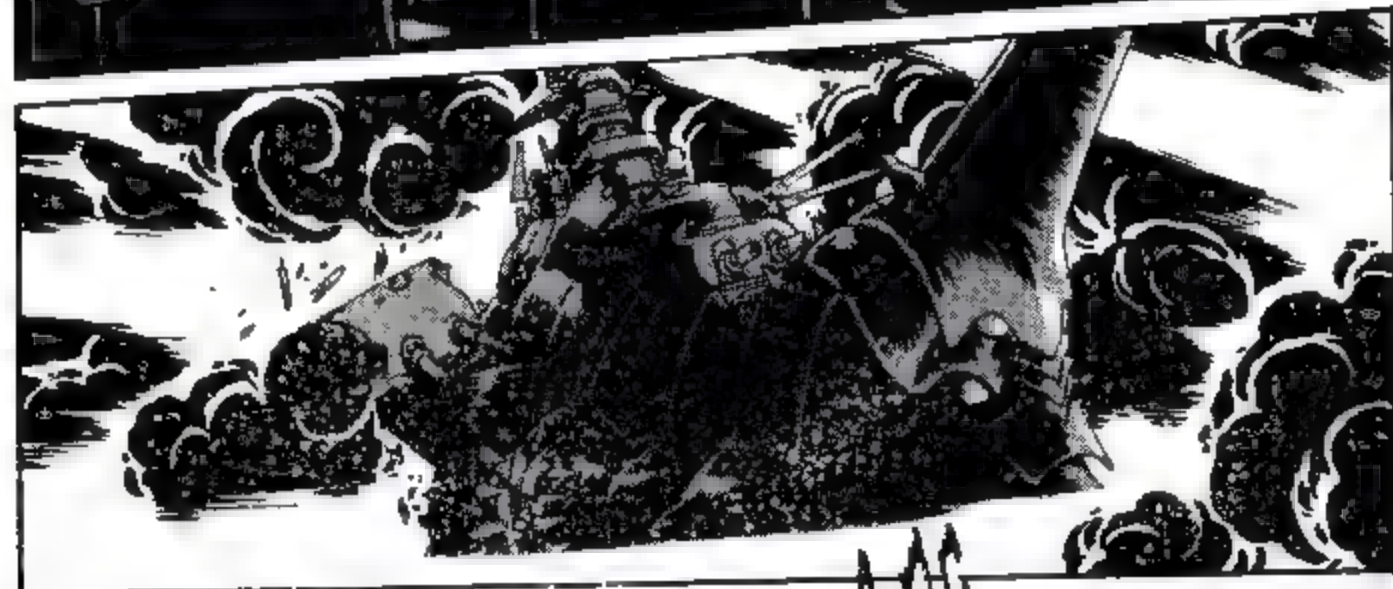


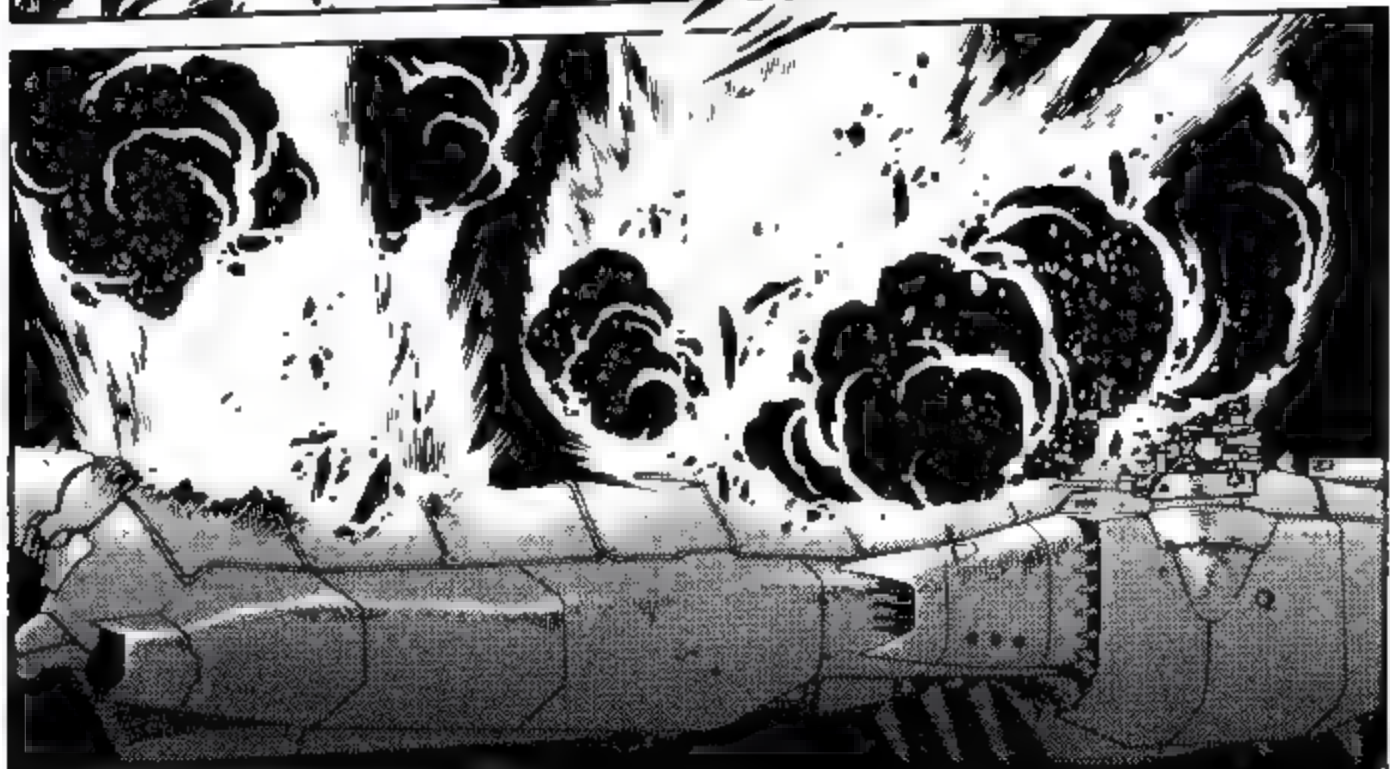
敵左翼に
集中砲火を
浴ひせよ

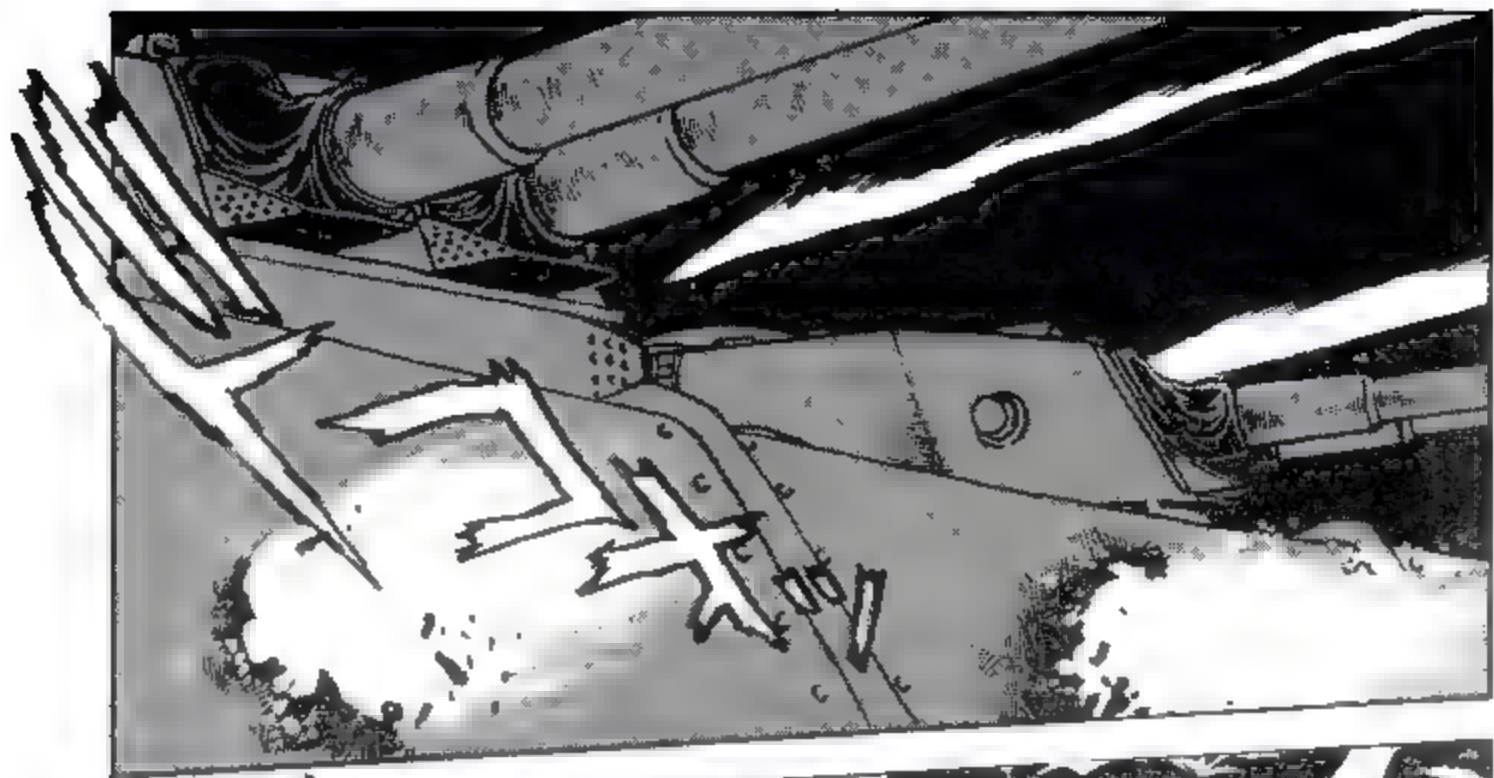




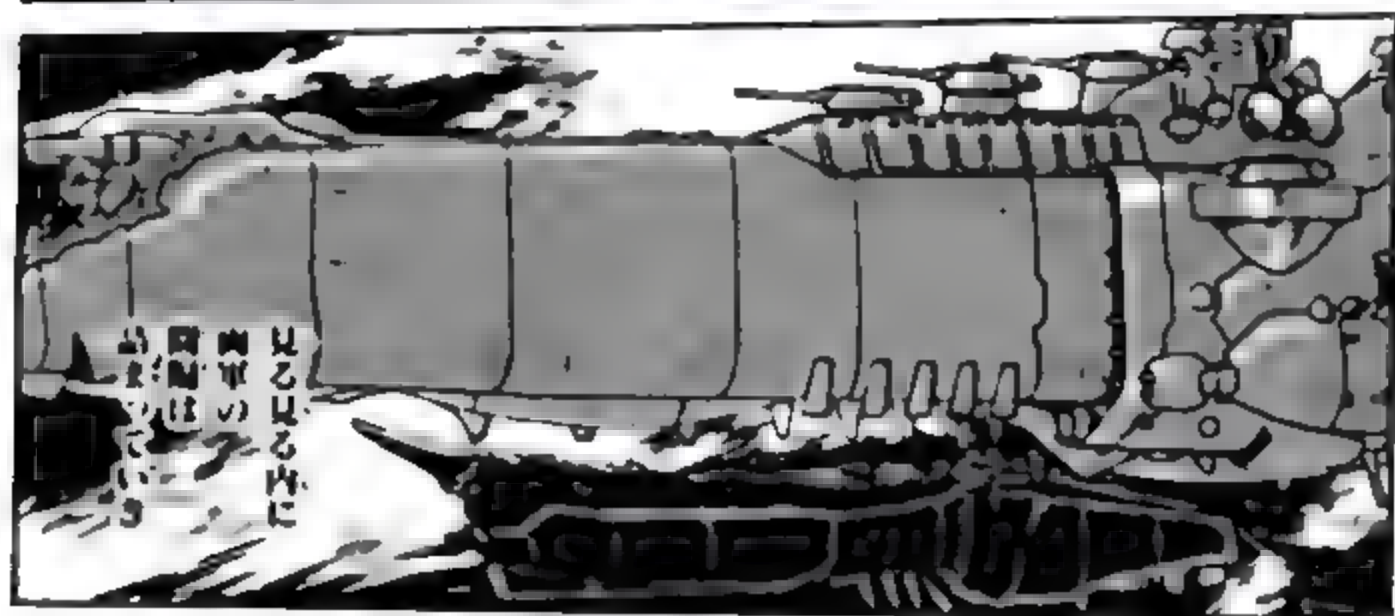
七つ
の太
陽の
光を
打ち
消す
かの
如く
軍の
砲撃
が
夜空
を焦
がす
紅蓮
の炎
にな
って
飛び
交つ
た

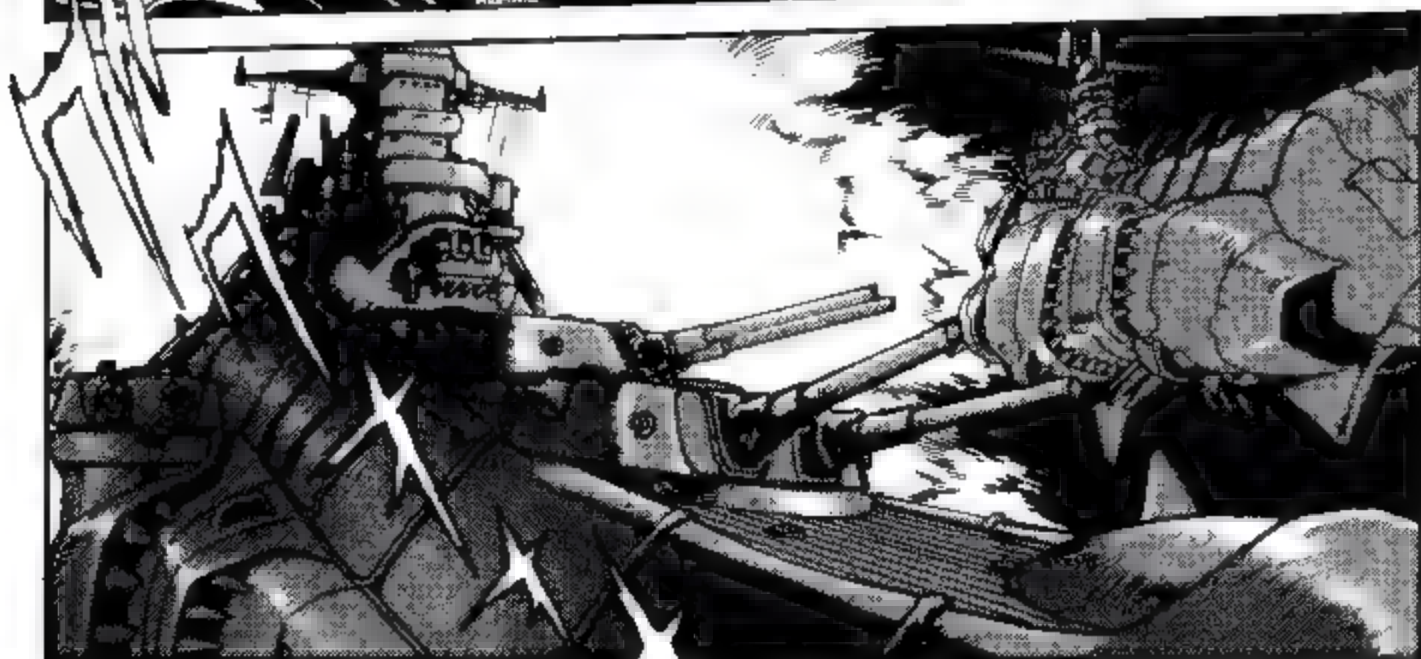
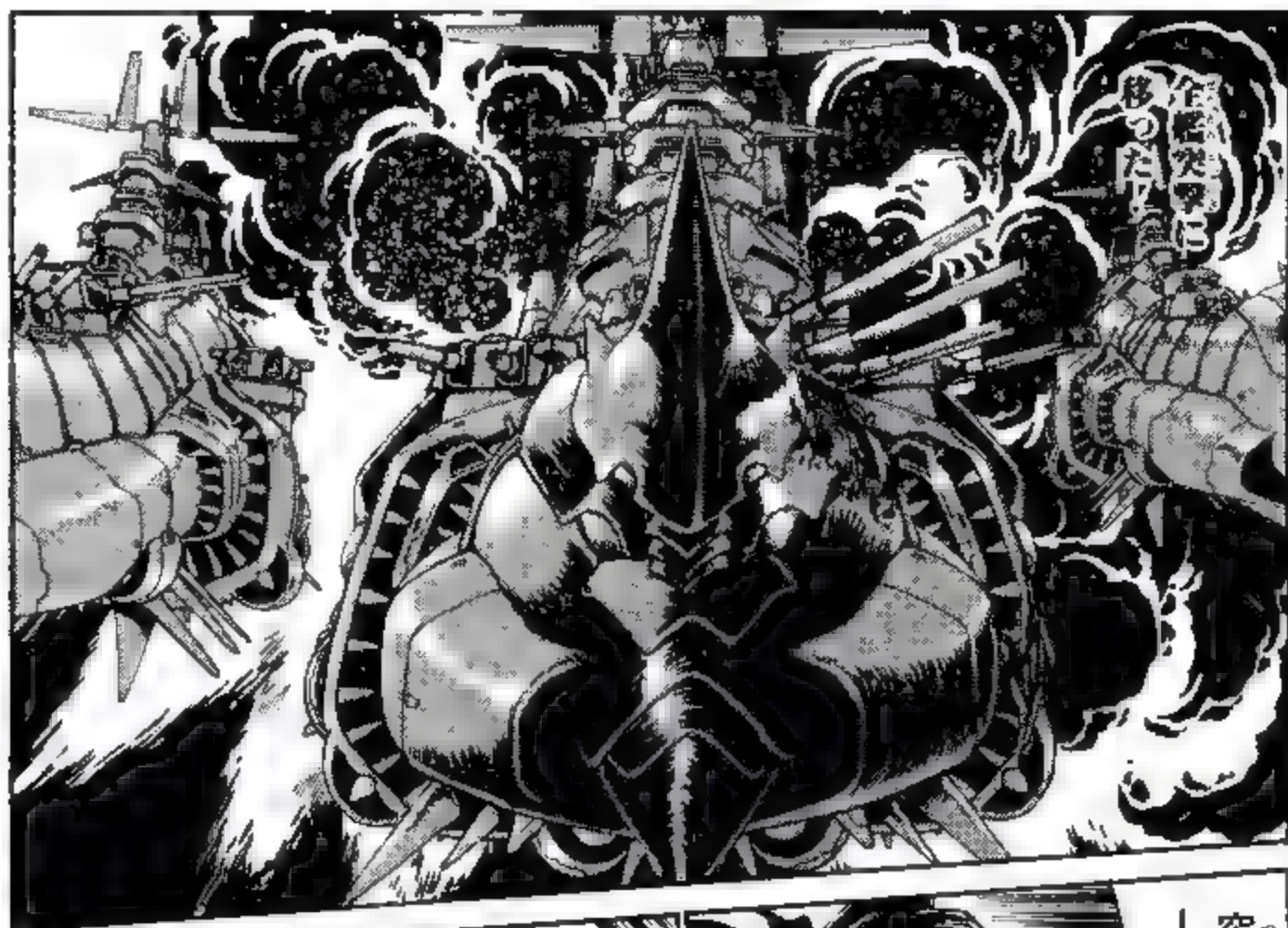




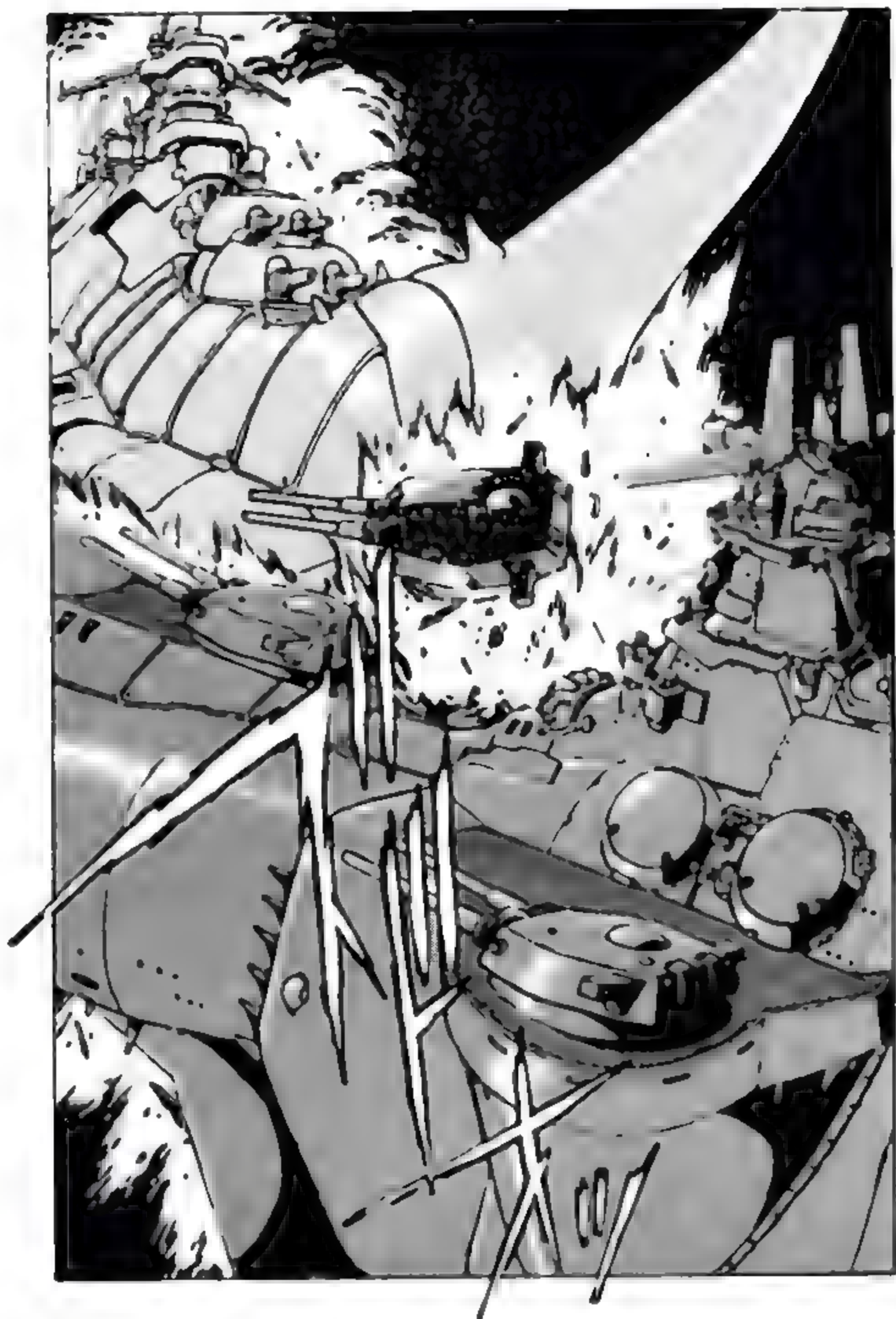












闘いはただ一つ信じるもののために！



闘いはただ一つ愛する者のために！



忘れることのできない男と男の出会いが……



闘いをさらに熱くしていく……



限りなき大銀河に立ち上がる獅子たち……

全銀河に吹き荒れる鋼鉄の嵐。切り開かれる天下霸道への道。

わしは
兄上を裏切らん

兄上の狂気の
果てに
わしの求めるものが
あるかも知れないのだ

返り血を浴び戦塵を払ういとまもなく男たちは駆け巡る。

わしは
竜我様と共に
夢を見たいのだ

燃える荒波に放たれた竜の如く。知と知、武と武がぶつかり合い……

智王には
あの竜我の
押しすすめる
法智国家の矛盾に
お気付きに
なられませんか

やがて来る新帝国のための血みどろな礎を築き上げる。

美人計……
とでも申し
ましようか

ついに雷と狼刃が激突!

第10巻を待て!!

Dengeki Comics
電撃コミックス

銀河戦国群雄伝ライ⑨

1994年3月10日 初版発行
1994年8月25日 5版発行

著者 **真鍋譲治**

発行者 **角川歴彦**

発行所 **株式会社メディアワークス** 〒101 東京都千代田区神田神保町2-22-11 カンナビル 電話03-5276-2433(編集)

発売元 **株式会社主婦の友社** 〒101 東京都千代田区神田駿河台2-9 電話03-3294-1130(営業)

装丁 **朝倉哲也+design CREST**

印刷・製本 **大日本印刷株式会社**

©JOJI MANABE 1994

本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3269-5784)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出/月刊電撃コミックGAO/'93年5月号〜7月号、'93年11月号〜12月号、'94年1月号(メディアワークス刊)

ISBN4-07-300920-6 C0379

TVアニメ放映中!

制作スタッフ

総 監 督：奥田誠治(おくだせいじ)
シリーズ構成：鳥海尽三(とりうみじんぞう) 鳳凰房・企画室
キャラデザイン
作画監督：高鉾 誠(たかほこまこと)
作画監督：華房泰堂(はやぶさやすたか)
メカデザイン：渡部 隆(わたべたかし)
寺岡健司(てらおかけんじ)
美術監督：中村光毅(なかむらみつぎ)
音響監督：本田保典(ほんたやすのり)
音 楽：和田 薫(わだかおる)

TVアニメ情報

TV東京系全国6局ネット(TV北海道、宮城TV、TV愛知)
TV大阪、TVせとら、TV九州)
7時30分に絶賛放映中

で毎週金曜日午後6時30分～